

ASAHI KASEI HOMES CORPORATION

旭化成ホームズグループ

# Sustainability Report 2024

# INDEX

|                   |    |                    |    |
|-------------------|----|--------------------|----|
| 目次                | 01 | With Employee      | 51 |
| これまでの歩み           | 02 | ダイバーシティの推進         | 53 |
| 編集方針              | 03 | 生産性の向上             | 56 |
| トップメッセージ          | 04 | 人財の確保と育成           | 58 |
| サステナビリティ推進体制      | 06 | 労働安全衛生の確保          | 61 |
| サステナビリティ方針        | 06 | 高品質で安全な製品の提供       | 66 |
| サステナビリティ推進体制      | 07 | Our Integrity      | 69 |
| マテリアリティ特定プロセス     | 08 | コンプライアンス経営の推進      | 72 |
| マテリアリティ           | 09 | 情報セキュリティの確保と個人情報保護 | 75 |
| 特集:RE100の取り組み     | 10 | サプライチェーンマネジメントの強化  | 77 |
| With Customer     | 21 | ステークホルダーエンゲージメント   | 78 |
| 社会課題の解決に貢献する商品開発  | 23 | コーポレートガバナンス        | 82 |
| 安全・安心な街づくり        | 26 | 社外からの評価            | 84 |
| 防災・減災への貢献         | 31 | 第三者意見              | 88 |
| 知的財産権の有効活用        | 33 | 環境データ              |    |
| With Environment  | 35 |                    |    |
| 気候変動の緩和・気候変動への適応・ | 39 |                    |    |
| エネルギー消費量の削減       |    |                    |    |
| 持続可能な資源の利用        | 46 |                    |    |
| 生物多様性の保全          | 49 |                    |    |



## これまでの歩み

旭化成ホームズグループは、創業時より「長持ちする住宅」や「社会ニーズに合った住まい方の提案」など、事業を通じて環境や社会に貢献してきました。その想いは今も引き継がれています。





## 編集方針

本レポートは、旭化成ホームズグループのサステナビリティ方針に基づく活動等について、ステークホルダーの皆様に広くご理解いただくことを目的としています。報告テーマの選定にあたっては、当社が設定している「マテリアリティ」を前提としています。

### 参考とするガイドライン等

- ☐ 環境省「環境報告ガイドライン2018」
- ☐ ISO26000：2010
- ☐ GRIスタンダード

### 対象期間

2023年度（2023年4月～2024年3月）  
なお定性的な情報に関しては、2024年4月～7月の情報についても一部掲載しています。

### 想定している読者対象

お客様・お取引先様・地域社会・行政・社員・  
NGO・NPOなどステークホルダーの皆様

### 対象報告範囲

旭化成ホームズ株式会社  
旭化成不動産レジデンス株式会社  
旭化成リフォーム株式会社  
旭化成ホームズコンストラクション株式会社  
※2024年4月に旭化成住宅建設株式会社とAJEX株式会社が統合  
旭化成ライフライン株式会社  
旭化成住工株式会社  
旭化成ホームズフィナンシャル株式会社  
旭化成設計株式会社  
旭化成ホームズ少額短期保険株式会社  
リーシュライフケア株式会社  
株式会社コネプラ  
旭化成不動産コミュニティ株式会社  
旭化成不動産サポート株式会社  
旭化成住工ベトナム有限責任会社（AJV）  
NEX Building Group  
Synergos Companies  
台灣旭化成都市開發股份有限公司



## トップメッセージ

財産である社員の成長を事業の成長につなげ、  
社会から必要とされる  
Essential Companyを目指します

旭化成ホームズ株式会社

代表取締役社長

川畑 文俊



### 創業から息づいているサステナブルな社会への想い

素材メーカーであった旭化成が住宅づくりという新たな事業領域に進出したのは、今から52年前の1972年です。旭化成にとって住宅事業やB to Cの市場など未経験の分野に飛び込んだことから、事業の立ち上げは当時、大きな挑戦でした。それでも、大きな一歩を踏み出す決意をしたのは、旭化成の創業から変わらぬ“人びとがよりよい生活を実現できるように”という想いがあったからに他なりません。当時は、国内の住宅が不足しており、建物の品質も現在ほど高いものではありませんでした。そこで、当社は「素材メーカーならではの頑強で堅牢な住宅づくりで社会に貢献すること」を目指して、住宅事業をスタートしました。

1970年代においては、家は30年程度で建て替えるものといった風潮があり、旭化成ホームズの“頑丈で長持ちする家づくり”は、当時の住宅業界のトレンドとは少し異なっていたかもしれません。しかし、50余年が経った今、世界中がサステナブルな社会を目指しており、当社グループの「ロングライフ住宅」に寄せていただくお客様や社会からの期待は、非常に高まっていると感じています。先輩方が50年以上前に抱いた「日本の住宅を吾等の力で向上させる」という想いと志を引き継ぎながら、私たちはサステナブルな暮らしを社会に提案し続けていきたいと思っています。

### ビジネスを成長させ続けることで、持続可能な社会貢献を

私たちが持続可能な社会貢献を実現していく上で、事業の継続的な成長は不可欠です。2024年度は、当社グループが掲げる「Challenge & New Growth」を基本方針とする中期経営計画の最終年度となりますが、3年連続で過去最高の売上と利益を更新しています。また、すべての事業で黒字を継続しており、2017年から豪州、北米で展開している海外事業も着実に成長しています。お客様の満足度についても、2020年度以降は、入居時・1年時・中長期・リフォームとすべての指標が右肩上がりとなっています。これらの成果は、建築請負からアフターメンテナンス、リフォーム、不動産仲介、賃貸管理、金融・保険までサービスを提供できる旭化成ホームズグループのバリューチェーンを強化することで生まれています。

そして、この原動力となっているのが、社員の努力と成長です。創業時から「人財の成長＝事業の成長」という考えを大切にしてきましたが、コロナ禍に直面しても社員一人ひとりがビジネスと働き方の変革に柔軟に対応し、お客様の期待に応え続けたことが、まさに事業の成長につながっていると実感しています。そして、2030年のあるべき姿「Vision for 2030」の第1ステップとして掲げた「2025年に売上高1兆円」の達成に向けて、着実に前進できていると感じています。

## 4つのテーマからなるマテリアリティについて

旭化成グループでは、2017年度に取り組むべき重要課題・テーマを「旭化成グループのマテリアリティ」として特定しました。当社でもサステナビリティ委員会において重要課題の検討を行い、「With Customer」「With Environment」「With Employee」そして「Our Integrity」という4テーマからなるマテリアリティを2023年度に特定しています。

4つのテーマの中で、With CustomerとWith Environmentを象徴する取り組みが、ヘーベルハウスやヘーベルメゾンの屋根で太陽光発電した余剰電力を買い取る「ヘーベル電気」のサービスです。お客様から買い取った電力を施工現場等の事業活動で使用する電力に活用することで、当社グループは「RE100」の目標達成に取り組んでいます。当初は2038年度の達成を見込んでいましたが、お客様から当初の想定以上の電力買取の契約をいただくことで、2023年度に大幅に前倒して目標を達成できました。これは、旭化成ホームズグループの社員がこれまでに安全で快適な住まいづくりに真摯に向き合い、定期メンテナンスやHEBELIAN NET.（HEBEL HAUSのオーナー様サイト）などを通じてお客様と築いてきた信頼関係の証であると感じています。ヘーベルハウスやヘーベルメゾンのお客様と一緒に環境に貢献するこの取り組みは、当社グループならではのサステナビリティ活動であり、With CustomerとWith Environmentを連動させることができたと考えています。

With Employeeについては、これまでもさまざまな取り組みを実施していますが、より一層注力していかなければならないと感じています。先ほどお話しした通り、当社の価値創出の源泉は「人」です。多様な人材が成長・活躍し、幸せを実現するために、働き方改革やDXをはじめとするオフィスなどの環境整備、在宅・フレックス等の勤務形態の柔軟化をさらに推進し、社員一人ひとりが理想のキャリアを歩んでいくための支援を続けていきたいと考えています。また、旭化成グループは「健康経営優良法人2024～ホワイト500～」の認定を受けていますが、71項目の指標を設けて組織状況を診断する「活力と成長アセスメント（KSA）」やストレスチェック（e診断）などを活用しながら、今後も社員の健康と心理的安全性が確保された職場環境づくりに努めていきます。そして、社員と組織の活性化の土台として、ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョンの取り組みも推進していかなければなりません。この点に関しては、制度の充実だけではなく、制度を利用しやすい環境をつくっていくことが重要であり、多様性についての理解浸透や管理職登用に関する意識改革を進めています。私自身もキャリア採用の社員との座談会を企画・開催したり、他の役員も各事業本部を訪問するなどして、積極的に社員の声を聴く機会を増やしています。当社の強み・課題がどこにあるのかを把握する良い機会になっています。

最後のOur Integrityには、「誠実」「真摯」といった意味があり、具体的にはコンプライアンスや情報セキュリティ、社会貢献などの取り組みを指します。これらは事業を行う上での大前提であり、3つのマテリアリティのテーマの基盤となります。社会課題は日々変化するものですが、いかなるときにも重要であるのは誠実に事業を継続することだと考えます。事業領域やサプライチェーンが拡大していく中でも、創業から脈々と受け継がれてきた誠実さ・真摯さを盤石なものにしていくため、Our Integrityをマテリアリティに掲げています。

## 社会から必要とされるEssential Companyに向けて

当社が目指すありたい姿は、「お客様や社会、社員にとって真に価値のある会社、Essential Company」です。優良な企業として認められるだけでなく、お客様から感謝していただける、世の中から必要とされる会社を私たちは目指していきたくと思っています。

ありたい姿にある「価値」とは、財務・非財務の双方の価値を意味します。財務面では堅調な成長を遂げており、計画も順調です。この状況を維持しながら、非財務における価値向上も目指していきます。そこでカギとなるのは、やはり社員の力です。先ほどお話ししたキャリア採用の社員との座談会で、当社グループの印象を必ず聞くのですが、「皆さん本当に“お客様のために”働いている」「質問をすると、必ず手を止めて向き合って相談に乗ってくれる」という声がいくつもあがってきます。そんな話を聞いて、私は改めて旭化成ホームズグループの財産と誇りは、人であると実感しました。だからこそ、社員がさらなる成長をしていけるように、スキルアップやコミュニケーション活性化の仕組みづくりや環境を構築するための投資を惜しまず、続けていきたくと思っています。

社員一人ひとりが自身の価値を高めて、お客様や社会への貢献度を高めていく。その積み重ねによって、私たちの考えるEssential Companyを実現していきます。



## サステナビリティ推進体制

### 推進体制とマテリアリティ

サステナビリティ方針



サステナビリティ推進体制



マテリアリティ  
特定プロセス



マテリアリティ



#### サステナビリティ方針

## 永く愛され続ける企業へ

私たちは、時代のニーズを的確にとらえ研究し、新しいくらしや住まいを提案し続けてきました。その中で生まれた「LONGLIFE」という言葉は、事業活動やかかわる人々すべてが永続的に幸福であることを表しています。私たちは、お客様へ商品・サービスを通じて快適な生活を将来にわたって約束することおよび、それらを生む当社やバリューチェーン全体の関係者の期待に応え、信頼される存在でありたいと願っています。私たちは、人びとに必要とされ、感謝され、愛され続ける企業を目指します。

01

事業を通じた  
社会的価値の創出  
(新たな価値の創出)

「LONGLIFE」を軸とした“いのち”“くらし”“人生”に関わるさまざまな商品やサービスを通じて、人びとの安全・安心を守り、環境への配慮を行い持続可能な社会の形成に貢献します。

02

誠実な業務遂行

法令および社会的な規範を含む企業倫理を遵守し、誠実な姿勢で責任を持って業務を遂行します。

## 03 人権の尊重

バリューチェーン全体におけるステークホルダーの全ての皆さまの人権を尊重し、あらゆる差別を認めません。

## 04 環境への配慮

事業活動において環境に対する負荷を軽減するとともに、自然との共生を実現するための活動を積極的に進め、次世代に豊かな地球環境を引き継ぎます。

## 05 人財を活かす 安全で安心な職場の構築

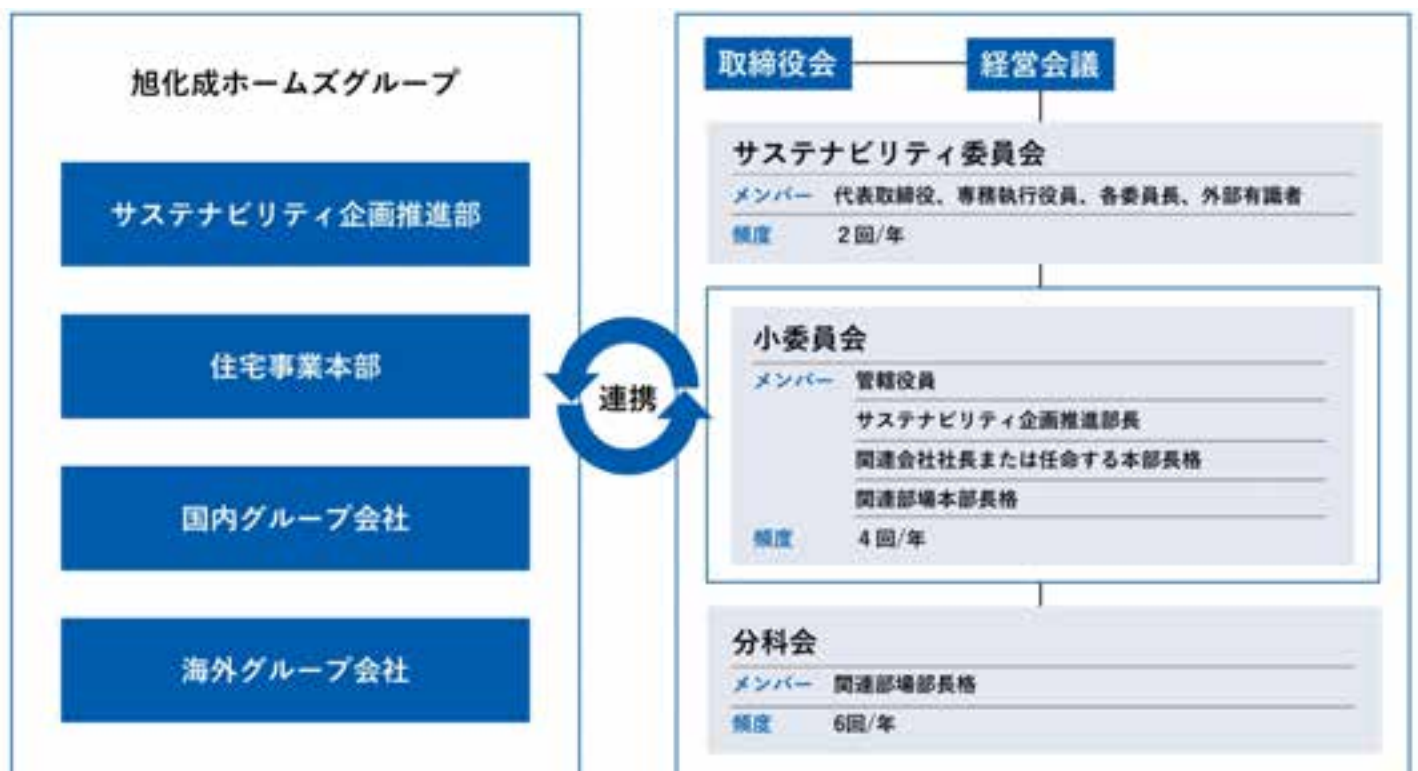
多様な人財が活躍できる育成体制を構築し、公正で公平な雇用関係の維持をベースとして、安全で健康的な、働きがいのある職場づくりを目指します。

## 06 社会とのコミュニケーション 促進と協働

情報開示を含む社会とのコミュニケーションを促進し、多様なステークホルダーの皆さまと共に当社の知識や経験を活かした社会貢献活動を積極的に行います。

### サステナビリティ推進体制

サステナビリティ委員会は、サステナビリティにかかわる方針を決定する機能を持ち、小委員会、分科会ではそれに基づいて提案、提言、具体的な取り組みを推進・実行します。取締役会、経営会議では、サステナビリティ委員会での決定事項や活動進捗の報告、非財務における経営戦略上重要だと考えられる事項の承認を実施します。





## マテリアリティ特定プロセス

## Step 1 社会課題の洗い出し

- 参考とする ESG/ サステナビリティガイドライン等の整理
- 各テーマごとの社内ヒアリング

## Step 2 一次スクリーニング

- 多くの課題の中から貴社と関連性の高いものをスクリーニング
- マテリアリティ候補の絞り込み

## Step 3 評価基準の作成

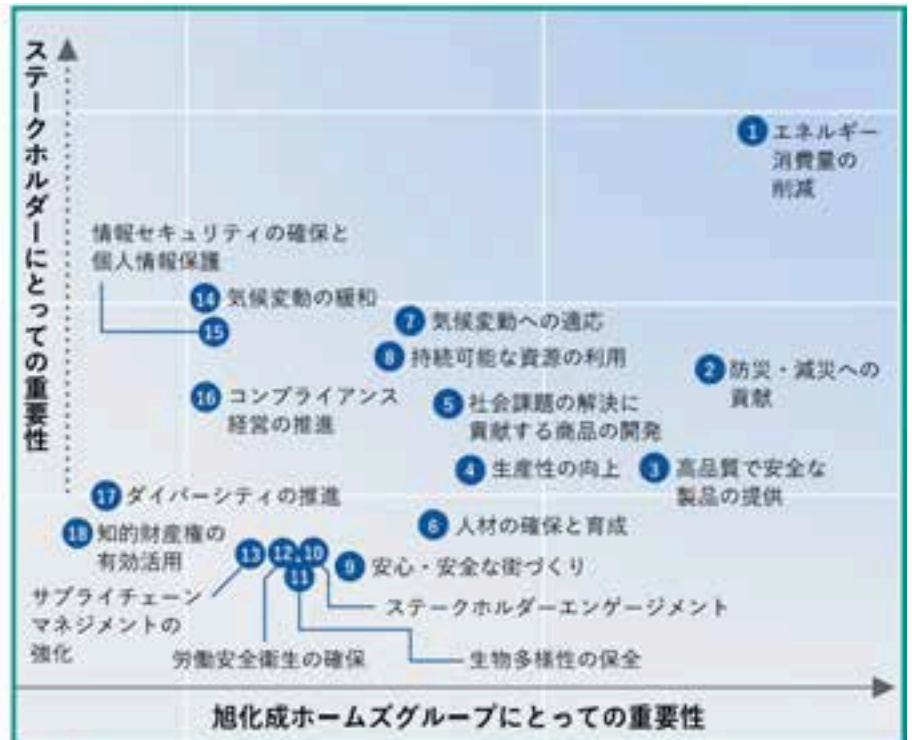
- 評価基準の作成
  - ・ 自社からみた重要性
  - ・ ステークホルダーからみた重要性

## Step 4 評価実施

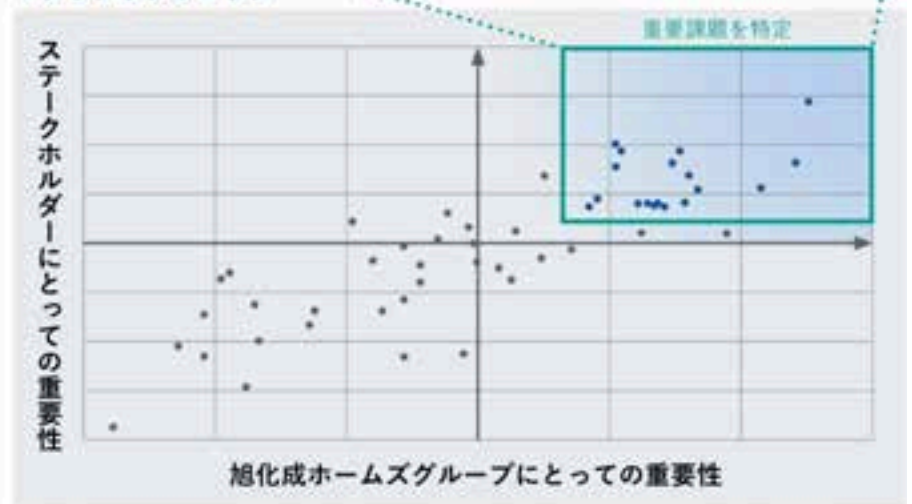
- 評価の実施
  - ・ 前ステップで作成した評価基準によって、プロジェクトメンバーによる評価の実施（場合によっては他メンバーも参画）
  - ・ 評価のバラツキを調整しつつ、評価基準を見直しつつ、評価を実施

## Step 5 特定・マッピング

- マテリアリティの特定と承認
  - ・ 評価結果における妥当性確認を、経営層へ上程
  - ・ 必要に応じて外部の専門家へ意見聴取



## マテリアリティマップ



## マテリアリティ

特定したマテリアリティは、4つのテーマでまとめました。「With」にはお客様・地球環境・従業員と共に社会課題を解決していくという想いを込め、基盤となる「Our Integrity」は誠実に事業活動を行うという私たちの姿勢を示しています。旭化成ホームズグループは事業を通じて社会課題の解決に貢献し、LONGLIFEの実現を目指します。



| テーマ                                                                                                                                                       | マテリアリティ                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <p><b>With Customer</b></p> <p>LONGLIFEな商品・サービスの提供による事業を通じた社会への貢献</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会課題の解決に貢献する商品開発</li> <li>安全・安心な街づくり</li> <li>防災・減災への貢献</li> <li>知的財産権の有効活用</li> </ul>                    |
|  <p><b>With Environment</b></p> <p>豊かな地球環境の保全とより良い環境の創造</p>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動の緩和</li> <li>気候変動への適応</li> <li>エネルギー消費量の削減</li> <li>持続可能な資源の利用</li> <li>生物多様性の保全</li> </ul>           |
|  <p><b>With Employee</b></p> <p>多様な人材が成長・活躍し、幸せを実現できる職場づくり</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>ダイバーシティの推進</li> <li>生産性の向上</li> <li>人財の確保と育成</li> <li>労働安全衛生の確保</li> <li>高品質で安全な製品の提供</li> </ul>          |
|  <p><b>Our Integrity</b></p> <p>誠実な事業運営を通じて信頼を築く</p>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス経営の推進</li> <li>情報セキュリティの確保と個人情報保護</li> <li>サプライチェーンマネジメントの強化</li> <li>ステークホルダーエンゲージメント</li> </ul> |



## 特集

## RE100の取り組み

RE100とは？

旭化成ホームズグループの  
RE100達成までの歩みRE100の達成に込めた  
お客様への想い旭化成ホームズグループが  
つなぐ「環境貢献」の輪

RE100でつながる事業



私たちとRE100



## RE100とは？

「RE100」は、事業活動で使う電力を100%再生可能エネルギーで賄うことを目指す世界的な企業連合です。参加する企業は2050年までの間に設定した目標年に向けて、使用するすべての電力を再生可能エネルギーに替えること、進捗状況と実績を毎年報告することなどが求められます。「RE100」の取り組みを通じて、エネルギー市場に影響力のある企業が事業活動で使う電力を再生可能エネルギーに早急に切り替える姿勢を示すことで、再生可能エネルギー市場の拡大に大きな影響を与えます。


[▶ CLIMATE GROUP RE100](#)

「RE100」の2023年報告<sup>※1</sup>では、全世界での参加企業数が400社を超え、参加企業における電力使用量は世界の発電量の1.7%に相当する規模と記されています。日本からの参加企業も年々増えており、2024年3月時点では86社に及びます。参加企業数が続々と増えている一方、2023年報告でRE100（Renewable Electricity 100%）を達成した企業数は世界で33社ほどであり、うち日本企業は2社のみ<sup>※2</sup>となっています。

※1 RE100 2023 Annual Disclosure Reportより

[▶ RE100 2023 Annual Disclosure Report](#)

※2 2023年報告（2022年実績）に基づく数であり、2021年以前の実績及び2023年実績の達成企業数を示すものではありません



## 参加企業数の推移



グリーン・バリューチェーンプラットフォーム内「RE100概要資料」にて、環境省事務局による [RE100ホームページ](#)等をもとに作成された資料を再編集

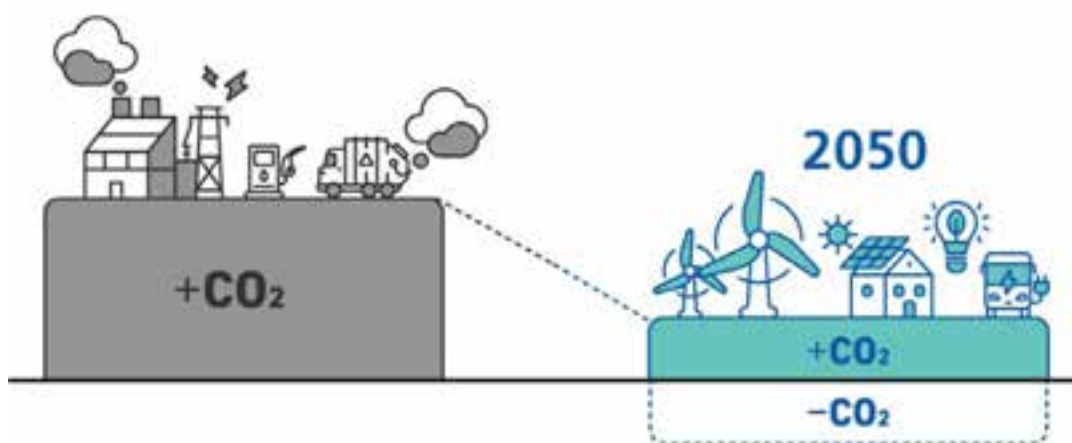
▶ [グリーン・バリューチェーンプラットフォーム](#) | [環境省](#)

## 旭化成ホームズグループのRE100達成までの歩み

## カーボンニュートラルの実現に向け、2019年に「RE100」へ参加

近年、地球では深刻な被害を及ぼす自然災害が頻発しており、気候危機への対応が喫緊の課題となっています。その対策の「カーボンニュートラルの実現」は、世界共通の目標となっており、日本でも2050年までのカーボンニュートラルの実現を目指しています。旭化成ホームズグループは、カーボンニュートラルの実現へ貢献する一つの手段として、2019年9月に「RE100」へ参加しました。

## 2050年に実現を目指すカーボンニュートラル社会



## HEBEL HAUSの屋根で発電した電力で、RE100を目指す

旭化成ホームズグループが設計・施工・維持管理等を行う戸建住宅「ヘーベルハウス」および賃貸住宅「ヘーベルメゾン」では、多くのお客様に太陽光発電設備を設置いただいています。HEBEL HAUSに設置された太陽光発電設備の年間発電総量は、RE100に参加した2019年時点で360GWh以上に達しており、2018年度の旭化成ホームズグループの事業活動で使った電力量約33GWhを優に超えていました。これらの太陽光発電設備は、国のFIT制度<sup>※3</sup>で設置から10年間は余剰電力の買い取り価格が保証されていますが、この期間を終了（＝卒FIT）すると買い取り価格は大幅に下がります。旭化成ホームズでは、「ヘーベル電気」の事業を通じて「卒FIT」の太陽光発電設備の余剰電力をお客様から買い取り、RE100の達成に向けて活用しています。

### 「ヘーベル電気」の卒FIT買い取りと活用のイメージ

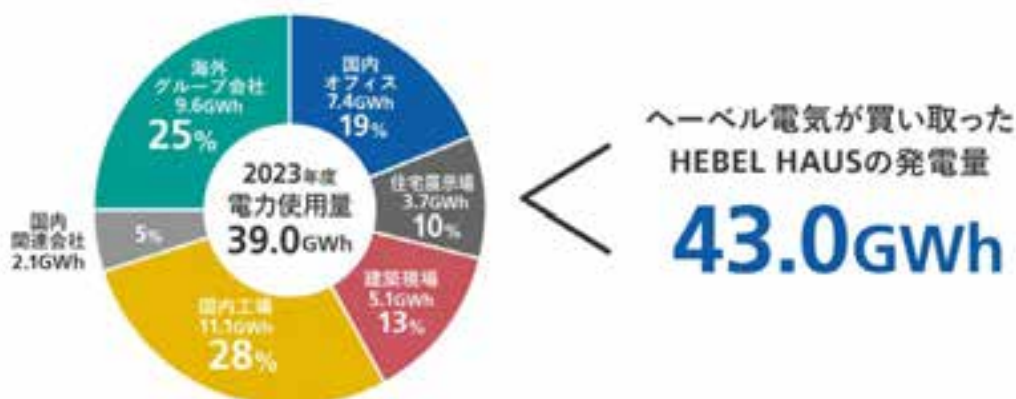


※3 再生可能エネルギーの固定価格買取制度（Feed-in Tariff）

### 「ヘーベル電気」が買い取った電力で、2023年度にRE100を達成

2023年度、海外を含む旭化成ホームズグループすべての事業活動で使用した電力量は約39.0GWhでした。それに対し「ヘーベル電気」による余剰電力買取量は、事業活動で使用した電力量を超える約43.0GWhとなり、旭化成ホームズグループはRE100を達成しました。2019年の参加時点での達成目標2038年を大幅に前倒しした2023年度のRE100達成は、HEBEL HAUSを建築いただいたお客様、余剰電力の販売先として「ヘーベル電気」をお選びいただいたお客様など、私たちの事業活動を支えていただいた全ての皆様のおかげで実現できました。

### 2023年度の事業活動における電力量



## 海外事業を含む旭化成ホームズグループの電力使用量



## RE100の達成に込めたお客様への想い

### お客様と共に達成を目指すRE100

HEBEL HAUSに設置された太陽光発電設備の発電を活用したRE100の達成、そして持続可能な社会の実現を他でもないお客様と共に目指す背景の一つには、私たちの創業当初からの想いである「世代を超えて住み継がれる住宅の提供」があります。

旭化成ホームズが創業した1972年当時、日本の住宅の寿命は短く、私たちはそのことに社会的な課題を感じていました。「世代を超えて住み継がれる住宅の提供」すなわちLONGLIFEな住宅を提供することが社会的な課題の解決につながると信じて、強靱で長寿命な建物、住まい手のいのち・くらし・人生に寄り添うサービスを提供してきました。事業を続けるなかでは、お客様の声をもとにした新たな商品の開発やサービスの拡充など、お客様と共に事業を成長させてきました。RE100についても例に漏れず、お客様と共に達成することを念頭において取り組みを開始しました。

### 旭化成ホームズグループの歴史

1972



1998



1999



ALCコンクリートによる世界初のシステム住宅「ヘーベルハウス」販売開始。



半世紀を超えてお客様の満足が持続する住まいづくり「ロングライフ住宅の実現」を宣言。



後の業界標準となる中古住宅の査定システムを策定。ストックヘーベルハウス事業開始。

2007



2019



2022



外壁塗り替えの期間を一気に伸ばす、30年耐用外壁吹付「ロングライフコート」を導入。



60年点検システムを無料化。以前に建てられた住宅も含め、すべてのHEBEL HAUSに適用。



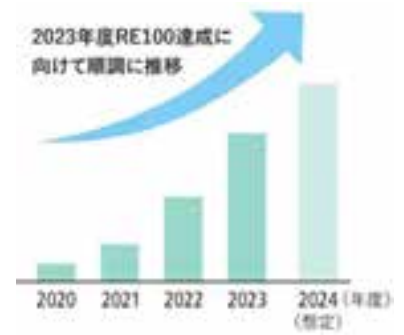
旭化成ホームズ創業50周年を迎え、さらなる未来のLONGLIFEの実現へ。



## RE100達成はお客様との信頼関係の証

RE100の達成において、再生可能エネルギーの調達先は企業にとって重要な課題です。その点旭化成ホームズグループは、事業活動で建築したHEBEL HAUSに多くの太陽光発電が設置されていること、「ヘーベル電気」に電力買取の事業があることから、再生可能エネルギーの調達先を確保する糸口がありました。一方で、HEBEL HAUSで発電した電力をどこに販売するかはお客様の選択によるところですが、当社に売電をしてくださるお客様は予想以上であり、これは、旭化成ホームズグループが多岐にわたる事業活動の中で築いてきたお客様との強い信頼関係によるものと考えています。

## 卒FIT買取量の推移(GWh/年)



例えば、HEBEL HAUSの定期点検システムは1998年に業界に先駆けて導入しました。この点検システムはその後も改良・改善を重ね、2019年には業界初の60年間の無料点検システムとなりました。これにより、より永くお客様とのつながりを持つことができ、多くのお客様からの信頼を育むことができました。「建てるだけで終わらない。その先の未来も考える。」を実現するために充実させ続けてきた事業が、2019年度から始動した「ヘーベル電気」の太陽光発電買取サービス\*における堅調な買取量の増加にもつながったと考えています。RE100の達成は、まさにお客様との信頼関係の証と言えます。

※「ヘーベル電気」の太陽光発電買取サービス

▶ 「ヘーベル電気」の太陽光発電買取サービス [🔗](#)

## オーナー様に寄り添ったご案内をすることが 社会のためにもなる

旭化成ホームズ  
住宅事業関西・西日本本部  
岡山支店 ホームサービス課  
**大木 秀和**



ホームサービス課では、「60年無料点検システム」に基づき、定期的にオーナー様のHEBEL HAUSに訪問して点検を行っています。FIT期間が満了するのは制度適用から10年後であり、ほとんどのオーナー様にとって満了を迎えるのは初めての体験です。そのため、オーナー様の10年目点検訪問日のアポイント取りの際には、「ヘーベル電気」の取り組みについてあらかじめお伝えするなど、特に丁寧なご案内を心掛けています。

「ヘーベル電気」の太陽光発電買取サービスでは、高水準な買取価格だけでなく、関連設備の保証期間も5年間無料延長されます。RE100達成において非常に重要な太陽光発電買取サービスですが、オーナー様にもメリットがあるサービスだからこそ、積極的にご加入のご案内を行っています。たくさんのお客様に太陽光発電買取サービスをご契約いただくことで、旭化成ホームズグループのRE100の達成につながり、それが環境貢献にもなる。そう認識してからは、オーナー様のためはもちろん、すべての人がくらす社会のためにもなると思って、サービスのご案内を行っています。

## 旭化成ホームズグループがつなぐ「環境貢献」の輪

RE100の取り組みでは、旭化成ホームズグループで使用する電力として、これまでに建築されたHEBEL HAUSでお客様が作り出す再生可能エネルギーが、間接的に新たに出会うお客様に届けられます。私たちはこの取り組みを通じて、大切なお客様が生み出した価値を、新たなお客様・旭化成ホームズグループに関わるすべての人へと丁寧につないでいます。

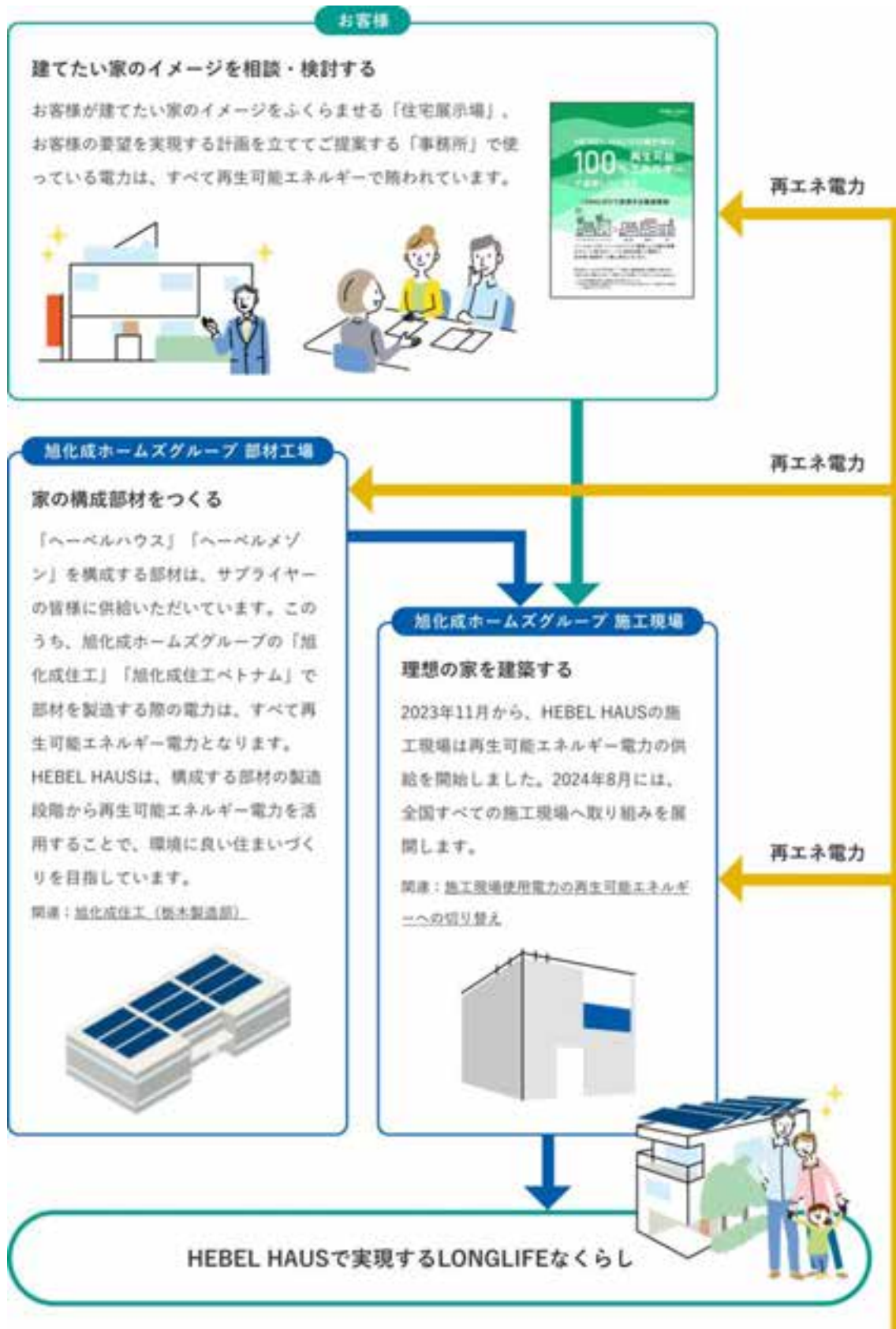
旭化成ホームズグループを介してお客様からお客様へとつながる、この「環境貢献」の輪を大きく広げていくことで、私たちは事業だけでなく、人と社会、地球環境のLONGLIFEの実現を目指していきます。

## 将来にわたり旭化成ホームズグループがつなぐ「環境貢献」の輪



## RE100でつながる事業

HEBEL HAUSを建築する計画から工事まで、私たちが事業活動で使う電力はすべて再生可能エネルギーで賄われています。この再生可能エネルギーは、HEBELIAN NETや各種アフターサービス活動など、お引渡し後もお客様に寄り添い続けるさまざまなサービスを通じて得られたものです。このようにして、HEBEL HAUSの事業はRE100を通じてつながります。



## 支えるのは…



もしもの災害にも安心な  
サポートシステムが  
家族のいのちを守る

HEBELIAN NETでは、お引渡し後のお客様とオンラインでつながることで、日々のくらしを幅広くサポートしています。もしもの災害時にも、必要な情報のお届けや建物の被害状況のご報告を受け付けられるなどの環境整備で、つながる安心をお届けしています。

関連：くらしの情報プラットフォーム「HEBELIAN NET（ヘーベリアンネット）」



高性能で長寿命な家が  
くらしを豊かにする

HEBEL HAUSでは、ALCコンクリート・ヘーベルと高性能断熱材を一体化させた二重構造で、長期にわたる高い断熱性能を実現します。快適な温熱環境でのくらし、そして再生可能エネルギー設備を搭載したZEH住宅でのくらしは、環境だけでなく、お客様の健康や万が一の災害時の安心にもつながります。

関連：ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンのZEH・ZEH-M



資産価値を守り続ける  
アフターサービスが  
人生を支える

60年無料点検システムをはじめとした建物のメンテナンスはもちろん、お客様のライフスタイルの変化に合わせたくらし方のご提案をするリフォーム事業など、お客様に永く住み続けていただくための仕組みが充実しています。

関連：アフターサービス活動。築40年以上HEBEL HAUSの外装メンテナンスの実施、リフォームで脱炭素社会の実現を推進。既存住宅への太陽光発電設備の設置

お客様



LONGLIFEなつながりが育む信頼から  
「ヘーベル電気」に太陽光発電を販売





## 私たちとRE100

旭化成ホームズグループで活躍する社員に、RE100を通じてつながる業務と環境貢献について聞きました。

### 新築工事担当

### 環境意識が高い子どもたちにも 誇れる「未来につながる」 家づくりの現場へ

旭化成ホームズ  
住宅事業神奈川本部  
技術部 厚木工事課

中島 大

工事担当は、お客様や職人さんをはじめ、工事に携わる皆さんとコミュニケーションをとりながら、営業・設計から引き継いだ図面をもとに現場を管理し、お客様にご満足いただける家を完成させます。入社してから、たくさんの職人さんと会話をしてきましたが、最近は環境問題への意識が高まっていることを感じます。私たちの時代より子どもたちの環境教育が進んでいることや、職人さんも私も自家用車を電気自動車に買い換えたことなど、日常的な会話でも環境問題が話題に上がることが増えてきました。

一方で、新たな環境貢献を業務の中で意識することは難しいと感じていましたが、RE100達成の仕組みはお客様も含めた身近な取り組みであることを知りました。建築現場に供給される電気は「ヘーベル電気」によって購入されたHEBEL HAUSの発電由来の再生可能エネルギーであり、これまで「ヘーベル電気」をお客様にご案内してきた自分の働きも、環境貢献につながっていたと感じて誇らしい気持ちになりました。

HEBEL HAUSは堅牢で災害に強いというイメージがすでに定着していますが、今後はRE100の達成を通じて環境貢献にも真剣に取り組んでいることを、お客様や職人さんにも伝えていきたいと考えています。建築現場からも「地球環境を未来につなぐため」の環境貢献をしたいです。





## リフォーム営業担当

変わりゆく環境のなかでも  
変わらない  
「HEBEL HAUSの良さ」で  
人生に寄り添う

旭化成リフォーム  
中部営業所 営業4課

荒井 知佳

私は今3人の子どもを育てていますが、小学6年生の長女は「世界の飢餓問題」を授業で学んで以来、食べ残しをしないようになりました。子どもが社会課題の解決に真剣に向き合っている姿を見て、私も社会課題の一つ、環境貢献を意識し出したと思います。

「RE100」は、これまでHEBEL HAUSを建築いただいたオーナー様方のご協力のおかげで達成できた環境貢献の取り組みです。私は以前新築請負の営業担当をしていたのですが、振り返ると、節目にはオーナー様に必ずご連絡をとるなど、長期的なつながりを大切に行動していました。その結果か、私が担当したオーナー様にも「ヘーベル電気」の太陽光発電買取サービスを契約してくださっている方がたくさんいて、私の働きが「RE100」の達成を含む環境貢献につながっていたのかもと考えると、とても嬉しく感じました。

昨今は電気代の高騰や激甚化する災害が大きな社会課題となっています。これらのくらしの不安を排除することと、環境への貢献を両立するためにも、リフォーム事業での太陽光発電設備や蓄電池の設置をさらに推進していきたいです。新築時にオーナー様が感じた「HEBEL HAUSの良さ=強靱な躯体」の安心感にレジリエントな設備を組み合わせ実現する「最高のシェルター」で、オーナー様の人生に末永く寄り添い続けていきたいです。



私たちは、創業以来、お客様のニーズにこたえ、安全・安心・快適な住まいの提供を通じて住まいの課題解決を追求してきました。これからも住まいやサービスを通じてお客様や地域社会の皆様に寄り添い、共に社会課題の解決に貢献していきます。

### With Customer

LONGLIFEな商品・サービスの提供による事業を通じた社会への貢献



| マテリアリティ                                                   | KPI                | 2023年度実績 | 2025年度目標 | 関連する取り組み                     |
|-----------------------------------------------------------|--------------------|----------|----------|------------------------------|
| 社会課題の解決に貢献する商品開発<br>安全・安心な街づくり<br>防災・減災への貢献<br>知的財産権の有効活用 | お客様満足度（入居時）        | 85.5%    | 85.0%    | 入居時のお客様満足（CS）向上              |
|                                                           | お客様満足度（中長期）        | 72.2%    | 75.0%    | アフターサービス活動                   |
|                                                           | 長期定期点検実施率          | 62.6%    | 70.0%    | アフターサービス活動                   |
|                                                           | 築40年以上の外装メンテナンス実施率 | 66.2%    | 68.0%    | 築40年以上HEBEL HAUSの外装メンテナンスの実施 |
|                                                           | ストック取扱い棟数          | 257棟     | 策定中      | ストックヘーベルハウス                  |
|                                                           | HEBELIAN NET.登録者数  | 17.1万人   | 策定中      | HEBELIAN NET.                |

社会課題の解決に貢献する  
商品開発



安全・安心な街づくり



防災・減災への貢献



知的財産権の有効活用



より永く、広く、深くお客様に寄り添い、  
豊かなくらしを支え続けるために。

取締役 兼 専務執行役員

住宅事業担当 国内住宅バリューチェーン担当 金融・保険事業担当

**藤澤 秀樹**



「住まい」という人々の生活に密着した事業を展開する旭化成ホームズグループの責務は、社会のニーズに対応した商品・サービスを通じて、防災・減災や地域社会に貢献することであると考えます。

私たちは、サステナビリティという言葉が浸透していなかった創業当初から、安全で高耐久（長寿命）なロングライフ住宅を提供し、業界に先駆けた長期点検の実施や二世帯住宅、共働き、ペット共生などのくらし方の提案を行ってきました。また、マンションの建替えやシニア向け賃貸住宅、ストック住宅の流通など、時代の変化に応じた社会課題に対する商品・サービスも開発してきました。

近年では、お客様と私たちをつなぐインターフェイス「HEBELIAN NET.」を通じた「オンライン介護相談サービス」や、マンション・地域住民のコミュニティを醸成する「GOKINJO」、レジリエンス向上を狙った防災情報システム「LONGLIFE AEDGiS」など、永きにわたりグループが一丸となってお客様に寄り添い続けられるサービスを提供しています。

今後は、『LONGLIFE』の実現へむけて、全社員がつよい想いをもって自ら学び、考え、行動する事により最適なサービスをオーナーや居住者の皆様へ提供したいと考えます。そして、社会やくらしの変化にしなやかに応え、そこに住まう人々の豊かなくらしの実現に貢献していきます。



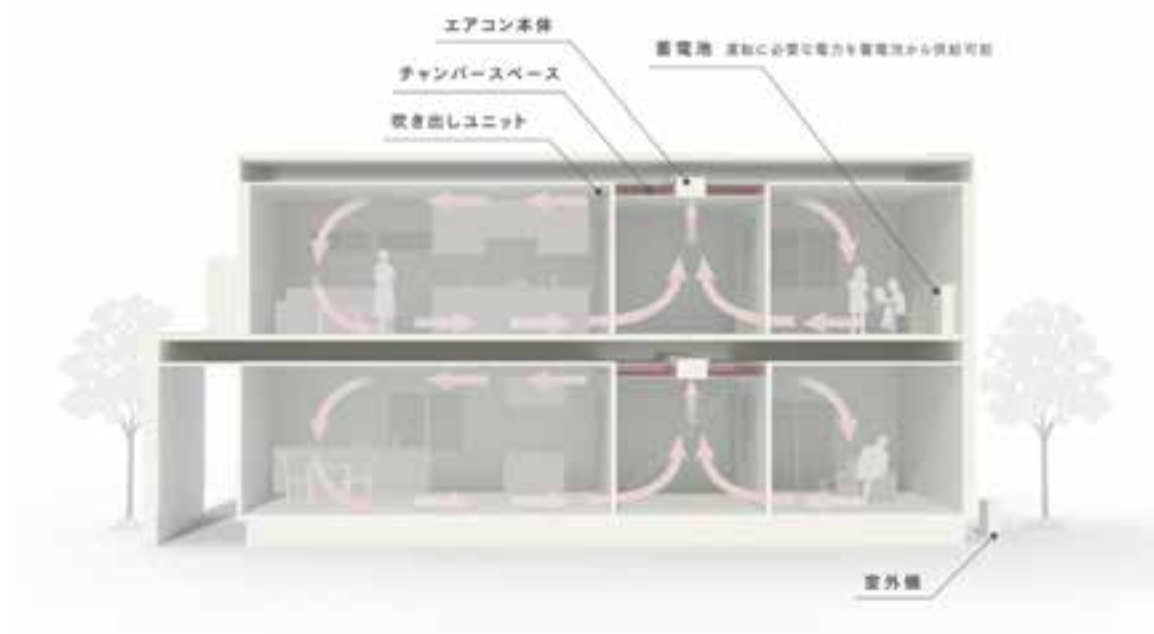
## 社会課題の解決に貢献する商品開発

### 基本的な考え方

私たちは、「LONGLIFE」の考えのもと、安全・安心・快適な住まいと暮らしを豊かにするための商品やサービスを提供しています。お客様の人生に寄り添い、ニーズや時代の潮流を敏感に掴むことで多様なライフスタイルや住環境に合わせた新しい住まい方を提案しています。

### 健康で快適な住環境の提供「ロングライフ全館空調」

ロングライフ全館空調は「全館暖冷房システム」+「熱交換型ロングライフ・エコ換気システム」+「住環境シミュレーションシステム ARIOS」で構成される独自のシステムで、導入コストやランニングコストを抑えながら、年間を通じて住宅内の温度環境および空気質を改善します。子育て家族、シニア世帯、ペット共生のご家庭などにおいて、「熱中症・ヒートショック対策」「睡眠の質の向上」などの効果も期待できます。この取り組みが評価され、2023年キッズデザイン賞を受賞いたしました。今後も健康で快適な住環境を提供してまいります。



ロングライフ全館空調 システム概要図

＜ ニュースリリース (2023.8.24) ＞

＜ ロングライフ全館空調 | ヘーベルハウス 〓 ＞



シニア向け賃貸住宅「ヘーベルVillage」健康長寿の取り組み

人生100年時代、長くなった高齢期を豊かで健やかに暮らすことが求められています。一方で増加する元気な高齢者が心から暮らしたいと思える住まいは足りていません。元気なシニア向け賃貸住宅ヘーベルVillageは、設備による見守りなど安全・安心に配慮した設計に加え、相談員が定期的に訪問し、日常生活の健康行動（活動量・食事・交流）を後押しします。こうした入居者の安全・安心と健康長寿な暮らしを実現する取り組みが評価され、2023年グッドデザイン賞を受賞しました。今後もヘーベルVillageを通して「健康で長生き」な社会づくりに貢献します。



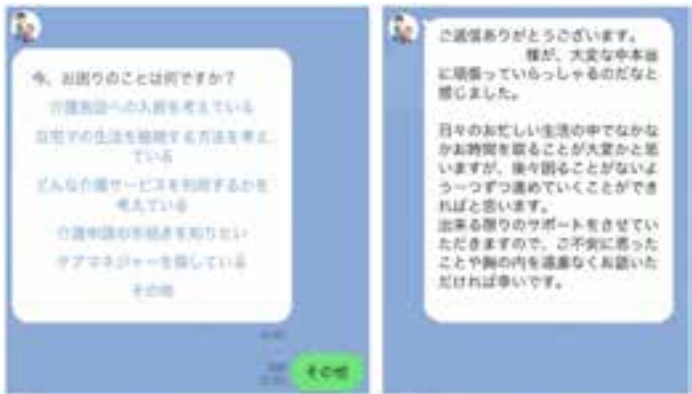
相談員による定期訪問

▶ [高齢者・シニア向け賃貸住宅ヘーベルVillage](#)

▶ [ニュースリリース\(2023.10.5\)](#)

オンライン介護相談サービス

高齢化社会の中、要介護者の増加に伴い勤労者の介護と仕事との両立は大きな社会課題となっています。そこで旭化成ホームズでは、HEBELIAN NET.会員のお客様とそのご家族の介護にまつわるさまざまなご不安解消をサポートするサービス『オンライン介護相談サービス～介護前のご不安解消から、介護中のアドバイスまで～』の無償提供を開始しました。LINEでいつでも介護の専門家に相談できることで、介護にまつわるLONGLIFEな安心をサポートし、働くお客様とそのご家族の介護離職防止に貢献します。



▶ [オンライン介護相談サービス | HEBELIAN NET.](#)

▶ [ニュースリリース \(2023.10.16\)](#)

ヘーベル電気の省エネルギーの取り組み（デマンドレスポンス実証）

気候変動対応の必要性がますます高まる中、日々の暮らしにおいても、省エネルギーを意識することが重要となっています。ヘーベル電気では、東京都の助成事業も活用し2024年1～3月において「節電トライアル」を実施しました。この取り組みでは、気候危機への対応に加え、中長期的なエネルギーの安定確保のため、ヘーベル電気の電力需要の高まる時間に、タイムリーにお客様に対して節電要請を行い、節電行動にご協力いただきました。取り組みには計3,875邸がご参加いただき、お客様に対して省エネのコツをお知らせし、節電量に応じた電気料金の値引き・東京都補助金を活用して節電成功日数に応じたデジタルギフトを進呈しました。その結果、約21MWhの電力を削減することができました。



▶ ニュースリリース（2023.12.25）

マンション・自治会等の住民限定コミュニティ醸成サービス「GOKINJO」

株式会社コネプラ<sup>※</sup>は、居住者限定コミュニティアプリ「GOKINJO」を開発・提供し、マンションや自治会の運営支援やコミュニティ醸成支援を行っています。サービス開発の背景には、疎遠になりがちなお近所づきあいを、匿名性などを活用した程よいつながり方にアップデートし、地域社会に貢献したいという思いがありました。現在、約30か所のマンション・自治会（稼働前物件を含む）に導入され、ユーザー数は約4,000人、月間アクティブユーザー率は60～70%となっています。今後は、高経年マンションや人口減少の進む地方へ展開し、多世代の方々がつながり、日々の暮らしをより豊かにしていけるためにサービスを拡充していきます。



※2022年に誕生した旭化成グループの社内ベンチャー企業

▶ GOKINJOサービスサイト

▶ ニュースリリース(2024.4.24)



## 安全・安心な街づくり

### 基本的な考え方

私たちは、お客様のいのちを守り、暮らしを豊かにし、人生を支える「LONGLIFE」の考えに基づき、周辺地域を含めた安全・安心な暮らしの実現に取り組んでいます。また、災害発生時にも迅速に対応し、人々の暮らしを支え続けられるような街づくりを目指し、今後も取り組みを進めていきます。

### 第10回ジャパン・レジリエンス・アワード2024年最優秀賞受賞 「マンション建替え研究所」

旭化成不動産レジデンスは、多くのマンションの建替えを支援する中で社会全体が、高経年マンションの再生にかかわる知見が不足していることを痛感し、業界に先駆けて2011年に「マンション建替え研究所」を設立しました。マンション建替え研究所では、マンションの建替えに関するシンクタンクとして、情報を収集・分析し発信しています。多くの実績の中で蓄積した経験を活かして、マンション建替え実践講座を定期開催（これまでで延べ約970組2,200名の管理組合・管理会社が参加）するとともに、建替えの相談対応など、さまざまなケースの建替えをサポートしています。建替えの実現数は全国でわずか282件ですが※、旭化成不動産レジデンスはこれまで48件の建替えに参画し（2024年4月末時点）、その実現に寄与しています。



「マンション建替え研究所」は、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会主催の「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2024」において「最優秀賞」を受賞しました。

※出典：国土交通省 マンションに関する統計・データ等（2023年3月時点）

▶ [国土交通省](#)



迅速な合意形成支援により熊本地震の被災から5年3か月で建替えを実現  
アトラス上熊本

（ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2021「最優秀賞」受賞）

▶ [ニュースリリース（2024.4.24）](#)

▶ [旭化成マンション建替え研究所](#)

## 「アトラスタワー白金レジデンシャル」竣工

アトラスタワー白金レジデンシャルの従前の建物は、1981年に竣工した投資用の分譲マンションで、建替え決議時点で半数以上が賃貸利用で占めていました。外部居住の区分所有者が多いことから、建替えの検討を推進する合意形成活動が非常に難しい状況でした。一方で建物を継続利用するためには、新耐震設計基準に対応していないことや耐震壁の設置等により建物の利用に制約が出ること、床遮音性の不足、給排水管の劣化等、改善が困難な課題が多数ありました。

そのため、管理組合理事会が主体となって、建物の状況と建替えの必要性を区分所有者に根気強く伝え続けることで理解を深めた結果、最終的に区分所有者81名全員が建替え参加者となり、「マンションの建替え等の円滑化に関する法律」による組合施行で建替えるに至り、2023年9月に竣工しました。



Before



After

▶ [ニュースリリース（2023.9.28）](#)



## あしたの杜コミュニティZEHの取り組み

旭化成ホームズと旭化成リフォームの協働テーマとして、静岡県富士市の旭化成ホームズ分譲地『あしたの杜』と旭化成社宅『サントピア』を中心とした、コミュニティZEHによるレジリエンス強化の取り組みを実施しています。災害発生時に関連部場が速やかにかつ効果的に対応できるよう、体制、各部署の役割、具体的な行動について『『あしたの杜』災害対応マニュアル～コミュニティZEH編～』にてとりまとめ、毎年災害訓練を実施しており2023年度は7月20日に実施しました。災害発生時には旭化成リフォーム静岡営業所よりEV（電気自動車）を派遣し、分譲地内のZEHヘーベルハウス3戸と隣接する旭化成社宅を一つのコミュニティとし、周辺の地域住民に対して電力を融通する計画です。静岡県富士市と連携し「江川地区豊かな暮らし空間創生住宅整備事業」として、富士市への移住・定住住み替えの促進、災害時の支援などの地方創生に関する包括協定を結ぶなど、地域との密接なつながりを持ちます。今後も安全・安心な街づくりを地域と協力し活動を継続していきます。

※コミュニティZEH：自然災害等に伴う長期停電リスクを回避可能な住宅（ZEH+またはZEH+R）等から発生する太陽光発電等の余剰電力を地域住民に提供できるコミュニティ



### ▶ ニュースリリース（2017.9.6）

## 入居時のお客様満足（CS）向上

旭化成ホームズでは、お客様の入居時に、打ち合わせ～引き渡しまでの担当者の評価、設計内容や工事の進め方、出来栄などの評価をいただくアンケートを実施しています。いただいたご意見をもとに、より良い商品やサービスの提供を目指しています。

安全・安心な住まいを通しお客様にご満足いただくためには、提供した商品やサービスについて、品質が確保され、常に期待した通りの基本性能が発揮されることが求められます。そのため私たちは、工場や施工現場をはじめ、あらゆる場面で品質管理に努めています。また、ご入居後のお客様の声を継続的に伺う活動や、施工現場からの意見を取り入れる「改善提案制度（A-KAIZEN）」も品質・CS向上に貢献しています。今後も改善活動を継続しCS向上を推進していきます。



アフターサービス活動

旭化成ホームズのアフターサービスは、「ヘーベリアンセンター」と「ホームサービス課」が担っています。ヘーベリアンセンターはお客様からのご連絡窓口として年間33万件を受電し、お客様の困りごとと解消をお手伝いしています。一方、ホームサービス課は年間約6.4万件の定期点検を実施し、安全上の問題や将来的な不具合を未然に防ぎ、お客様に安心して快適な生活を提供しています。現在、築30年以降の長期点検実施率は約6割となっています。今後も、点検実施率の向上と適切なメンテナンス工事の提案と実施により、お客様の資産価値を守ることに加え、くらしを豊かにするためのさらなる価値提供ができるアフターサービスを推進します。



築40年以上HEBEL HAUSの外装メンテナンスの実施

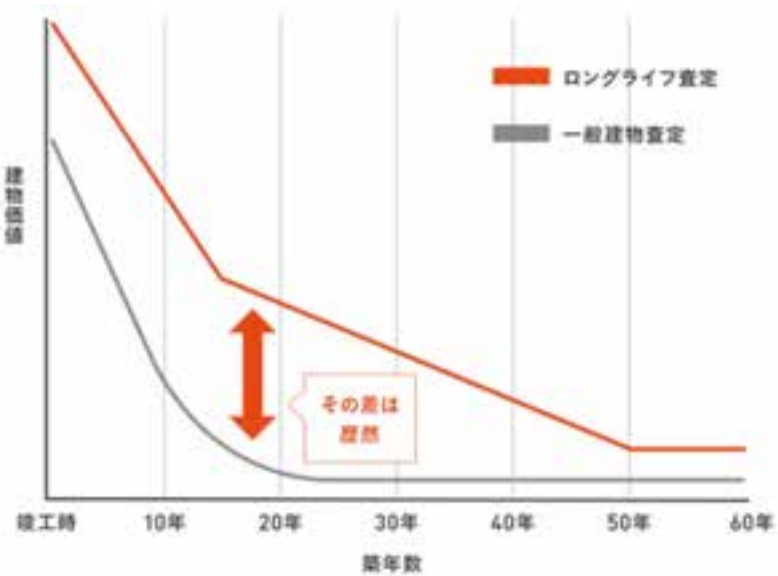
長期間安心して住まいいただくためには住宅の適切なメンテナンスは欠かせません。特に昨今の異常気象によって過酷な環境にさらされている外装は、メンテナンスの重要性がより高まっています。例えば、防水シートの性能は徐々に向上していますが、実際の張り替え時期は建築した年代や建物の環境によっても若干前後するため、メンテナンスプログラムに沿った定期点検時に個別に診断しています。また、旭化成ホームズグループとサプライヤーにて協働開発したシート防水・シーリング・外壁塗装の技術は30年間の耐久性を有し、HEBEL HAUSの性能を長期にわたり維持します。メンテナンスの周期が長くなるため、お客様のご負担も軽減されます。今後も長期間ご使用いただける商品・サービスの提供と長期にわたるメンテナンスのサポートを継続し、お客様の安全・安心なくらしに貢献します。

良質な中古市場を形成する「ストックヘーベルハウス」

旭化成不動産レジデンスでは、中古のHEBEL HAUSをストックヘーベルハウスとして売買仲介し、より良質な中古住宅市場の形成を目指しています。そこで、取引される住宅を評価する際には、旭化成ホームズが開発し、特許を取得した中古住宅の建物査定システム（ロングライフ査定）を採用しています。この査定では、構造躯体の耐久性の高さと適切なメンテナンス履歴を考慮して建物の残存価値を正しく評価するため、HEBEL HAUSの資産価値が下がりにくいことが証明されます。このような取り組みを通して空き家増加による地域安全への不安を解消し、『住み続ける』『引き継ぐ』『住み継ぐ』の循環を促します。



ロングライフ査定と一般建物査定と比較イメージ



＜ストックヘーベルハウス＞



くらしの情報プラットフォーム「HEBELIAN NET.（ヘーベリアンネット）」

旭化成ホームズでは、戸建て住宅ヘーベルハウスや賃貸住宅ヘーベルメゾンのオーナー様のことを、敬意と親しみを込めて「ヘーベリアン」とお呼びしています。全国約18万人のHEBELIAN NET.会員の皆様とオンラインでつながり、常に見守り、寄り添うために「HEBELIAN NET.」を運営し、「安心で豊かな暮らし」をサポートする情報を掲載しています。

HEBELIAN NET.を通して、建物の定期点検の予約や履歴確認、困りごとの問い合わせ等の住まいのサポートに加え、災害時には警報情報や設備復旧方法などの発信や、被害状況の申告受付など、オンラインを通じたコミュニケーションにより、つながる安心をお届けしています。また、オンライン介護相談や、相続や確定申告のWEBセミナーなどのサービスも拡大しており、HEBELIAN NET.を「LONGLIFEを支えるプラットフォーム」として活用することで、長きにわたってお客様の安全・安心な暮らしと充実した人生に寄り添い続けます。



▶ [HEBELIAN NET.](#) 



## 防災・減災への貢献

### 基本的な考え方

近年、異常気象等により、従来経験したことがないような大規模災害リスクが顕在化しています。住まいを通じて人々の暮らしを支える旭化成ホームズグループでは、日頃の防災対策に加えて、大規模災害が発生した場合に備えてリスク管理をすることが重要と考えています。また、リスク管理を進化させ、災害に強い未来をお客様と一緒に築いていくことに取り組んでいます。

### レジリエンス・アワード最優秀賞受賞「LONGLIFE AEDGiS」

旭化成ホームズの、防災情報システム「LONGLIFE AEDGiS」が「ジャパン・レジリエンス・アワード 最優秀賞」を受賞しました。独自のシステムにより、地震や水害が発生した際、機器によるセンシング機能を活用することですべてのヘーベルハウス・ヘーベルメゾンの被害状況を即時に把握します。また、オンラインによるコミュニケーション機能で、被災されたお客様から被害情報を旭化成ホームズが受け取り、それに対応した被災時に役立つ情報を返すことで、安心を提供していきます。取得した情報をもとに建物の被害状況に応じた優先順位を決めることで、災害対応の効率化、復旧工事の早期開始などへつなげ、発災後のお客様の暮らしを支援していきます。



リアルタイム浸水推定図上でのヘーベルハウス・ヘーベルメゾン位置のプロット図

▶ [ニュースリリース \(2024.4.24\)](#)

▶ [災害から日常生活を守り続ける | HEBELHAUS](#)

## レジリエンス・アワード最優秀賞受賞「GOKINJO」

株式会社コネプラ\*が企画・開発・運営をする防災共助DX+リアルサポート「GOKINJO」が、「ジャパン・レジリエンス・アワード2024」において、最優秀賞を受賞しました。より安全・安心な真のサステナブル社会の実現に向けた防災・減災における取り組みとして評価されました。



マンションや自治会における防災は ①住民自らが ②集合知を活かし ③持続的に取り組むことが必要と考えられます。GOKINJOアプリは、日常的な情報交換や理事会等から配信される情報の確認などを目的として、多くのユーザーに利用されています。このつながりが基礎にあることによって、災害時などには住民がGOKINJOに集まり、それぞれの状況を共有しながら助け合いを行うことができます。また、シニアにも使いやすい設計で、全ユーザーの約25%が60歳以上です。



今後は、安否確認機能なども活用し、災害時の利便性をさらに高めていきます。

※2022年に誕生した旭化成グループの社内ベンチャー企業

▶ [GOKINJOサービスサイト](#)

▶ [ニュースリリース（2024.4.24）](#)

▶ [マンション・自治会等の住民限定コミュニティ醸成サービス「GOKINJO」](#)

## 防災訓練（全社）～迅速な災害時対応に向けて～

自然災害の発生時には、被災したお客様の生活の復旧・復興に貢献し、1日でも早く快適な生活をお届けすることが、旭化成ホームズグループの重要な責務です。この責務を果たすため、大規模災害を想定した年次の災害模擬訓練や災害対応マニュアルの更新を継続的に実施しています。2023年度は1月に最大震度7の首都直下型地震を想定した訓練を本社を中心とした首都圏エリアにて行い、また3月には名古屋エリア、大阪エリアで直下型大地震が発生した想定での訓練を初めて開催しました。訓練では、各エリアや部署において、いかに迅速に情報収集と意思決定を行うか等のテーマに取り組み、新たな気付きや課題を得ることができました。

## 防災訓練（旭化成住工）

旭化成住工滋賀工場は、HEBEL HAUSの主要部材の生産拠点です。お客様に工期通りにHEBEL HAUSを引き渡すために、安定した製品の供給が求められています。そのため、災害が発生した場合に、被害を最小化するための初期対応を迅速に行えるよう、定期的な防災訓練を実施しています。2024年5月に実施した工場全体の防災訓練では、地元の愛知消防署にご協力を依頼して、震度6強の地震が発生したという想定の下、防災組織隊の情報収集や避難時の動きなどについてご指導いただくとともに、119番通報の実地訓練や、負傷者の救助活動、消防車および救急車への情報伝達訓練などを行いました。ここで得たさまざまな気付きや課題を改善することで、引き続き安定した生産活動につなげられるよう活動を進めていきます。



防災訓練の様子



## 知的財産の有効活用

### 基本的な考え方

私たちは、「高度化する事業の利益を守り、かつ、事業の価値の最大化を実現する」ことを目指しています。当社事業価値の源泉であるコア技術やブランドなどの知的財産を含む無形資産を、社会動向・ニーズをとらえることにより戦略的に創出、管理および活用し、企業価値の向上につなげていきます。

### 知的財産の創出と活用

旭化成ホームズグループは、日々、技術改革に取り組むとともに、旭化成グループの「発明奨励制度」「知的財産権管理規程」などに基つき、知的財産の創出と活用に関する活動を積極的に推進しています。安全性・耐久性・居住性などヘーベルハウス・ヘーベルメゾンの性能を支えるコア技術「シェルター技術」をはじめ、家族構成に応じた住まい方などの「住ソフト技術」、サステナビリティに貢献する「CO<sub>2</sub>排出削減技術」、さらにはDXを活用した「ウェルネス、サステナビリティ、生活、レジリエンス関連サービス」などの実施技術を中心とした特許出願の強化を図っており、2023年度現在で約750件にのぼる国内特許権を取得しています。





IPランドスケープを活用した事業・開発・知財戦略の高度化

旭化成グループでは、知的財産（Intellectual Property）に関する情報を収集・解析して事業戦略に役立てる「IPランドスケープ」に注力し、事業の優位性確保や新事業の創出、M&Aを含めた経営判断に活用していくことを、中期経営計画における無形資産活用戦略の柱のひとつに位置付けています。

旭化成ホームズグループでも、IPランドスケープを活用し、社会のニーズと事業の優位性の双方を満たす事業・技術の開拓につなげています。例えば、「レジリエンス」という社会ニーズに対応する当社技術として、防災情報システム「LONGLIFE AEDGiS」があります。その開発にあたっては、レジリエンス関連技術を含む特許群の俯瞰図を作成して、BCPや災害時コミュニケーション領域における解析を実施しました。その結果を踏まえ、技術開発戦略や知財戦略のブラッシュアップと新たなレジリエンス関連技術（事業コア技術にDXを応用）の知的財産権の確保に活用しています。



レジリエンス関連技術を含む特許俯瞰図  
（一部社内情報を含むため不鮮明にしています）



LONGLIFE AEDGiS 地震被害推定システムの作動フロー図



私たちは、環境活動への対応を社会全体の優先的な課題と考えています。再生可能エネルギーを確保し有効活用すること、防災力の高い住宅の提供や地域社会も含めた災害復興など、気候変動の緩和と適応に努めるだけでなく、生物多様性の保全にも継続的に取り組んでいきます。

## 旭化成ホームズグループ 環境方針

私たちは、「お客様のいのち、暮らし、人生」を支えるLONGLIFEな事業活動を通じて、サステナブルな社会を実現するために、次世代に豊かな地球環境を引き継ぎます。

### 1.脱炭素社会とレジリエンスの推進

- 住宅のライフサイクル及び事業活動の脱炭素化を推進し、再生可能エネルギーを有効に活用することによって気候変動の緩和に貢献します
- 自然災害から「いのち」と「暮らし」を守るレジリエントな住まいを提供します

### 2.サーキュラーエコノミーの実現

- ロングライフな住宅の提供によって、建築から発生する廃棄物を削減します
- 限りある資源を有効に活用するとともに、リサイクルを進めることによってサーキュラーエコノミーの実現に貢献します

### 3.ステークホルダーと共に進める自然共生

- 生物多様性の保全における知見をより高め、ステークホルダーと共に豊かな自然と調和する暮らしの実現を目指します

## With Environment

豊かな自然環境の保全とより良い環境の創造



| マテリアリティ                            | KPI                   | 2023年度実績                                | 2024年度目標 | 2025年度目標 | 関連する取り組み                  |
|------------------------------------|-----------------------|-----------------------------------------|----------|----------|---------------------------|
| 気候変動の緩和<br>気候変動への適応<br>エネルギー消費量の削減 | ZEH率                  | 88%                                     | 90%      | 90%      | ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンのZEH・ZEH-M |
|                                    | ZEH-M率                | 75%                                     | 80%      | 85%      | ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンのZEH・ZEH-M |
|                                    | ATLASおよびATLASリベルタZEH率 | 25年度竣工物件：<br>83.3%<br>26年度竣工物件：<br>100% | —        | 100%     | ATLASのZEH-M               |
|                                    | サプライヤーエンゲージメント        | 48.2%                                   | 50.0%    | 60.0%    | 国際イニシアチブへの加盟              |
|                                    | 配送効率化                 | 達成                                      | △2.0%    | △2.0%    | 長距離輸送の脱炭素化                |
|                                    | 卒FIT買取率               | 67.0%                                   | 70.0%    | 70.0%    | 特集：RE100の取り組み             |
|                                    | RE100達成               | 100%                                    | 100%     | 100%     | 特集：RE100の取り組み             |
|                                    | 社有車電動化                | 69.6%                                   | —        | 70.0%    | 社有車の電動化                   |
|                                    | 既存住宅太陽光設置数            | 640件                                    | 800件     | 1000件    | 既存住宅への太陽光発電設備の設置          |
|                                    | 断熱改修工事件数              | 347件                                    | 500件     | 700件     | リフォームで脱炭素社会の実現を推進         |
| 持続可能な資源の利用                         | 新築廃棄物リサイクル率           | 100%                                    | 100%     | 100%     | 新築産廃ゼロミッション               |
| 生物多様性の保全                           | まちもり採用率               | 30.5%                                   | —        | 50.0%    | 「まちもり®」の推進                |

気候変動の緩和・気候変動への  
適応・エネルギー消費量の削減

持続可能な資源の利用



生物多様性の保全

環境データ  
マテリアルバランスシート

気候変動をはじめとした環境問題に取り組み、  
豊かな地球環境を次世代に引き継ぎます。

執行役員 サステナビリティ企画推進部長

サステナブル推進担当

**武藤 一巳**



気候変動をはじめとする地球規模の環境課題への対応は全世界が継続的に取り組むべき重大なテーマであり、旭化成ホームズグループも創業以来、環境に配慮した事業活動に取り組んできました。脱炭素においては、2023年度にRE100を達成しました。ZEH・ZEH-Mの普及推進により、住まいを通じた環境配慮に取り組む、建築現場使用電力をヘーベルハウスやメゾンのオーナーから買い取った再生可能エネルギーに切り替えるなど、お客様と共に課題解決に向けて取り組んできた結果が、RE100達成につながったと考えています。

また、その他の環境課題に対しても、産業廃棄物のゼロエミッションなどの循環型社会に向けた取り組みや、「あさひ・いのちの森」「まちなもり®」計画といった生物多様性の保全活動をさらに加速させ、持続可能な社会の実現に向けて努力を続けていきます。

この先もお客様をはじめとしたステークホルダーの皆様と事業活動を通じて、環境保全に配慮した施策を展開し、次世代に豊かな地球環境を引き継いでいくとともに、環境貢献のリーディングカンパニーを目指していきます。

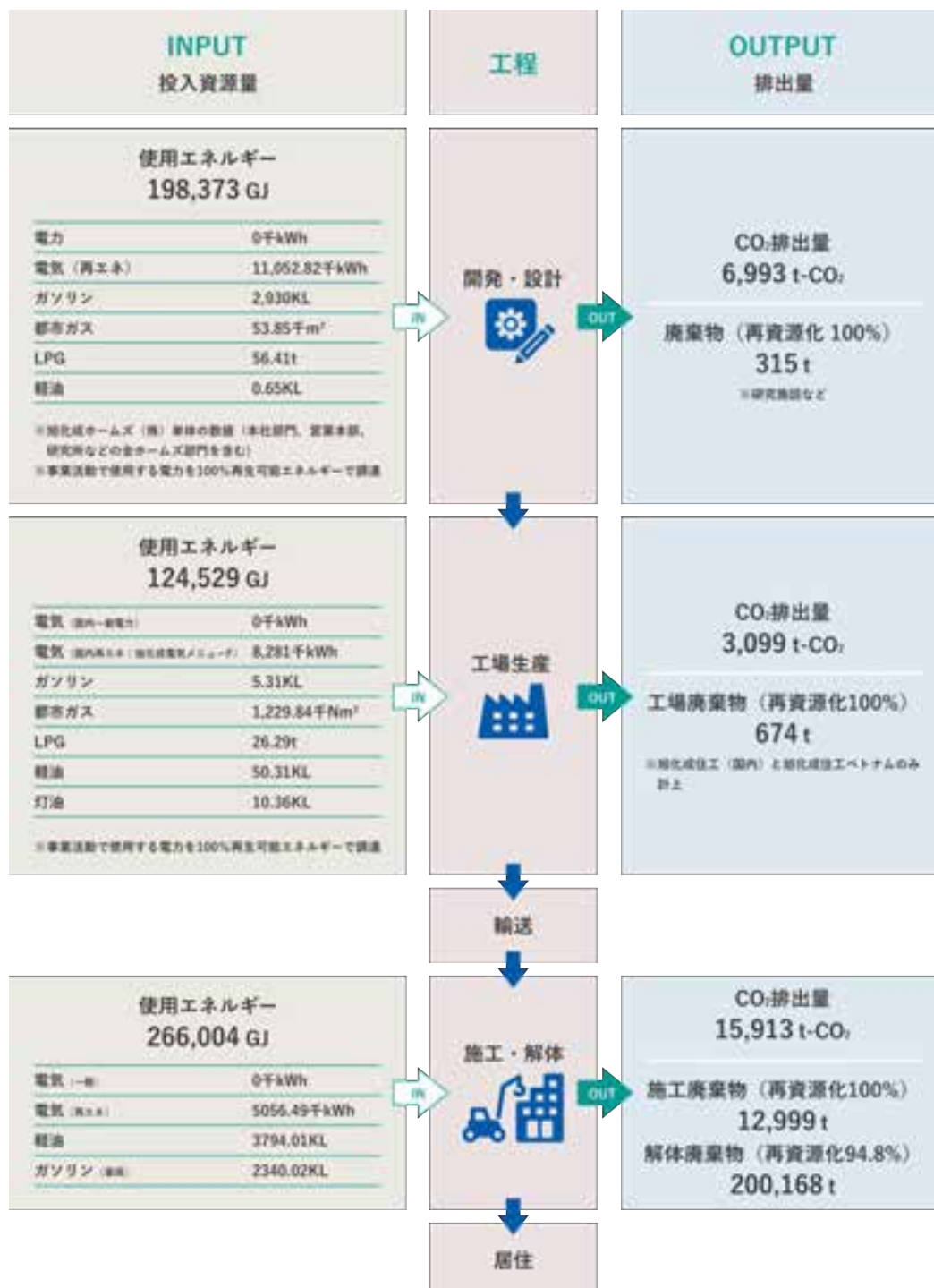
## 環境データ



環境データPDF

## マテリアルバランスシート

旭化成ホームズグループの開発・設計、工場生産、輸送、施工・解体、居住のライフサイクルにおける環境負荷を算出し、環境配慮の取り組みの指標の一つとしています。



※ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンの新築請負工事が対象





## 気候変動の緩和・気候変動への適応・ エネルギー消費量の削減

### 基本的な考え方

私たちは、太陽光発電などの再生可能エネルギー設備の導入推進や、ZEHや防災力の高い住宅の提案を行うことで、事業活動全体での温室効果ガスの排出量削減や、異常気象による自然災害に強い住まいの提供に取り組んでいます。これらの取り組みを通して、社会全体が目指す「2050年のカーボンニュートラル」に貢献します。

### 国際イニシアチブへの加盟

気候危機に対しての取り組みは企業にとって大きな課題となっています。旭化成ホームズグループは環境貢献のリーディングカンパニーを目指し、2019年に「RE100イニシアチブ」に加盟し、2023年に「SBT（Science Based Targets）」の認定を取得しました。現在、SBT取得またはそれに相当する目標の公表や削減活動などに取り組む主要サプライヤーは48.2%となり、サプライチェーン全体での脱炭素化を進めています。私たちは、お客様やサプライヤーと共に、目標を達成し、持続可能な社会の実現に貢献します。



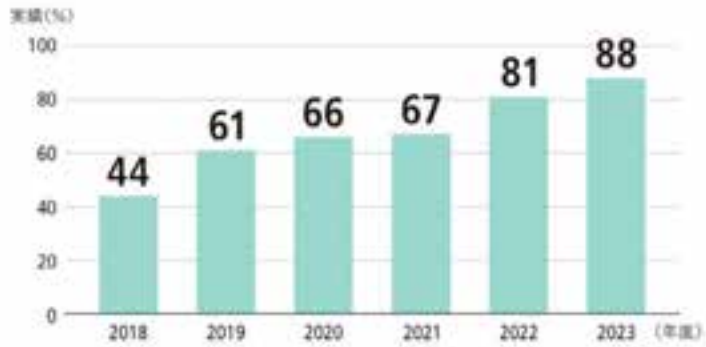
### ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンのZEH・ZEH-M

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて国から「脱炭素社会に向けた住宅・建築物における省エネ対策等のあり方・進め方に関するロードマップ」が発表されました。このロードマップによりZEHの目標が更新され、それぞれ「断熱」「省エネ」「創エネ」の3つの基準が引き上げられました。また、2022年には、住宅性能表示制度においてZEH水準以上の断熱等性能等級や一次エネルギー消費量等級が設定されたほか、2024年度も環境省が支援するZEH関連の各制度が拡大されています。さらに、国交省でも、2024年度子育てエコホーム支援事業において、子育て世代のZEH購入の支援を行っているなど、国全体でZEH化促進に向けた取り組みが進んでいます。

旭化成ホームズでもこれらに対応した仕様の開発やお客様への普及活動を行い、毎年実績を順調に伸ばしています。例えば、高性能断熱材（ネオマフォーム）を標準使用することにより住まいの断熱性を上げ、冷暖房などのエネルギー消費量の削減に貢献しています。また、太陽光発電システム搭載の標準化により、2023年度のZEH率は大きく向上しました。2024年度は太陽光発電システムの搭載をさらに推進し、ZEH率のさらなる向上を目指します。集合住宅においてもヘーベルハウスで培った技術を展開し、ZEH基準の賃貸住宅の普及を継続しておりマンションのZEHである「ZEH-M」の建築実績も伸びています。

また、近年自然災害の発生頻度が上がり、規模や被害が極大化する中、「レジリエントな健康・快適住宅の普及」を目指し、災害後の生活を維持するためのトータルレジリエンス（総合防災力）を備えた住宅の普及活動も行っています。

ヘーベルハウスのZEH普及の実績



ZEHの考え方



▶ 心地よい暮らしがいつまでも | ヘーベルハウス 

ATLASのZEH-M

旭化成不動産レジデンスは経済産業省が策定したZEHロードマップに基づき、年間で消費する住宅のエネルギー量が正味（ネット）で概ねゼロ以下となるZEH-M（ゼッチ・マンション）の普及に取り組んでおり、「ZEHデベロッパー」に登録されています。旭化成不動産レジデンスが分譲する新築マンションにおいては「ZEH-M Oriented」以上を標準（JV等一部の物件は除く）とすることを決定しています。ZEH-M化物件の棟数は、2023年度では累計1棟、2024年度では累計4棟、2025年度では累計7棟を見込んでいます。



※「ZEHデベロッパー」とはZEH-M普及の役割を担うマンションデベロッパーや建設会社等を指します。

分譲マンションにおける今後の目標



## 省エネ大賞受賞 自家消費型ZEH-M「Ecoレジグリッド」

旭化成ホームズでは、都市部の住宅の屋根を活用し、自然環境を破壊することなく太陽光発電設備と蓄電池を設置できる独自の自家消費型ZEHへーベルメゾン「Ecoレジグリッド」を提供しています。Ecoレジグリッドから創出される再生可能エネルギーを含む電力は、入居者様への供給と旭化成ホームズグループの事業活動に活用しています。この度、蓄電池のアグリゲート制御<sup>※</sup>による自家消費率の向上への取り組みと入居者売電型と自家消費型の両輪でZEH-M普及を推進している点が評価され、省エネ大賞を受賞しました。2023年度のへーベルメゾン受注のうちZEH-M率は75%と高い水準に達しています。これからも建築主様、入居者様と共に環境貢献に取り組んでいきます。

※アグリゲート制御：太陽光や蓄電池機器を束ねて調整（制御）を行うこと



▶ ニュースリリース (2023.12.19)

▶ Ecoレジグリッド [🔗](#)

## 東京エコビルダーズアワード受賞

旭化成ホームズは、環境性能の高い建築物の普及に取り組む意欲的な事業者を表彰する令和5年度東京エコビルダーズアワードで「リーディングカンパニー賞」「ハイスタンダード賞」をダブル受賞しました。入居者売電型ZEH-M（ZEH基準を満たした集合住宅）と蓄電池を搭載したオリジナルの自家消費型ZEH-M「Ecoレジグリッド」の推進が評価されました。今後もへーベルハウス・へーベルメゾンでは今後さらなるZEH化の推進、自家消費率の向上、およびレジリエンス性を高めた住宅の提供を通じ、カーボンニュートラル社会の実現に貢献していきます。



授賞式の様子



▶ 東京エコビルダーズアワード（表彰制度） [🔗](#)

▶ ニュースリリース (2024.2.2)

ENEX2024「地球環境とエネルギーの調和展」出展

2024年1月31日から3日間、ENEX2024「地球環境とエネルギーの調和展」（主催：一般財団法人省エネルギーセンター）に参加しました。この展示会は、国内唯一の総合省エネルギー展であり、48回目の開催という歴史あるイベントです。旭化成ホームズは「2023年度省エネ大賞」受賞者アワードコーナーへの出展に加えて、住宅メーカー唯一となる通常展示への単独出展を行いました。ZEH-M、Ecoレジグリッドを中心に、ヘーベルメゾンの環境貢献、省・創エネルギーにおける進んだ取り組みを広く発表し、3日間で官公庁および民間から約250名の方が来展されました。これからもさまざまな場を通じて、ヘーベルメゾンの環境取り組みを積極的に発信していきます。



▶ ニュースリリース（2024.1.26）

賃貸住宅「Ecoレジグリッド」でのJークレジット制度の活用

旭化成ホームズの賃貸住宅「Ecoレジグリッド」は、太陽光発電設備を搭載したZEH-Mに蓄電池を設置し、入居者が太陽光発電の再生可能エネルギーを利用すること（自家消費）を促進するオリジナル商品です。2024年1月に、自家消費の効果を見える化するための「Jークレジット制度<sup>※1</sup>」の登録を取得しました。Ecoレジグリッド1棟あたりのCO<sub>2</sub>削減効果は約5.4t/年<sup>※2</sup>の見込みで、2024年度中の「Jークレジット」の獲得を予定しています。獲得した「Jークレジット」は、旭化成ホームズグループあるいはサプライヤーの脱炭素化を推進するための販売等に使用します。この販売等で得られる利益は環境・社会貢献活動に充当し、サステナブルな社会の実現に向けた多角的な活動を推進していきます。

※1 Jークレジットプロジェクト計画書（プログラム型排出削減プロジェクト用）ver. 4.0の算定方法に基づき算出

※2 Jークレジット制度事務局 サイトより

▶ Jークレジット制度事務局 □





ARIOS 邸別住環境シミュレーションシステム

旭化成ホームズでは、日照や採光、通風、日射、室温、暖冷房を科学的に検証できるヘーベルハウス独自の邸別住環境シミュレーションシステム「ARIOS」<sup>※</sup>を活用し、室内環境を設計段階で可視化することで省エネ対策に活用しています。ARIOS暖冷房シミュレーションを活用することにより、35坪程度のZEH住宅において、お客様の生活スタイルによっては、年間を通してエアコン2台で快適に過ごすことが可能となります。また、シミュレーションでは快適な室温を実現するために最適なエアコンの容量や台数を、インisialコスト・ランニングコストを算出することで選定できます。快適な住環境を実現するために、自然の光や風を効果的に取り入れ、適切なエアコン計画を行うことで、冷暖房や照明などのエネルギー削減にもつながります。

※ARIOS：Asahikasei Real Integrated Organization and Simulation

「ARIOS（アリオス）」によるシミュレーション



旭化成住工（栃木製造部）

旭化成ホームズ初の自家消費型PPA（Power Purchase Agreement）モデル実証として、旭化成住工の新工場（栃木製造部）屋根上に太陽光パネル211.2kWを設置しました。これにより、事務所部（旭化成住工 栃木製造部 工場部以外）に使用される電力量の100%を賄える想定です。今冬の稼働開始を予定しており、再生可能エネルギーの導入拡大を通じて環境負荷を低減しながら、持続可能な製造プロセスの確立を目指します。



既存住宅への太陽光発電設備の設置

旭化成ホームズグループでは、建築・入居後のお客様に提供しているサービスの一つとして、太陽光発電設備の設置から将来にわたる余剰電力の買い取りまですべてを完結できる体制を整備しています。23年度既存住宅太陽光の総搭載量は3,420kWでした。既存住宅への太陽光発電設備の設置は、昨今の異常気象や地震に対応できるレジリエンス性を確保できるだけでなく、再生可能エネルギーの普及にもつながり、社会の脱炭素化にも貢献します。60年の長期間にわたり安全・安心にお住まいいただくため、グループ力を活かした太陽光発電設備の設置を今後も強化していきます。



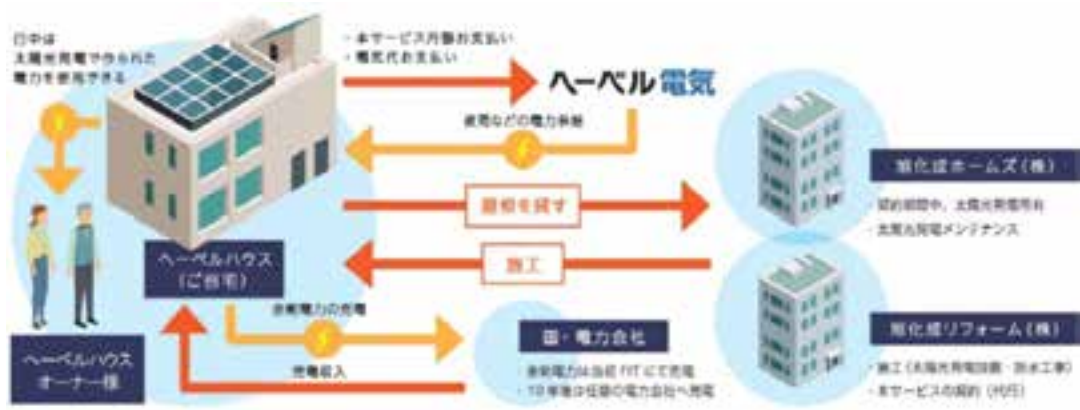


リフォームで脱炭素社会の実現を推進

旭化成リフォームは「永く住み続けることができるヘーベルハウス」をより快適でサステナブルな住まいとするために、高経年建物への「断熱化」「太陽光発電システム・蓄電池の設置」をお客様とともに進めています。「断熱化」は「ユニットバスの更新時」、「1階ワンフロア」や住まい全体をリフォームする際」に標準とし、断熱化による住まい手の健康増進と、省エネによる脱炭素社会の実現を目指します。

築30年前後の建物の防水シートの張替え時には、従来の太陽光発電システム設置に加え「初期費用0円太陽光」のサービスを開始しました。万が一の停電時の際も専用コンセントから電気を取り出すことができ、復旧までのライフラインとして活用ができます。災害に強い高経年住宅を増やすことで住まい手のくらしの安心を守り、街のレジリエンス強化を進めています。

「初期費用0円太陽光」全体概要



施工現場使用電力の再生可能エネルギーへの切り替え

旭化成ホームズは、国際的イニシアチブRE100の取り組みの一つとして、東京電力の供給エリア※1で着工するHEBEL HAUSの施工現場で使用する電力を、2023年11月から「ヘーベル電気」の実質再生可能エネルギー※2に切り替えました。ヘーベル電気では、ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンの屋根に搭載している太陽光発電電力の余剰分を買い取り、実質再生可能エネルギーとして活用しています。今回、この再生可能エネルギー電力を新築工事に利用することで、「ヘーベルハウス・ヘーベルメゾン」を建築されたお客様から「これから住まいを建築されるお客様」へとカーボンニュートラルの活動の輪が広がっていきます。2024年8月に全国のHEBEL HAUSの施工現場で同様の切り替えを予定しています。



※1 群馬県、栃木県、埼玉県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、および静岡県の一部

※2 卒FIT等の太陽光発電から得られる非化石証明書を使用した実質的な再生可能エネルギー

再生可能エネルギーで住まいを建てる | HEBEL HAUS

## 長距離輸送の脱炭素化

旭化成ホームズでは、長距離輸送の脱炭素化を図るため、「輸送の効率化」および「車両の大型化」を進めています。具体的には、トレーラーの活用（ダブル連結トラック含）の推進を行っています。車両1台で2台分の荷物を運べる「ダブル連結トラック」の活用により、CO<sub>2</sub>排出量を3割程度削減することができます。この取り組みは、ドライバーの拘束時間の削減等の負荷軽減にも効果があります。今後もトレーラーをうまく活用し、脱炭素化への貢献とドライバー不足および労働環境の改善につなげていきます。



▶ ニュースリリース（2023.6.28）

## 社有車の電動化

旭化成ホームズグループは、事業活動の脱炭素化の取り組みの一環として、事業で使用する車両の電動化を2021年7月より計画的に進めています。2023年度末時点でリースカーのハイブリッド化率は約70%となっており、当初の計画（2025年度70%目標）を上回るペースで切り替えを実施しています。今後も車両の電動化を進めつつ、交通機関の利用にも平行して取り組みます。一方で移動時間が従業員の負担にならないよう、従業員の働き方と環境へ配慮した移動方法の両立も目指し環境へ配慮した移動方法の在り方も模索し、事業活動の脱炭素化を推進していきます。



## 持続可能な資源の利用

### 基本的な考え方

私たちは、住まいの長寿命化や既存建物の利活用や事業活動で発生する産業廃棄物のゼロエミッション化に向けた3R活動を行っています。また、限りある資源の有効活用や再生利用の推進、汚水の浄化処理などに取り組み、持続可能な資源利用を行うことで循環型社会の構築を目指します。

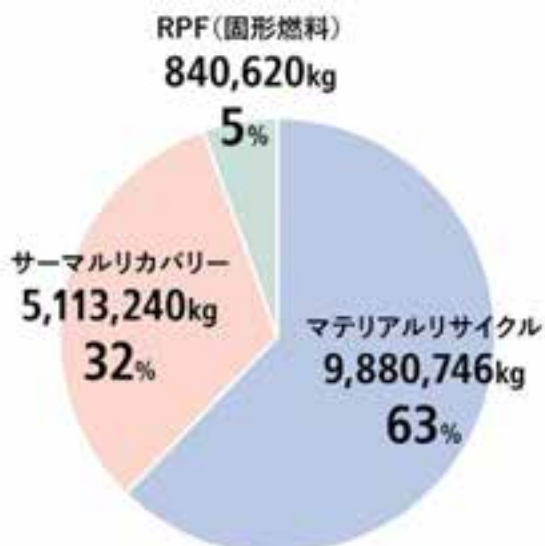
### 新築産廃ゼロエミッション

旭化成ホームズでは、施工現場で発生した産業廃棄物（以下、産廃）を自社の資源循環センター（厚木・尼崎）にて分別し、単純焼却や埋立て処分をすることなく全量リサイクルする「ゼロエミッション」を達成しています。

施工現場で25種類に分別された産廃は、さらに資源循環センターにおいて60種類以上に細分別され、マテリアルリサイクルに適さない可燃物も発電や燃料としてサーマルリカバリーすることで再資源化率100%を継続しています。さらに、再資源化したマテリアルリサイクル材のうち25%（重量比）を占める金属スクラップや樹脂類は有価物として売却し、資源の有効活用に寄与しています。また、資源循環センターでは固形燃料（RPF）を製造しています。RPFは廃プラスチック類や紙くずなどを原料とし、製紙メーカーなどで活用されています。また容積を9分の1程度に減容することで輸送効率の向上とCO<sub>2</sub>削減にも寄与しています。

自社の資源循環センターによる処理の対象は、新築工事のみではなく、旭化成リフォームの防水・吹付のリプレイス工事や旭化成不動産レジデンスの賃貸物件の入退出工事から発生する産廃にも拡大しています。今後はさらにリフォーム工事の内装改装工事や入退出工事の受け入れエリア拡大に取り組みます。旭化成ホームズは今後もグループ丸となってリサイクルを推進していきます。

### 新築産廃再資源化率（2023年度）



細分別された産業廃棄物

使用済みユニフォームのガス化ケミカルリサイクル

旭化成ホームズグループは、使用済みプラスチック・衣類をガス化してケミカルリサイクルする「ARChemiaプロジェクト」に参画しています。これは、伊藤忠商事株式会社と株式会社レゾナックの共同事業です。まずはユニフォームの製造を行う株式会社ユニコ（伊藤忠商事グループ）にて、グループにおける使用済みユニフォームを回収します。その後のレゾナックのプラントにおけるガス化の工程では、燃焼工程を経ずにガス化することで、CO<sub>2</sub>排出の大幅削減を実現しながら、アンモニア、アクリロニトリルや水素などの有用資源に再生し、循環型社会の形成を推進しています。



- ▶ [プレスリリース | 伊藤忠商事](#)
- ▶ [循環型社会に貢献する「ARChemia\(アルケミア\)プロジェクト」 | 伊藤忠商事](#)
- ▶ [ニュースリリース \(2023.11.22\)](#)

## 住宅における節水の取り組み

---

旭化成ホームズでは、水資源・水環境の保全を、廃棄物の削減やカーボンニュートラルに向けた脱炭素社会の構築と同様に、重要な環境課題と認識しています。ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンでは住宅における水使用量削減に向けて、節水機能を搭載した水栓、シャワーヘッド、トイレ等を導入しています。節湯機能の採用率も浴室シャワー水栓で100%、洗面水栓で99%以上、キッチン水栓で98%以上となり高い割合で採用されています。(2024年3月時点)。また、雨水を集水・貯留し、植栽への散水などの他、防災用水、災害時や渇水時の生活用水として利用できる「雨水利用タンク」も積極的に提案し、節水および水資源の有効活用を進めています。

## 建築部材の化学物質管理・低減

---

旭化成ホームズでは、住宅建築のバリューチェーン全体において適切な化学物質管理と汚染の防止に努めるために、独自のガイドラインによる化学物質管理を行っています。室内空気質管理に関する運用方法を「化学物質細則Ⅰ」、労務安全にかかわるリスクアセスメントを「化学物質細則Ⅱ」として、その内容および運用管理体系を更新し、住まいづくりの各段階で化学物質を適正に管理しています。リスクアセスメントでは、扱う部材の危険有害性を作業者に周知し、健康被害を防止することを目的としています。室内空気質管理では、重点とする化学物質ごとに管理目標値と評価する具体的方法を定め、資材メーカーを含め組織的に建築部材の化学物質リスクを管理できる体制としています。この体制で管理した化学物質の放散量が少ない部材と第1種換気（給気、排気とも機械換気の方式）を組み合わせた「エアクオリティ内装仕様」を採用した住宅では、性能表示制度の建設評価で定められる5つの化学物質（特定測定物質）の実測値が厚生労働省指針値の1/2以下となります<sup>\*</sup>。住宅に残る化学物質を最小限にした健やかな暮らしをお客様に提供するために、建築部材の化学物質管理・低減を継続します。

※エアクオリティ内装仕様を採用したすべての住宅で、厚生労働省指針値の1/2以下となることを保証するものではありません





## 生物多様性の保全

### 基本的な考え方

私たちは、「あさひ・いのちの森」などの自然環境施設を創設し、生物多様性の保全に関するさまざまな調査・研究を行っています。それらの活動を通じて得た知見を「まちもり®」を通じて、事業活動に活かすことで、ステークホルダーの皆様と共に自然と調和する社会の実現を目指します。

### 自然共生サイトに「あさひ・いのちの森」認定

「あさひ・いのちの森」は旭化成富士支社内の工場跡地に創出した約1haの人工の森です。この森は、富士市沿岸部の原風景の再生を目指した環境再生ゾーンです。入念な事前調査を経て、旧工場跡の完全な更地に、従業員・地域有志1,900人余による植樹をもって、2007年に活動を開始しました。2007年の設立から2019年度までは、植生の成長観測が主な活動でしたが、森が健全な里山に育った2020年度より、森を活用した地域への環境貢献を目的とした産学共同研究を常葉大学と共に行っています。現在は「里山林」「自然林」「湿地」の3エリアで、それぞれの研究テーマを継続検証しています。

こうした継続的な調査・研究の成果と生物多様性の価値が社外にも認められ、2023年10月には、国連生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された「2030年までに地球上の陸域、海洋・沿岸域、内陸水域の30%を保護する」という国際的な生物多様性保全目標30by30の取り組みにおいて、環境省が初めて認定した自然共生サイトに「あさひ・いのちの森」が認定されました。あさひ・いのちの森の調査の知見をもとに生まれた「まちもり」を推進することで、お客様と共に豊かな自然と調和する暮らしの実現を目指し、生物多様性の保全により一層貢献していきます。



環境省提供 自然共生サイト認定証授与式

▶ ニュースリリース（2023.10.12）

▶ あさひ・いのちの森

「まちもり®」の推進

「あさひ・いのちの森」で得た植生の知見を活用し、住宅の外構計画向けに独自開発した植栽手法が「まちもり」です。高木・中木・低木・地被植物という高さの異なる階層の植栽を、地域の植生を意識しながら組み合わせることにより、鳥や昆虫などの多様な生き物が集まりやすくなります。そして、「まちもり」を搭載した住宅と、街中にある街路樹や公園などの緑とがつながることで、より豊かな生態系が育まれ、地域一帯に「エコロジカル・ネットワーク」を形成していきます。

旭化成ホームズグループは、「まちもり」を戸建・共同住宅などのさまざまな事業活動に取り入れて、2023年度のまちもり採用率（引渡ベース）は、30.5%と前年度に比べ向上しました。さらに、住宅だけでなく、旭化成不動産レジデンスが提供するマンション、アトラスシリーズの植栽計画にも「まちもり」を採用しています。大規模な開発を伴うマンション建設での外構計画に「まちもり」を取り入れることで、より一層都市における生物多様性保全の推進に貢献していきます。



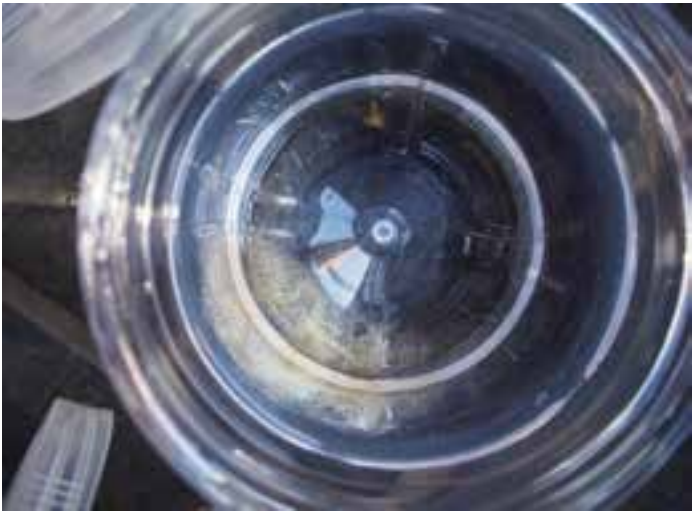
＜ みどり豊かなくらしは生き物にもやさしい | HEBEL HAUS 〓

あさひ・いのちの森にヨツボシトンボを誘致

開発行為や湿地の陸地化により全国的にトンボの生息地や産地が減少し、個体数が年々減少しています。こうした背景から、2024年5月にあさひ・いのちの森の目的の一つである「失われつつある田子の浦地区の原風景の再生と、地域の生物多様性への貢献」の活動として、常葉大学の加須屋真先生の監修のもと、静岡県のレッドデータに掲載されている準絶滅危惧種：ヨツボシトンボが森に定住するために必要と推定される数の卵をあさひ・いのちの森に設置しました。2026年までにあさひ・いのちの森がヨツボシトンボの自然発生する産地となり、地域の生物多様性に貢献することを目指しています。毎年状況をモニタリングしながら、卵の設置や環境の整備を行っていきます。



あさひ・いのちの森にヨツボシトンボの卵を設置



ヨツボシトンボの卵



私たちは、共に働くすべての人の安全・心身の健康・幸せを実現します。社員一人ひとりが夢や誇りを持っていきいきと働き、サプライチェーンの皆様と協働することで大きなシナジーを生み出していきます。

### With Employee

多様な人材が成長し・活躍し、幸せを実現できる職場づくり



| マテリアリティ      | KPI                             | 2023年度実績            | 2025年度目標         | 集計範囲 | 関連する取り組み             |
|--------------|---------------------------------|---------------------|------------------|------|----------------------|
| ダイバーシティの推進   | 管理職に占める女性の人数<br>(2021年度末からの増加率) | 28.5%               | 2021年度比<br>40%増  | ◎    | 女性社員の活躍の推進           |
|              | 育児休業取得率                         | 男性66.4%<br>女性98.8%  | 男性100%<br>女性100% | ●    | さまざまな働き方の支援          |
|              | 新卒採用者に占める女性の割合                  | 46.5%               | 40%以上            | ◎    | 女性社員の活躍の推進           |
| 生産性の向上       | 有給休暇取得率                         | 62.7%               | 70%              | ●    | 自分らしく働ける環境づくり        |
| 人財の確保と育成     | 新規採用者に占めるキャリア採用者の割合             | 30.5%               | 40%              | ◎    | キャリア採用の拡大            |
|              | KSA「成長につながる行動」                  | 3.69                | 実績開示             | ●    | 人財と組織の活性化            |
| 労働安全衛生の確保    | e診断の総合健康リスク※1                   | 80                  | 実績開示             | ●    | 旭化成ホームズグループの健康経営     |
|              | 施工現場の休業災害度数率※2                  | 1.16                | 実績開示             | ○    | ライフセービング・アクション (LSA) |
| 高品質で安全な製品の提供 | 旭化成ホームズ建設技術教育センター利用延べ人数／延べ時間    | 3,345人／<br>26,760時間 | 実績開示             | ○    | 旭化成ホームズ建設技術教育センター    |

#### 集計範囲

- : 旭化成ホームズ㈱、旭化成不動産レジデンス㈱、旭化成リフォーム㈱、旭化成ホームズコンストラクション㈱、旭化成ライフライン㈱、旭化成住工㈱、旭化成ホームズフィナンシャル㈱、旭化成設計㈱、旭化成ホームズ少額短期保険㈱、リーシュライフケア㈱、㈱コネブラ
- ◎: 旭化成ホームズ㈱、旭化成不動産レジデンス㈱、旭化成リフォーム㈱、旭化成ホームズフィナンシャル㈱、旭化成設計㈱、旭化成ホームズ少額短期保険㈱、リーシュライフケア㈱、㈱コネブラ
- : 旭化成ホームズコンストラクション㈱、旭化成ライフライン㈱

※1 全国平均を100とする

※2 「度数率」とは、100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表す。HEBEL HAUSの新築施工現場で発生した、休業1日以上を集計。委託施工業者を含む（事業主、一人親方を含む）

ダイバーシティの推進



生産性の向上



人財の確保と育成



労働安全衛生の確保



高品質で安全な製品の提供



社員一人ひとりが「誇り」と「喜び」を  
実感できる企業グループを目指して。

常務執行役員 人事部長  
健康経営 広報・渉外担当

岡前 浩二



企業にとって人財は重要な経営資源の一つであり、優秀な人財を確保・育成して、競争力を高めていくことは重要な経営課題です。多様な人財が成長し活躍するためには、それぞれの価値観を尊重し、主体的に働く機会や場所を提供することが必要です。

ライフスタイルや価値観が多様化するいま、旭化成ホームズグループがお客様の「いのち・くらし・人生」を支え続けるためには、お客様と誠実に向き合い、社会や環境変化に柔軟に対応しながら成長し続ける人財と組織であることが重要と考えます。また、それらは自主性とチームワークを大切にしながら自由に発想し挑戦することで培われるものと考えています。

近年は、活力と成長アセスメント（KSA）の導入やオフィスのフリーアドレス化など、活発なコミュニケーションが生まれる環境構築を進めてきました。その環境を活かし、心理的安全性の向上やダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）を推進し、多様な人財が互いに認め合う風土を醸成することで、自由闊達な組織にしていく考えです。

また、2024年4月にはキャリアアップをサポートするコミュニケーションツールを導入しました。社員の自己実現を支援し、一人ひとりが存分に能力を発揮・成長し、旭化成ホームズグループで働くことに誇りと喜びを感じられる会社を目指します。



## ダイバーシティの推進

### 基本的な考え方

私たちは、ステークホルダーの皆様を含めたすべての人の人権と多様性を尊重します。多様な人の活躍が価値創出につながるという考えのもと、すべての人が能力を発揮できる環境整備を進めると共に、互いを尊重するコミュニケーションを通して自由闊達な組織づくりを進め、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンを推進しています。

### 人権方針

私たちは、事業活動を行うにあたり、ステークホルダーの皆様を含めたすべての人の個人の基本的人権を尊重します。「旭化成グループ人権方針」は、「国際人権章典」およびILO（国際労働機関）の「労働における基本的原則及び権利に関する宣言」に準拠しています。また、国連グローバル・コンパクトの10原則と国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」「子どもの権利とビジネスの原則」を支持・尊重し、これらの枠組みをもとに、事業における人権課題を把握し適切な対処に取り組みます。

▶ [旭化成グループ人権方針](#)

▶ [旭化成グループ 人財](#) | [ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンに関する方針](#)

### 人権に関する取り組み

旭化成ホームズグループは、「旭化成グループ人権方針」に則り、各種法令を遵守するとともに、人権侵害につながる非人道的な行為を一切認めません。人権尊重推進の取り組みとして、社員やお取引先様とその従業員を対象とした通報・相談窓口の設置、社員や関係者の教育を継続的に行っています。2023年度は、情報発信の際の表示や表現への配慮を学ぶeラーニングを実施しました。また、サプライヤーなどビジネスパートナーにもCSR調達アンケートを実施し取り組み状況の把握を行っています。



## さまざまな働き方の支援

旭化成ホームズでは、共働き・介護の増加や価値観の多様化等、逐次変化する社員の状況に合わせて働き方を選択し、キャリアの継続ができるよう、下記のような制度を設けています。

### ①勤務地配慮申告制度

育児・介護・配偶者の転勤等によって通勤圏外エリアへ転居することになった社員が、転居先から通える勤務地への転勤を希望することができます。2015年4月の開始以降、約90名（2023年度は20名）の社員がこの制度を利用しました。

### ②コース転換制度

転宅転勤ありの「総合職A」・転宅転勤なしの「総合職B」のコースを設けており、年に2回コース転換を申請できます。2024年4月時点で約200名程度（2023年度は20名）の社員が総合職Bを選択しています。

### ③育児関連

育児においては法律の基準を超える手厚い制度となっており、特に育児短時間勤務は最長で小学校6年生まで利用可能とし、シッター・ヘルパー補助や内閣府のベビーシッター割引券などの補助も充実しています。また育児休業から早期復帰した社員には早期復帰支援金を支給し、両立を支援しています。特に、男性の育児休業取得推進に関しては、2022年10月より出生時育休制度の新設により休業中の就業も可能とし、2023年度は16名が利用しました。また、子どもが生まれた社員への個別フォローや意識調査、周囲の理解浸透を目的とした制度説明会等も実施しました。これらの取り組みによって業務との両立もしやすくなり、これまで取得が難しかった営業・設計・工事担当等の取得者も増加しました。旭化成ホームズグループの中でも、特に旭化成ホームズの男性の育児休業取得者が増加し、2023年度は65名（2022年度は34名）となっています。

## 女性社員の活躍の推進

旭化成ホームズグループは、さまざまな価値観やバックグラウンドを有する多様な人財がともに活躍できる環境の実現に取り組んでいます。その一環として、2026年3月末時点における女性管理職数を2021年比40%増とする目標を掲げています。その実現のため、育児・介護の両立支援制度の充実だけでなく、女性採用の推進、経営管理職を対象としたメンタープログラムや社外研修への参加推進など、女性管理職登用のための視野拡大を目的とした育成施策も進めています。



そのほか、2023年度には「自分にとってのロールモデルを見つける」という目的で住宅メーカー8社の営業・技術職128名（うち旭化成ホームズから20名）で交流会を開催しました。参加者からは「会社の垣根を越えた交流により視野が広がった」、「自分なりの道を切り拓いていきたい」などの感想が寄せられました。このように、刺激を与えあう機会も提供しています。

## シニア社員の活躍

旭化成ホームズは、再雇用者をはじめとしたシニア社員を重要な人財と位置づけ、いきいきと働ける環境づくりに努めています。2023年4月からは、「再雇用制度」に加えて65歳までの「定年延長」を導入しました。60歳を超えても専門性を磨き、環境に合わせて挑戦&変化し続ける人財を支援し、さらなる活躍を期待しています。なお、定年延長導入初年度は、90%の方が正社員継続、6%の方が再雇用契約社員を選択しています。そのほかにも、50歳を節目の年としてこれまでのキャリア（仕事・人生）を振り返り、自身の特性や価値観を考えて、自身の働き方を展望し、次のステージに向けたシナリオを描くための「50歳キャリア研修」を実施しています。今後も社員の終身成長を支援し、活躍の場を広げるための環境づくりを進めていきます。

## 旭化成住工ベトナム

旭化成住工ベトナム（ベトナム国ドンナイ省）は、ヘーベルハウスおよびヘーベルメゾンの海外生産拠点として2015年に設立されました。主に各種鉄骨部材を生産しており、旭化成住工と連携し品質向上に努めています。

今年度は、コロナ期間中に中断していた日本研修を再開し、ベトナム人スタッフ4名が5日間滞在し、工場の品質および安全管理の取り組みや日本の住宅環境を学びました。また、研修後には日本の歴史に触れるイベントや旭化成住工に技能実習生として従事しているベトナム人スタッフおよび日本人スタッフとの交流会で親睦を深め、グローバルな人財交流の場となりました。



旭化成住工にて研修



住宅展示場訪問



異文化に触れる



## 生産性の向上

### 基本的な考え方

私たちは、DXの推進や各種制度の充実により柔軟な働き方の実現と、社員の創造性や挑戦意欲の促進によるイノベーションの創出を目指します。

### 自分らしく働ける環境づくり

旭化成ホームズグループでは、社員のさまざまな働き方の支援と生産性の向上を目的に、さまざまな制度の運用を進めています。2023年1月よりフレックスタイム制度と在宅勤務制度の運用をスタートし、フリーアドレスと併せて活用することで、社員が自身にとって最適な時間や場所を選択して効率的に働くことができ、生産性の向上につながることを期待しています。また、ワークライフバランス実現の取り組みとして、有給休暇と育児休業の取得促進をしています。マネージャーを対象にした考課者勉強会や職場環境向上委員会活動、イントラネットなどさまざまな場で制度の理解浸透と好事例の展開を行うことで休暇を取得しやすい風土を醸成し、誰もが自分らしく働ける環境づくりを目指します。



DXによる労働管理と業務効率化

旭化成ホームズグループでは、作業者情報と現場入退場記録の一括管理により施工力把握と現場管理の精度向上を目的とするシステム「A-Smart」を導入しています。架電による現場入退場時間の登録や、作業者の資格情報、ツールボックスミーティング<sup>※</sup>の記録の共有が可能で、正確な労働管理やタイムリーな安全指導を行っています。また、各工事における施工記録を保管する「A-Skai工事報告書システム」で工事報告書をデジタル化することによりペーパーレス運用、現場完結型業務、施工記録の一元化を実現し、アフター部門への自動引継ぎ機能等により建物情報・エビデンスの確実な保存と業務効率の向上を実現しています。旭化成ホームズは、これらのシステムを活用して施工管理のDXを推進しています。

※主に安全や健康、作業手順などを共有するために作業現場で行われる短いミーティング

A-Skaiイメージ図







## 人財の確保と育成

### 基本的な考え方

私たちは、人の成長が組織の成長の源泉であるという考えのもと、社員一人ひとりの成長と多様なキャリア形成の実現、チームワークを活かすマネジメント力の向上などに取り組んでいます。すべての社員が個々の能力や強みを十分に発揮し共創することで、組織としての競争力の向上を目指します。

### 人財と組織の活性化

#### 上司との個人目標設定と振り返り・キャリア目標に向けた対話

旭化成ホームズグループでは、社員の成長支援のため上司と部下で定期的に面談を行っています。個人の目標管理のため、「WHAT・STEP制度」と称して年に1度の目標設定・査定評価面談と、半期ごとの中間評価面談を実施しており、期初には短期的な業績目標だけでなく、将来のありたい姿を掲げる中長期目標や期待役割に応じた行動目標も設定します。2024年度の中間評価からは、タレントマネジメントシステム「CaMP」も活用し、キャリア目標も含めた対話を開始します。これらを活用し、目標達成に向けたOJT（On the Job Training）の実施と、社員自身の努力を合わせ、一人ひとりの成長や活躍を図っていきます。

#### 組織力強化のための「活力と成長アセスメント（KSA）」

旭化成ホームズグループでは、2021年度から71項目の指標を設けて組織状況を診断するKSAの本格運用を実施しています。KSAは、「活力と成長循環モデル」（阪大・開本教授「組織行動論」）に基づき、個人と組織の状態を3つの指標（①上司部下関係、職場環境②活力③成長につながる行動）で捉えます。KSAの結果から支店や課など各組織の状況を「見える化」し、より良い組織づくりに向けた対話を実施します。そして、各組織に職場環境改善提案の意見箱の設置や定期的なコミュニケーションの場の設定などの活動を実施することで、社員が成長できる環境を整え、組織としての活力向上を目指します。



#### 「360度フィードバック」の活用

旭化成ホームズ、旭化成不動産レジデンス、旭化成リフォームでは各部署のマネージャーを対象に「360度フィードバック」を実施しています。マネージャーが上司や同僚、部下から普段の様子についてフィードバックを受け、自身の特徴や、今後高める特性・課題を明らかにし、改善計画を考え実行します。これによりマネージャー自身の成長と、より良い組織運営につなげていきます。



スキルアップと自律的なキャリア形成

旭化成ホームズでは、職種や年次ごとに求められる専門知識・スキルとその習熟レベルを一覧表にした「スキルナビゲーション」を成長の道標として、目標設定や振り返りに活用しています。2023年度からは、10年次の総合職社員に一斉に実施していたキャリア研修を、4年次～9年次の社員が希望する時期に受講可能とし、早期にキャリアについて考える機会の提供を始めました。プログラムには、より広い視野で解像度高くキャリアを描くために社内の活躍人財との交流も導入し、行動変容のフォローも実施しています。また、社員がキャリア希望や専門性・経験値などを登録してPRできるタレントマネジメントシステム「CaMP」も導入し、今後はそれを活用した上司との対話も開始予定です。今後も汎用性・実用性の高いスキルアップ研修を充足させながら、社員のキャリア観に寄り添いその実現を支援します。

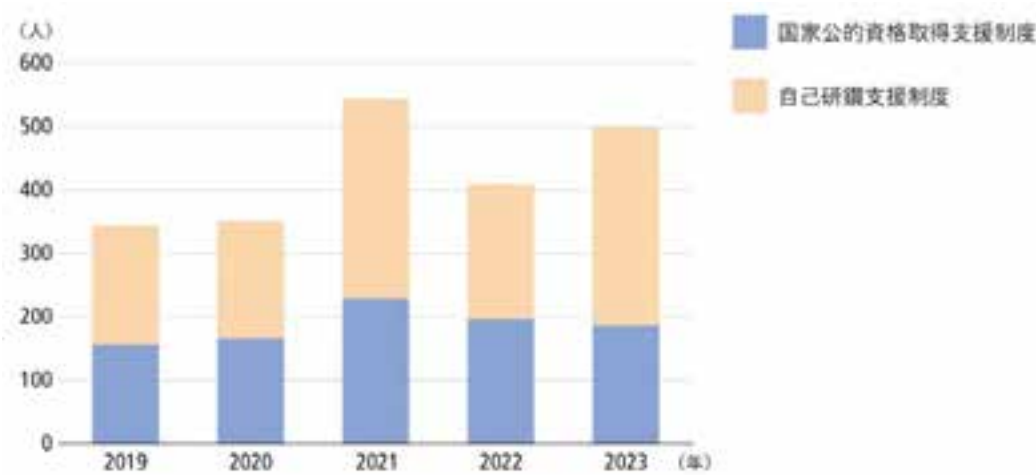
キャリアチャレンジ制度

旭化成ホームズでは、事業の多角化推進、ホームズグループの人財基盤強化に向けて、新たな能力の発掘や開花とより主体的・意欲的に業務に取り組める人財活用場として、2020年度より「キャリアチャレンジ制度」を導入しています。応募の際は上司承認を必要とせず、社員が現在の職務内容やこれまでの職歴に関係なく配置転換の希望ができる公募人事制度です。合格者は2020～2023年度の累計91名で、戸建住宅部門から開発事業部門に転換し活躍する社員等、新たなフィールドに挑戦する社員が増加しています。キャリアの複線化に対する可能性を拡げ、現在の業務においての成長や将来に向けた自己研鑽に対するモチベーション向上につなげていきます。

自己研鑽支援制度・国家公的資格取得支援制度

旭化成ホームズグループ全体では、業務に貢献する資格取得や外国語習得のための学習について、受講料や受験料、登録料などを補助する「自己研鑽支援制度」を導入しています。さらに、旭化成ホームズ独自の制度として、資格を取得した際に「祝い金」を支給する「国家公的資格取得支援制度」があり、2023年度は両制度を延べ500名の社員が利用しました。特に宅建・一級建築士に関しては、学習講座の見直しや祝い金の増額改訂など、学習レベルの向上や早期の資格取得推進に向けた取り組みを実施し、社員のスキルアップを支援しています。  
(2023年度合格者：宅建53名、一級建築士28名)

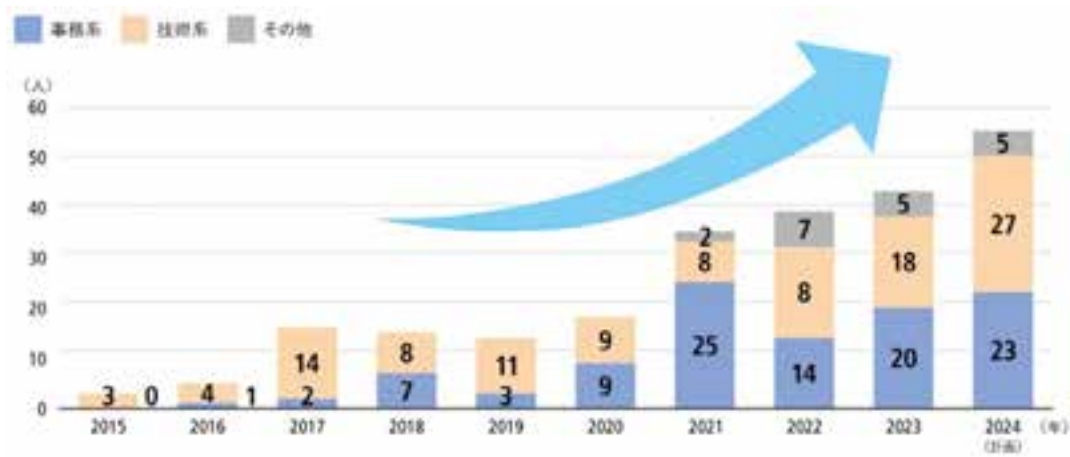
制度利用者数



キャリア採用の拡大

旭化成ホームズは、近年の環境・社会の変化や事業ポートフォリオの転換に伴い、柔軟な発想や高い専門性、新たな視点を持った人財の獲得のため、キャリア採用を強化しています。新規採用者のうち、以前は1割に満たなかったキャリア採用の割合を、今後は4割程度まで増加することを計画しています。2023年度8月には、リファラル採用（社員紹介）の強化のためアプリを導入し、5名が入社しました。また、キャリア入社社員と社長の座談会を実施し、社員の意見を活かした組織風土や業務の変革を行うことで、さまざまな人財にとって魅力的な組織づくりを目指しています。今後も多様な人財の確保と活躍・成長を支援し、新たな価値創出ができる組織づくりをしていきます。

キャリア採用人数の推移（過去10年）





## 労働安全衛生の確保

### 基本的な考え方

私たちは、オフィスだけではなく施工現場や工場などさまざまな場所で事業活動を行っています。あらゆる事業活動において、社員が最大限能力を発揮できるよう、安全で快適な職場環境の整備と心身の健康保持増進へ積極的に取り組みます。

### ライフセービング・アクション（LSA）

ライフセービング・アクション（LSA）とは、旭化成グループで働くすべての人の「命を守る（Life Saving）」ことを最優先に考え、グループ全体における安全文化の構築を目指した取り組みです。建設業では、重大災害の多くが高所作業における転落災害であることから、旭化成ホームズグループでは「安全帯なしでの高所作業は禁止」と定めています。2023年度は各エリアが行う通常の安全パトロールに加えて、本社による安全監査を強化し、積極的な指導と啓発活動を実施しました。また、事業を展開している北米と豪州においても、SafetySummit（安全大会）を通じて、墜転落事故撲滅を重点目標としてLSAを推進しています。今後も繰り返しの教育を通して、国内外における現場安全の徹底を図ります。



可動部への近接作業禁止



吊荷の下は立入禁止



安全帯なしでの  
高所作業は禁止



スピード違反禁止  
運転中の携帯・スマホ禁止  
シートベルトせずの乗車禁止



2023年度 SafetySummitの配布資料

新規入場者教育の徹底

施工現場で発生する労働災害の中では、経験の浅い作業者の割合が高く、一般的にその理由は、慣れない仕事や環境が、不安全行動につながるためと言われています。このため、施工現場に入る前の安全教育「新規入場者教育」が非常に重要です。旭化成ホームズでは、作業員に教育を実施する工事店に対し、①講師資格の「インストラクターの育成」、②「安全教育資料の整備」、③安全教育実施後に現場入場資格を許可する等「実施ルールの規定」の3点の支援を行っています。さらに2023年度は、経験1年未満の作業者を対象にフォロー教育資料を作成して再教育を実施し、安全知識のアップデートおよび意識の強化に努めました。今後も安全教育の環境整備に努め、災害のない安全で安心な施工現場を目指します。



化学物質リスクアセスメント

化学物質リスクアセスメントとは化学物質を含む材料の持つ危険性や有害性を特定し、それによる労働者（作業員）への危険または健康障害を生じるおそれの程度を見積もり、リスクの低減対策を検討し、それらを作業員へ周知することをいいます。旭化成ホームズでは施工現場で使用する化学物質を含む材料についてリスクを評価し、その結果を周知しています。

また、施工現場では作業員が作業前に実施するKY（危険予知）活動の中で、使用する材料についてのリスク評価結果や取扱説明書のほか、部材梱包に表記されているラベルを元に危険性や有害性を確認することで、危険性や健康障害リスクの低減活動の定着に努めています。



製造現場における安全活動のDX化

旭化成住工では、製造現場のさらなる安全の強化を目的として、製造業DX化の取り組みを活用しています。設備にはPLC（プログラマブルロジックコントローラ）が設置され、日々貴重なデータが蓄積されています。データを作業員に可視化することで製造過程の透明性を高め、安全活動に役立てようとPinch Point Trackerの開発を進めています。これは、危険箇所（ピンチポイント）に対して安全機装置の反応回数を数値化し見える化することで危険箇所への接近を減少させることを目的としています。作業員が気づきにくい危険箇所まで意識できるようにすることで、リスク回避策の根本的な改善にもつながることを期待しています。この取り組みを第一歩として、製造プロセスの革新を推し進めスマート工場の実現を目指します。



Pinch Point Trackerディスプレイ装置例



## 北米事業における安全活動

北米事業の関係会社Austin社、Brewer社では、従業員の安全意識を高め、優れた安全文化を醸成するため、「Austin Companies' Safety Raffle Program」、「Brewer Safety + Chip Program」と呼ばれる活動を行っています。安全監査の合格、安全研修への参加、防護具の着用、危険箇所の報告や是正、社外から安全意識の高い行動を表彰されるなど、安全に関するさまざまな成果をポイントやチップに変換し、それを獲得した社員が豪華景品の抽選に利用できる仕組みです。

安全はすべての人が担う責務であり、すべての負傷事故は回避可能と考えています。包括的な取り組み、透明性の高い選考方法、魅力的な報酬を通じ、これらの活動は安全に対する企業の姿勢と従業員のwell-beingを尊重するコミットメントの証となっています。



Austin社 景品抽選の様子



Austin社 当選者の紹介



Brewer社 現場の安全ミーティングの様子



Brewer Safety Chip

## 健康経営に対する考え方

私たちは、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献し、企業価値を向上させていくためには、「人財」がすべてであるという考えに基づき、従業員が心身ともに健康で活躍できる環境づくりを進めています。2020年には旭化成グループで「健康経営宣言」が発表されたことを受け、旭化成ホームズグループでも従業員の健康に関する取り組みを全社的な経営課題と位置づけた「健康経営」を展開しています。

※「健康経営」はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。

▶ [旭化成グループ健康経営方針](#) □



旭化成ホームズグループの健康経営

旭化成ホームズグループでは、健康経営推進のために健康管理室と人事部が一体となってさまざまな施策を推進しています。「健康増進PJ」「メンタルPJ」「健康情報活用PJ」の活動を通じて、健康経営KPI改善のためのヘルスアッププログラムの実施や禁煙の推進などを行います。2023年度は新たな施策として、産業医、保健師、人事担当者が連携し部署長と共にストレスチェックの組織診断結果と職場環境の実態のすり合わせを行い、改善に向けたアクションプランの策定と実行をしました。これには3部署が取り組み、うち1部署では短期での改善がみられました。この取り組みは今後も継続予定です。このような活動の成果として、ストレスチェックは全国平均（100）に対して2割程度低く推移しています。

※「健康経営」はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。



健康経営KPI（Key Performance Indicator：重要業績評価指標）

| 目標項目        | 業績値   |        |       | 目標値（旭化成G） |
|-------------|-------|--------|-------|-----------|
|             | 2021  | 2022   | 2023  | 2024      |
| 1.メンタル休業率   | 1.16% | 1.38%  | 1.25% | 1.00%     |
| 2.生活習慣病重症化率 | 10.7% | 10.8%  | 10.2% | 8.9%      |
| 3.メタボ該当者率   | 10.9% | 10.9%  | 11.4% | 8.9%      |
| 4.休業日数/がん1件 | 69.2日 | 120.5日 | 89.8日 | 67.3%     |
| 5.喫煙率       | 25.2% | 24.8%  | 24.2% | 18.5%     |
| 6.睡眠        | 30.6% | 29.8%  | 30.5% | 24.2%     |

健康診断と健康管理システム導入

旭化成ホームズでは社員の健康増進を図るため、健康診断に法定項目以外の検査も含めています。また人間ドックやがん検診、胃カメラ検査等を任意で受けた場合の費用についても助成を行っています。2023年度には、個人のスマホからも健診結果や産業医からのコメントなどを確認できる健康管理システム「Growbase」を導入しました。産業医が要受診と判断した場合は二次健診の要否および受診結果の入力を依頼する通知が届く等、DX化により利便性を向上し、社員の健康増進に取り組んでいます。

システムイメージ図



ヘルスアッププログラム（特定保健指導）

ヘルスアッププログラムは、腹囲やBMIに加え、血糖、脂質、血圧の判定値に該当し、生活習慣病の発症リスクが高い社員を対象としています。食事・運動をはじめとした生活習慣を早期の段階から見直すことで生活習慣病を予防し、将来にわたってより健康で充実した状態を維持していくことを目的とした保健指導プログラムです。旭化成ホームズグループでは、これを「原則受診」とし、社員の生活習慣病予防および健康増進に取り組んでいます。2021年度からの3カ年計画で982名が参加し、平均で体重2kg減少や腹囲2cm減少などの効果が認められました。



全員参加に向けた3カ年計画

マイヘルスウェブ

旭化成ホームズグループでは、旭化成健康保険組合による個人向け健康ポータルサイト マイヘルスウェブを活用しています。マイヘルスウェブでは、医療費や給付金情報、健康診断結果をいつでもどこでもチェックすることができます。また、体重・血圧・歩数などのバイタルデータを記録して健康状態を把握し活用することができます。利用に応じたポイントでアイテムがゲットでき、社員が楽しみながら健康増進に取り組むことができるシステムです。今後も社員の主体的な健康増進を支援していきます。



## 高品質で安全な製品の提供

### 基本的な考え方

私たちは、お客様に安全・安心で高品質な住まいをお届けするため、製品の開発から工場や施工現場など、あらゆる場面で品質管理に努めています。また、入居後の安全・安心が長く続くよう、アフターサービスの強化に努めており、さらなる品質向上を目指して取り組みを行っています。

### 品質と企業風土

旭化成ホームズでは、お客様に満足していただける安全・安心な製品・サービスを提供することが社会的な使命であると考え、「品質方針」を定めて品質の確保と向上に取り組んでいます。

また、昨今起こっている性能偽装などの品質問題は、企業風土の低下が要因の一つであり、それは旭化成ホームズグループにとっても看過できない重要な課題であると考えています。そこで2023年6月に、「現場力」の第一人者である遠藤功先生をお招きし、「生きている会社・死んでいる会社」をテーマに、経営管理職約900人に対し講演を行いました。見本となる他社の人財育成や業務改善の事例等を通じて、良好な企業風土の構築が品質の担保に不可欠であることを学びました。今後も啓発活動を継続し、品質向上に努めていきます。



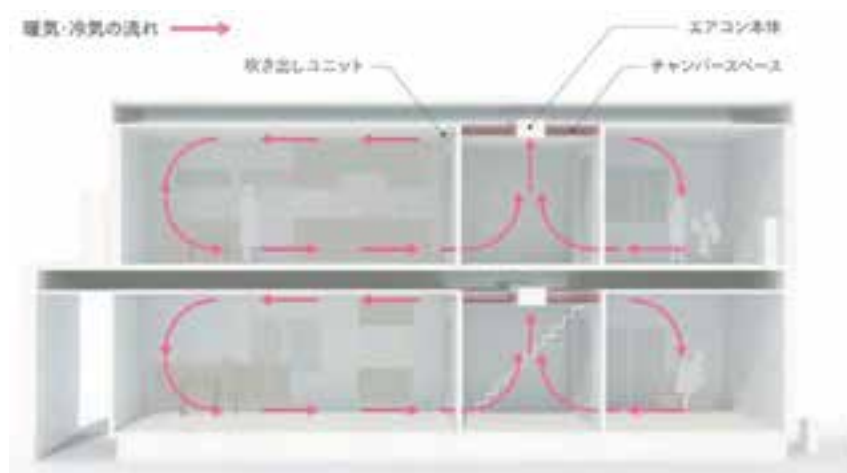
遠藤功先生著  
(東洋経済新報社)

### 製品・技術開発における品質管理

製品・技術開発においては、建築基準法などの関連法令への適合はもちろんのこと、高品質な住まいをお届けするためには、工場で製造しやすい、現場で施工しやすい製品であることも重要です。また、ロングライフ住宅として、構造躯体や防水など建物の耐久性が高いことだけでなく、部品交換など維持管理がしやすいことも必要です。

例えばロングライフ全館暖冷房システムでは、建物に比べ耐用年数の短いエアコンは一般市販品を用いることで交換性を確保したオリジナルシステムとしています。このように高品質な住まいを提供するため、購買、施工、アフターサービスなど関連部署とレビューを行い、製品・技術開発における品質管理に取り組んでいます。

## ロングライフ全館暖冷房システム



## 工場における品質管理

旭化成住工は、新製品や設計変更、5M\*変更等で品質に影響を及ぼす設備・工程において、生産準備段階から量産試作品の評価、初品検査まで品質保証活動を組織的かつ計画的に行っています。DX化や新技術による検査精度の向上とコストダウンが求められる中、これまでノギスやコンベックスなどを用いて人の手で行っていた検査に対して簡単な操作で高精度な測定ができる「ワイドエリア三次元測定器」を導入しました。本器は、一度手順をプログラミングすることで繰り返し検査ができるため、測定精度と安全性の向上、検査時間削減の効果があります。今後、製造部門への展開も検討し、作業者の検査レスなどの省人化と品質の安定の取り組みを進めます。



ワイドエリア三次元測定器を用いた検査の様子

※製造現場の品質管理の要素

Men (人)、Method (方法)、Machines (機械)、Materials (材料)、Measurement (計測)

## 購買先の品質管理

旭化成ホームズの生産技術室では、HEBEL HAUSに供給される部材の品質向上活動を購買先であるメーカーと協働で行っています。年度ごとに目標と活動計画を立て、生産現場の確認と進捗状況の把握、工場監査による確認指導を実施しています。自分たちが確信できる品質で現場に製品をお届けする「確信の品質」活動により、2023年度は総不適合数を対前年で約23%削減しました。また、2023年度は旭化成住工と協働し、新工場設立の土地取得～工場建設等、製造内製化による重要部材の安定供給にも取り組みました。内製化の取り組みは、社員の知識や技術向上等の人材育成にもつながっています。



工場内での内製化立上の様子

## 旭化成ホームズ建設技術教育センター

旭化成ホームズ建設技術教育センター（茨城県つくば市）は、建設技能者の継続的な確保と育成を目的に2021年3月に開設した研修施設です。木工事や設備工事の技能実習ができる6棟のヘーベルハウスの実棟と基礎配筋や鉄骨建方などの施工研修ができる4棟分のスペースを配置した実習ゾーン、約100名が座学で学べる研修室を備えた研修棟を併設した、知識と実技双方の教育を行える施設です。施工管理を行う工事担当向けの年次研修や品質検査のスキルアップを目的とした社員研修、グループ内施工関連会社の研修をはじめプレハブ建築内装工事の認定職業訓練等を実施し、旭化成ホームズグループの社員だけでなく、協力会社も含めた人材育成を支援しています。2023年度は延べ4,205名が本施設を利用しました。

また、施設内のスタジオから全国に向けてリモートによる遠隔講習を行っており、2023年度は職長関連教育や特別教育などの安全衛生講習を2,058名の方が受講しました。

今後も質の高い技量を持つ建設技能者を育成して高品質な住まいを提供するとともに、安心して長く働き続けられる環境づくりを推進します。



建設技術教育センター外観



実習棟



認定職業訓練の様子

## 施工現場での品質管理：LLQCS

ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンの品質管理は、ロングライフ住宅品質管理規定（LLQCS：Long Life Quality Control System）に従い、各エリアすべての施工現場で実施されています。LLQCSでは検査員や施工者など、携わる人の役割と責務を明確にして品質検査の仕組みを厳格に規定しています。各エリアの品質確保水準向上のため、本社では、重要構造部である基礎や躯体を定期的に現場監査することに加えて、各エリアの先導者となる品質リーダーの教育や、工事担当が検査員になるための検定の実施を通じて、全国のヘーベルハウス・ヘーベルメゾンの品質確保に努めています。



検査員による厳格な検査

## アフターサービスの強化

### ▶ アフターサービス活動





私たちは、社会の一員である企業として、公正・透明なガバナンスの実現と、展開する地域における法令はもとより、社会規範の遵守を含めた事業活動の推進を徹底し、健全な経営を行います。また、当社の知識や経験を活かして地域や社会の発展に貢献するため、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを積極的に行っていきます。

### Our Integrity

誠実な事業運営を通じて信頼を築く



| マテリアリティ            | KPI                          | 2023年度実績                                                                                                                                                                                                                         | 2024年度目標            | 2025年度目標     | 関連する取り組み                           |
|--------------------|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|--------------|------------------------------------|
| コンプライアンス経営の推進      | コンプライアンスに対するリテラシーの向上および適切な管理 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●eラーニング受講率 品質事案発生防止関連：97.5%</li> <li>●対話型コンプライアンス研修 実施率：100%</li> <li>●コンプライアンス推進会議の開催：1回/月</li> <li>●内部通報件数：94件（コンプライアンスホットラインおよび各グループ会社の相談窓口の通報件数の合計）</li> </ul> 事業遂行に影響を及ぼす重大な案件はなかった。 | 実績開示                | 実績開示         | 内部通報制度（コンプライアンスホットライン）             |
| 情報セキュリティの確保と個人情報保護 | 情報資産保護に対するリテラシーの向上および適切な管理   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●eラーニング受講率 個人情報保護関連：99.7%</li> <li>●情報セキュリティ訓練の実施回数：2回</li> <li>●旭化成グループIT責任者会議：1回/月</li> <li>●旭化成グループセキュリティルールおよびセキュリティ対策についての情報の共有・展開</li> </ul>                                        | 実績開示                | 実績開示         | 情報資産保護に対するリテラシーの向上および適切な管理に対する取り組み |
| サプライチェーンマネジメントの強化  | CSR調達の推進                     | 主要取引先に対しCSR調達アンケートを実施した。<br>回収率：100%                                                                                                                                                                                             | アンケート結果に対する評価・分析の実施 | 取引先に対する面談の実施 | 木材調達における取り組み<br>CSR調達における取り組み      |

| マテリアリティ          | KPI                  | 2023年度実績                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 2024年度目標 | 2025年度目標 | 関連する取り組み  |
|------------------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|-----------|
| ステークホルダーエンゲージメント | 持続可能で強い施工体制の構築       | <b>施工人財の定着・育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 普通職業訓練 短期課程 プレハブ建築科として、経験の浅い施工者を対象とした内装施工初級訓練を実施した。</li> <li>● 各エリアの営業本部において、「高い施工品質」や「若手育成」等、それぞれのテーマで工事店現場責任者に対する研修等を企画・実施した。</li> </ul><br><b>工事店・施工者との結束力の強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「第2回 自然災害初期対応訓練」を実施した。具体的な指示や行動の訓練を実施したことで、有事の際の実効性を高めた。</li> <li>● 施工者に対する健康診断を各エリアで主催し、全国で1487名が受診した。</li> <li>● 施工者や施工者の家族を含めたレクリエーションを各エリアで実施し、親睦を深めることで施工意欲の向上やロイヤリティの向上に努めた。（ソフトボール大会、クルーズ貸し切りイベント他）</li> </ul> | 実績開示     | 実績開示     | 「緑の会」の活動  |
|                  | 施工現場の安全性の向上および近隣への配慮 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 旭化成ホームズでは施工現場の安全性向上や近隣への配慮を目的とした「凜とした現場づくり」に向け、全国共通の評価指標を策定している。評価基準をもとに、全エリアでの監査を行い、監査の結果を各工事課および各工事店へフィードバックした。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 実績開示     | 実績開示     | 凜とした現場づくり |

コンプライアンス経営の  
推進



情報セキュリティの確保と  
個人情報保護



サプライチェーン  
マネジメントの強化



ステークホルダー  
エンゲージメント



コーポレートガバナンス



「人」と共に成長してきた企業だからこそ  
「人」に寄り添い、誠実な事業運営を実現します。

執行役員 総務部長

リスク・コンプライアンス担当 業務監査担当

阿萬 恭之



旭化成ホームズグループは、「人」と共に成長してきた企業です。多様な社会課題が顕在化する現在、事業と価値創出を続けるための経営基盤の強化と併せて重要としているのが、お客様をはじめとしたさまざまなステークホルダーの皆様からの「信頼」です。

ステークホルダーの皆様からの信頼を得るうえで欠かせないのは「誠実な事業運営」です。旭化成ホームズグループの考える誠実な事業運営は、コンプライアンス経営の推進という企業の社会的責任を遂行するだけでなく、「自らの意見を主張できる」「誤りを指摘できる」従業員やサプライヤーの心理的安全性の確保も重要とします。「人」と共に成長してきた旭化成ホームズグループだからこそ、それぞれの声を聞くために寄り添い、健全な企業風土の醸成を実現したいと考えています。

また、私たちの事業活動では、お客様に合わせたLONGLIFEな「くらし」を提案するため、個人情報など、お客様の重要な情報を多く取り扱います。そのため、情報セキュリティの確保と個人情報保護は、私たちの事業継続の観点だけでなく、お客様との信頼関係を築くためにも重要となります。

ステークホルダーの皆様から得られた「信頼」は、私たちの事業活動の根幹となっています。皆様からの期待、社会から受けた恩恵にお返しができるよう、今後も事業を通じて地域や社会の発展に貢献していきます。

## Our Integrity

誠実な事業運営を通じて信頼を築く

## コンプライアンス経営の推進

## 基本的な考え方

変化する社会のなかで健全な事業運営を継続するためには、企業全体でのコンプライアンスの徹底が重要です。旭化成グループでは、リスク管理と「リスクコンプライアンス委員会」を始めとした推進体制などの基本的な事項や有事における初動や緊急事態体制などを「グループ リスク管理・コンプライアンス基本規程」で定めています。旭化成ホームズグループでは、グループ行動規範や内部通報制度、リスクコンプライアンス委員会の設置により把握したリスクの周知・浸透を継続的に行い、事業運営の基盤強化に努めています。

## 旭化成グループ行動規範

旭化成グループは、2022年4月に開始した「中期経営計画2024~Be a Trailblazer~」において、グループ全体で取り組むテーマの一つに「リスクマネジメント・責任ある事業活動」を掲げています。リスク管理と安全操業に共通するのはコンプライアンスの徹底です。

「旭化成グループ行動規範」は、社員一人ひとりが旭化成グループの一員として正しく判断・行動できるように制定しています。これは、コンプライアンスを踏まえて事業を遂行するための判断基準を具体的に示したもので、社員にとっては日々の基本行動の拠り所となります。行動規範の徹底のために、対話型コンプライアンス研修の実施やeラーニングの活用など全社員への定期的な教育や実践的な活動を継続しています。2023年度には、「旭化成グループ行動規範」内のトップメッセージの更新と併せてコンプライアンスホットラインの情報を充実させる改訂を行いました。社会の要請、情勢の変化などを踏まえ、その有効性を保てるように、継続的な行動規範の見直しにより、社員全員の「誠実な行動」を徹底します。

## 旭化成グループ行動規範の概要

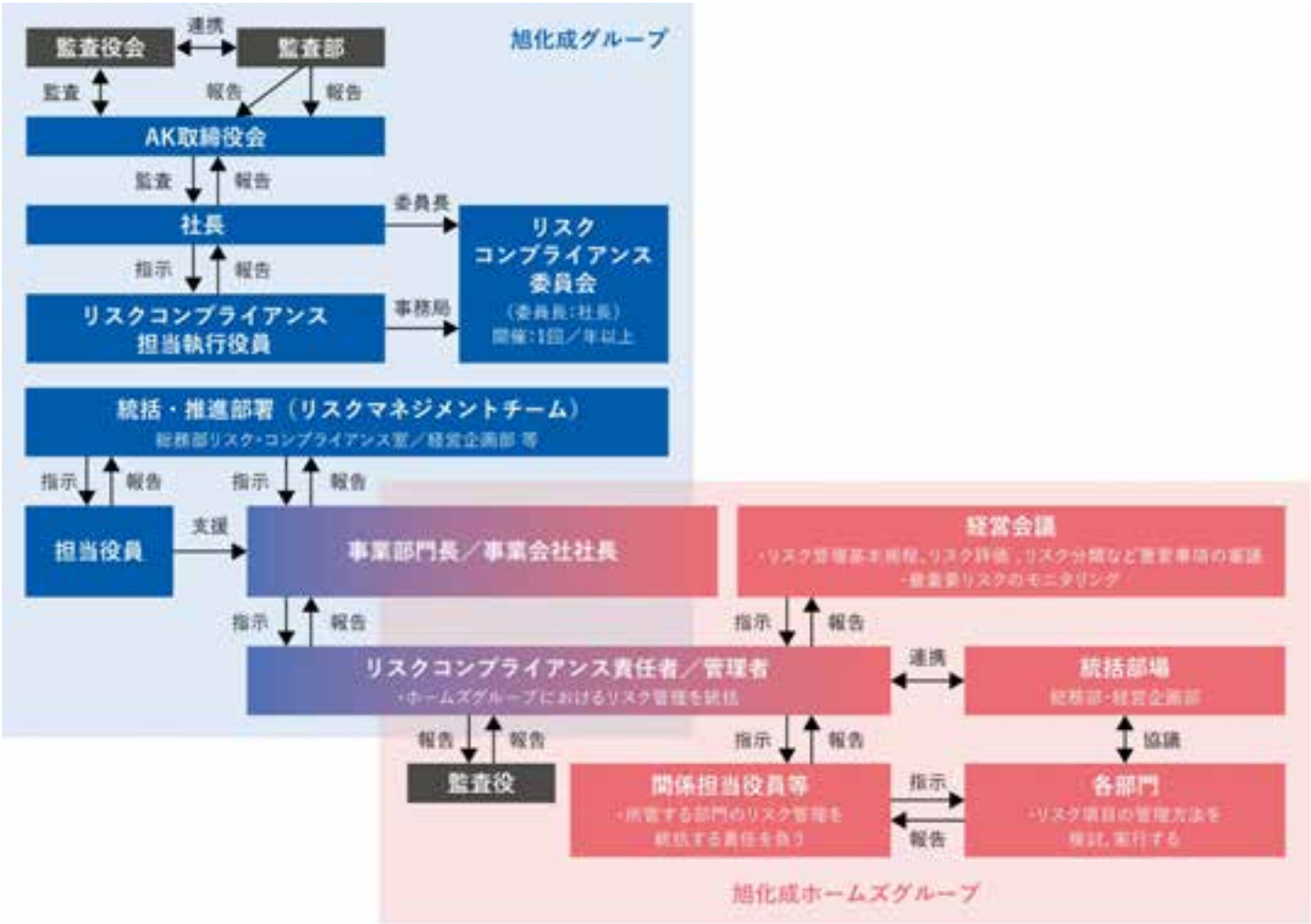
1. “いのち”と“くらし”に貢献するために安全・環境・高品質を確保する
2. 私たちを取り巻く様々な関係者の皆さまとの“誠実”な関係を維持する
3. 経営資源を適正・有効に活用する



旭化成グループ行動規範冊子

旭化成ホームズグループのリスクマネジメント体制

旭化成ホームズのリスク・コンプライアンス担当責任者／管理者（役員）は、社長の指示のもとリスクマネジメント全体を把握し、各部門におけるリスク対応について各部門長に指示・支援を行います。また、同役員のもとに統括部場を設置し、社内各部門の活動をモニタリングし、具体的なリスク対策を支援します。そして、経営会議で、リスクマネジメントに関する重要事項の審議や重要リスクのモニタリングを実施しています。



コンプライアンスに対するリテラシーの向上および適切な管理に対する取り組み

旭化成ホームズでは、「コンプライアンス推進会議」を担当役員指導のもとで月1回開催しています。旭化成ホームズグループの事業に関わる法令等を把握したうえで、速やかにコンプライアンス上必要となる対応を決定することで、コンプライアンスを徹底しています。また、従業員のリテラシー向上の目的で、毎年「対話型コンプライアンス研修」「eラーニング」をそれぞれ実施しています。「対話型コンプライアンス研修」では、日常業務で起こり得るさまざまなコンプライアンス問題について、社内で作成した事例と解説を使用して、各部署単位で意見交換を行うことで理解を深めています。2023年度は、「ハラスメント」「贈収賄の防止」等をテーマに3回にわたり開催しました。当研修は、旭化成ホームズグループの国内全部署（一部の海外子会社を含む）で行っており、実施率はほぼ100%でした。「eラーニング」では、「個人情報関連」「品質コンプライアンス」に関する知識を学ぶカリキュラムを開講し、2023年度の「品質コンプライアンス」の受講率は97.5%と高い数値でした。



## 内部通報制度（コンプライアンスホットライン）

旭化成グループは、社内におけるコンプライアンスに抵触する可能性のある状況を早期に把握し対策を講じることで、重大なコンプライアンス違反の発生を回避するために、「コンプライアンスホットライン」という内部通報制度を運用しています。当制度は、海外の関係会社を含む旭化成グループで働くすべての人が利用可能で、グループ内窓口への通報はメール、電話、書面等が選択でき、実名・匿名いずれでも受け付け可能です。通報者のプライバシーは厳守し、通報したことによる不利益を受けることがないよう徹底しています。また、グループ外窓口として、弁護士事務所への通報も可能としています。通報された内容については、担当役員が指名した事務局および調査・対応チームが調査を行います。調査・対応の結果、違法行為等が認められた場合、違法行為等を直ちに中止するように命ずる他、重大な違反やそのリスクが今後も考えられる可能性があるものなどは、リスクコンプライアンス委員会において詳細を共有し、類似事項が発生しないような活動につなげていきます。

また、より相談しやすい環境づくりのため、コンプライアンスホットラインに加え、旭化成ホームズの各グループ会社が独自に運営する相談窓口も設けています。2023年度のコンプライアンスホットラインおよび各グループ会社の相談窓口への通報件数は、合計で94件でした。各通報には適切な対応を行い、結果として事業遂行に影響を及ぼす重大な案件はありませんでした。

## 化審法・安衛法・毒劇法への対応

旭化成ホームズでは、半期ごとに開催する「化学物質確認会議」を通じて化審法・安衛法・毒劇法の改正情報を共有するなど、商品開発や体制整備、マニュアル制定時の化学物質安全評価に漏れないよう努めています。2023年度は厚生労働省による労働安全衛生法の改正により、化学物質の管理が強化されました。旭化成ホームズはパートナー企業とともに、新規に定められた「化学物質管理者」「保護具着用管理責任者」の施工現場への配置を確実に行うとともに、建設業に関連する法改正内容を関係者に確実に伝えるため、管理職の教育や新規入場者教育も徹底して行っています。



厚生労働省発行パンフレットより

## 啓発活動（環境安全・品質保証大会）

旭化成グループでは、環境安全・品質保全に関する啓発活動として「環境安全・品質保証大会」を年1回開催しており、旭化成ホームズも毎年参加しています。2023年度は、12月8日に延岡の野口遵記念館にて開催されました。今回のテーマは化学プラントにおける安全マネジメントなどが主でした。住宅事業とは異なる分野ですが、さまざまな事業分野の事例発表や専門家による講話などから、住宅事業でも生かせる環境・安全・品質に関する管理業務改善のヒントを多く得られました。自社工場を所有する旭化成ホームズグループにとって、さまざまな事業分野からの知見を得ることは非常に重要であり、今後も引き続き大会への参加を通じて、旭化成ホームズグループの環境安全・品質保全に対する質の向上を図ります。



## Our Integrity

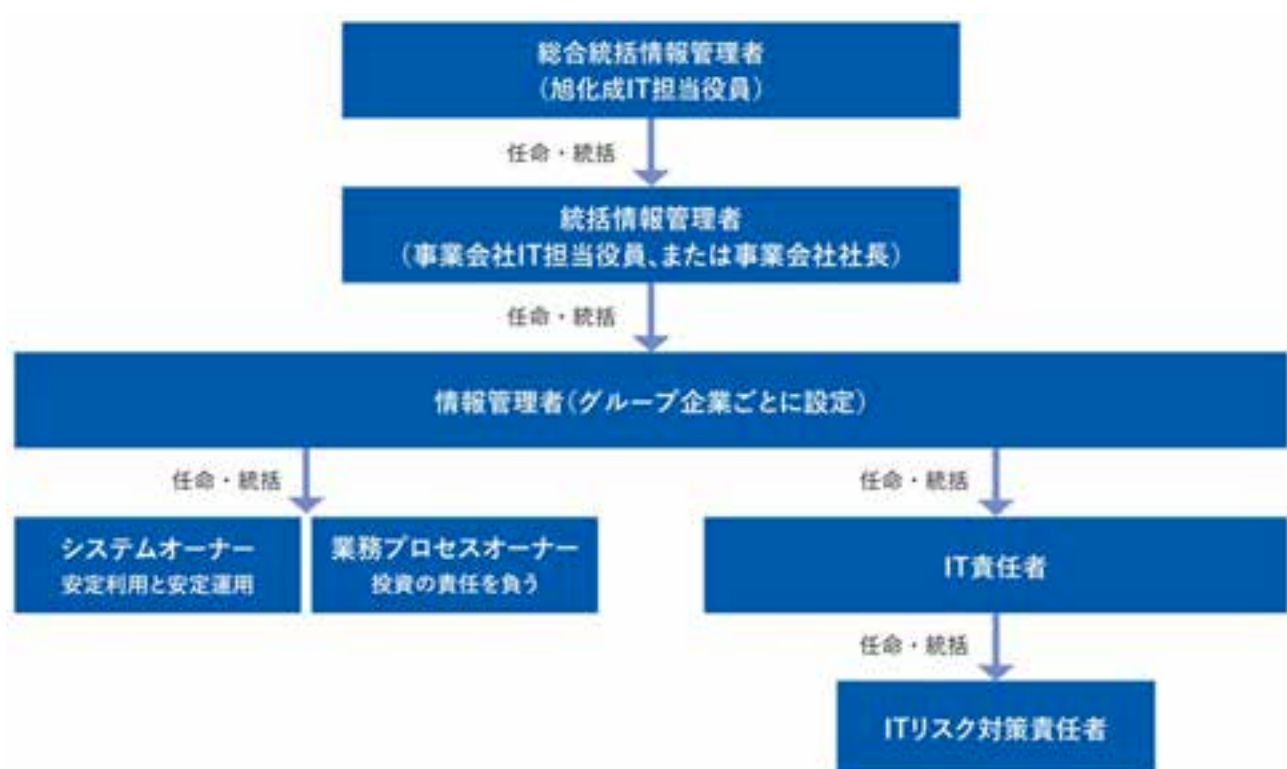
誠実な事業運営を通じて信頼を築く

## 情報セキュリティの確保と個人情報保護

## 基本的な考え方

私たちは、お客様の大事な個人情報を含め、お客様の安全を守る技術的な情報など、重要な情報を保有しており、これらを漏洩・棄損等から守ることは重要な課題です。巧妙化・高度化するサイバー攻撃を防ぎ、安全な事業活動を継続するため、情報セキュリティ事故を未然に防ぐ対策や社員のリテラシー向上の教育等を継続実行するほか、社会の変化に応じた取り組みの見直し・改善も行います。

## 推進体制



情報資産保護に対するリテラシーの向上および適切な管理に対する取り組み

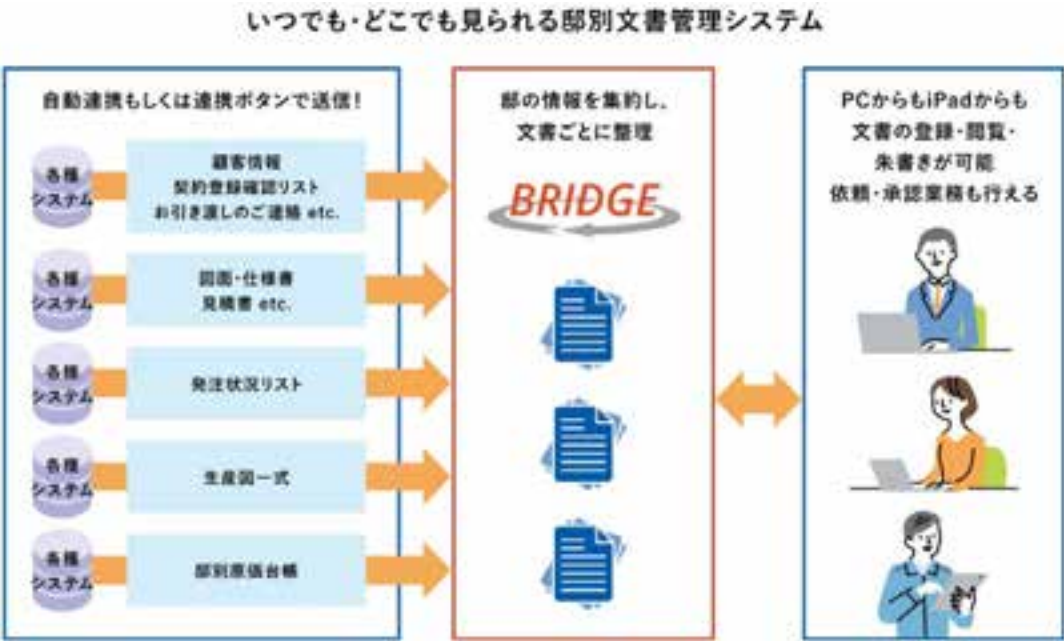
旭化成ホームズグループは、お客様の大切な個人情報や、私たちが開発した独自の技術情報など、重要な情報を取得・利用しながら事業活動を行っています。そのため、事業活動を継続的に行う上で、情報セキュリティは最優先事項です。旭化成ホームズグループでは、社員一人ひとりが情報セキュリティの重要性を理解し、サイバー攻撃等から情報資産を守れるよう、情報セキュリティ教育と訓練を継続的に実施しています。2023年度は、「個人情報保護と情報セキュリティ遵守のためのeラーニング」を開講し、99.7%の受講率を達成しました。また、日々高度化するサイバー攻撃に備えるため、旭化成グループ全体で不審メールの受信時を想定した情報セキュリティ訓練を年2回実施し、従業員の意識向上に努めました。

旭化成グループ全体では、各領域のIT責任者を集めた会議を毎月開催し、セキュリティ対応の共有、対策を行っています。特にセキュリティに関する基本的なルールは、「情報セキュリティハンドブック」にまとめられ、全従業員が常に関連できるようにしています。ハンドブックは定期的に見直しを行っており、2024年1月にも改訂を行いました。今後も情報セキュリティを守っていくために、従業員の意識向上のための取り組みとグループ全体での活動を継続していきます。



DXを活用した図面の管理(BRIDGE)

BRIDGEは、ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンに関する図面・文書の保管・閲覧や確認依頼業務の効率化を目的に、2019年度に独自開発したシステムです。「いつでも・どこでも・だれでも」をコンセプトに、電子化した図面・文書を一元管理します。BRIDGEに登録された文書は、PCだけでなくタブレット端末からも閲覧・依頼でき、手書きノートアプリと連携することで電子データ文書に打ち合わせ内容を朱書きできるなど、現場の業務効率向上とペーパーレス化に貢献します。一方で、BRIDGEに登録される文書は大切なお客様の情報にあたるため、担当者と厳選された社内関係者以外のアクセスを制限しています。このように、利便性も確保しつつ、アクセス制限をかけることで、大切なお客様の情報を適切に管理しています。



## Our Integrity

誠実な事業運営を通じて信頼を築く

## サプライチェーンマネジメントの強化

## 基本的な考え方

私たちの事業活動は、従業員だけでなく、部材の製造から物流、施工など多くのお取引先様との協働により成り立っています。お取引先様との信頼関係を築くための密接なコミュニケーションや、サステナビリティを考慮した調達やサプライチェーン全体でのサステナビリティの取り組みの高度化を実行し、すべてのお客様に安心いただける商品・サービスを提供するとともに、すべてのステークホルダーの皆様信頼される事業運営を行います。

## パートナー会社との協働による品質向上と改善活動

近年の住宅部材は、調達先のグローバル化や製品そのものも複雑で高機能な部品となっています。従来から、調達部材については定期的にパートナー会社の製造工場を訪問し、現物確認の活動を実施してきました。コロナ渦においてはこれらの活動も制限しましたが、現在は定期的な訪問の頻度を上げると共にWeb会議も併用することで、89社以上に及ぶパートナー企業に対してコロナ禍以前と比べてより効率的に、原料や部品の仕様・製造工程の変更管理や法令遵守の状況などの確認をしています。定期的な交流をすることで、製造現場等を含む人的な信頼関係を構築し、品質向上の協働活動も行っています。鉄骨等の特に重要な部材については、原材料の調達から当社でお取引先様を指定し、その品質を確認することで品質レベルの維持・向上を果たしています。またパートナー会社の工場において、製造ラインの改善や作業の見直し等の協働改善活動を実施し、品質向上と共に生産性向上にも努めています。

毎年実施している購買先調査の中では経営・品質だけでなく、BCP（事業継続計画）についても評価し、水害や感染症といった新たな災害に対する対応力の強化に取り組んでいます。

## 木材調達における取り組み

地球温暖化、森林環境破壊などの環境問題に対する取り組みの重要性はますます高まっています。旭化成ホームズでは責任ある木材調達を推進するために、「合法伐採木材等の流通および利用の促進に関する法律（通称クリーンウッド法）」に基づき、第二種木材関連事業者に登録しています。また社内での運用規定として、木材グリーン調達方針を掲げ、森林生態系の保全に配慮した調達の確保のために、毎年、お取引先様に対して木材調達の実態調査をするとともに、必要に応じて現地確認を行っています。併せて、国産材の利用率の向上活動にも積極的に取り組んでおり、床材基材および天井地下材の国産材への変更をお取引先様と協働で進めています。今後も責任ある調達と管理を継続することにより、森林生態系の保全に配慮した木材利用の確保を目指した取り組みを進めていきます。

## CSR調達における取り組み

旭化成ホームズは、持続可能なサプライチェーンの構築のため、環境側面（エネルギー使用や気候変動、生物多様性の保全等）や社会側面（差別禁止や機会均等、過度の労働時間の削減等）に対し、サプライチェーン全体で取り組むことでCSR調達を推進したいと考えています。2023年度では、CSRを意識した事業活動を実践していただくため、お取引先様に対してCSR調達アンケートを実施し、すべての主要お取引先様から回答をいただきました。今後も法令を遵守し、環境や社会に配慮し、公正かつ透明性を重視した購買活動を通じて、お取引先様との信頼関係を構築していきます。

## Our Integrity

誠実な事業運営を通じて信頼を築く

## ステークホルダーエンゲージメント

## 基本的な考え方

私たちの事業は、お客様をはじめとした多様なステークホルダーとの関わりの上で成り立っています。企業の存続には社会的な意義のある存在として認知されることが必要であり、そのためにはステークホルダーの皆様からの信頼を獲得することが重要です。私たちは、事業活動を通じて、また事業活動で得られた知見や技術を活かして、地域や社会の発展に貢献する取り組みでさまざまなステークホルダーの皆様との信頼関係を強化します。

## 「緑の会」の活動

## 持続可能で強い施工体制の構築

“旭化成ホーム「緑の会」”は、HEBEL HAUS建築に携わる工事店・施工者と、旭化成ホームズの関係者を会員として、住宅事業本部ごとに運営されています。緑の会では住宅事業本部ごとに、各エリアの特性を活かした、工事店・施工者とのエンゲージメント強化につながる取り組みを行っており、持続可能で強い施工体制の構築に向けて活動しています。また、「社会に良質な建物を長期的かつ安定的に供給する」方針の実現を目指して、工事店代表者と旭化成ホームズ各エリアの技術部長をメンバーとした「緑の会」連合会も組織されています。各エリアを横断して、「会員相互の親睦」「施工の研究改良の場を育む」「自然災害発生時の相互応援体制の構築」などを目的として活動を続けています。

## 施工人財の定着・育成

2023年度は、5月に「緑の会」総会で意見交換を行い、8月には建設技能者の継続的な確保と育成を目的とした研修施設である旭化成ホームズ建設技術教育センターを総会の参加会員で訪問し、施設および実際の実習の視察を行いました。こちらの施設では、11月7日～12月8日の日程で、「プレハブ建築科内装施工初級訓練」を実施しました。各エリアから経験2,3年目の大工3名が受講し、知識や技能の習得に組みました。来年度も引き続き開催を計画しています。

## ▶ ニュースリリース (2021.3.29)

## 工事店・施工者との結束力の強化

2023年度は、1月に「第2回自然災害初期対応訓練」を実施しました。初回の「風水災害後の、初動対応の必要人員数を確保する」という内容に加えて、情報集約後の災害対策本部と施工現場等との連携をテーマに実施しました。この訓練では実際の災害時での情報連携フローの課題が明確になり、より実効性のあるものにするための良い機会となりました。この活動も継続して実施していきます。

2024年度は、5月に「緑の会」連合会総会の開催、7月には集合研修会と親睦のイベントの実施、1月には3回目の災害対応訓練を計画しています。



2016年以降、HEBEL HAUSの施工現場では「凜とした現場づくり」をスローガンに取り組みを進めています。「凜」という言葉にはピシツと隙がない、「ひきしまった」態度・状態の意味があり、逆は「ゆるんだ」になります。事故が生じる現場には、どこかゆるみがあり、不注意・不安全が入り込む「すき」が現場に生じていると考え、すべての現場が「凜とした現場」になるべく活動を進めています。

1. 整然 整理整頓している、安全な通路の確保、ガードフェンスなどが真っ直ぐ設置されている

### 3. マナー

積極的な挨拶、清潔な身だしなみを心掛ける

「凜とした現場づくり」では、各エリアでテーマを定めて活動をしています。2023年度は全エリアでの監査を行い、監査の結果を各工事課および各工事店へフィードバックしました。また、それぞれの現場での意識を高め合う目的で、「凜とした現場」の好事例となる写真をKY活動<sup>※</sup>の共通ツールに掲載し、全エリアに展開しました。この活動により、「常に安全な通路が確保できている」「現場について、お客様やご近隣様より高評価をいただいた」等の声があがっています。今後も「凜とした現場づくり」活動を継続し、安全で快適な働きやすい環境を持続していきます。

※現場作業前に潜在的な危険を洗い出すことで、事故を未然に防ぐための活動



## 豪州事業会社に広がる現場美化活動

豪州事業会社NEX Building Group経営陣は2022,2023年に訪日した際に、日本で取り組んでいる「凜とした現場」の見学を行いました。施工中の現場が整理整頓され、日本の施工現場がお客様へのリスペクトで成り立っていることに大きな刺激を受け、その後自ら豪州でのClean site（現場美化）活動を2023年に開始しました。室内を土足で過ごす文化の豪州で、躯体完了後は土足禁止とし、文化を変えようとしています。また活動の一つとして、現場産廃状況の把握・廃材削減への取り組みも開始しました。

この活動を通してお客様の満足、ご近隣様への配慮、作業者の安全の確保、廃材削減を進めていきます。現在はNSW州を中心に活動していますが、今後は各州へ活動を広げていく予定です。

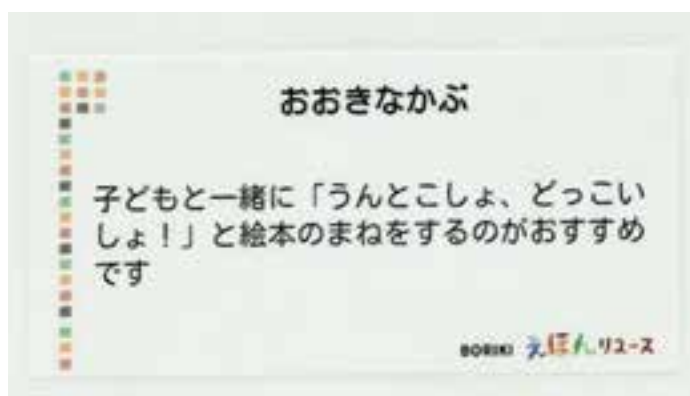


## 「BORIKI 絵本リユースプロジェクト」

「BORIKI絵本リユースプロジェクト」は、子育て世代をターゲットに展開する「子育て共感賃貸住宅『ヘーベルメゾンBORIKI』」の入居者様へ、社員の自宅に眠っていた絵本を「BORIKIえほん箱」と一緒にお届けする取り組みです。使われなくなった資源を有効活用するとともに子どもたちの学びや絵本を通じた交流の機会を創出する効果も得られます。

本プロジェクトは2023年10月から開始し、旭化成グループ社員に呼び掛けて集めた600冊を、社員サポーター、BORIKIの入居者有志で選別とカバーリングを行い、寄付者からのメッセージと共にBORIKIに住む子どもたちに今後届ける予定です。将来的にはBORIKI周辺地域のイベント等にも有効活用することで、グループ社員と共にBORIKIを中心とした「地域」での子育て応援に展開していきます。

▶ [子育て共感賃貸住宅 ヘーベルメゾンBORIKI](#) 



絵本に貼られた寄付者からのメッセージ

## 理工系分野の学生を支援する理工チャレンジのイベント開催

旭化成グループは、2015年から内閣府が推進する理工系人材育成イベント「理工チャレンジ」に賛同し、イベントを開催してきました。7度目の開催となる2023年度は、理工系分野に興味を持つ20名の高校生を首都圏から受け入れました。旭化成ホームズ住宅総合技術研究所では、HEBEL HAUSの特長の説明とモデルハウスの見学、研究開発棟の紹介を行いました。地震の多い日本で「いのち」を守る強靱な躯体、日々の「くらし」を豊かなものにする遮音・断熱性、住まい手と共に「人生」を歩む高耐久・高寿命な部材等の「世代を超えて住み継がれる住宅」を目指すHEBEL HAUSの性能や特長を説明した後に、モデルハウスと実験を体感することで、より理解が深まりました。また質疑応答では、高校生からの進学や就職に関する相談へ、理工系従業員が自身の体験談やアドバイスを交えて回答しました。今後も「理工チャレンジ」への参画を通じて、理工系分野に進学・就職する学生を支援するだけでなく、理工系従業員が一層活躍したいと思える機会として、学生との交流を継続していきます。



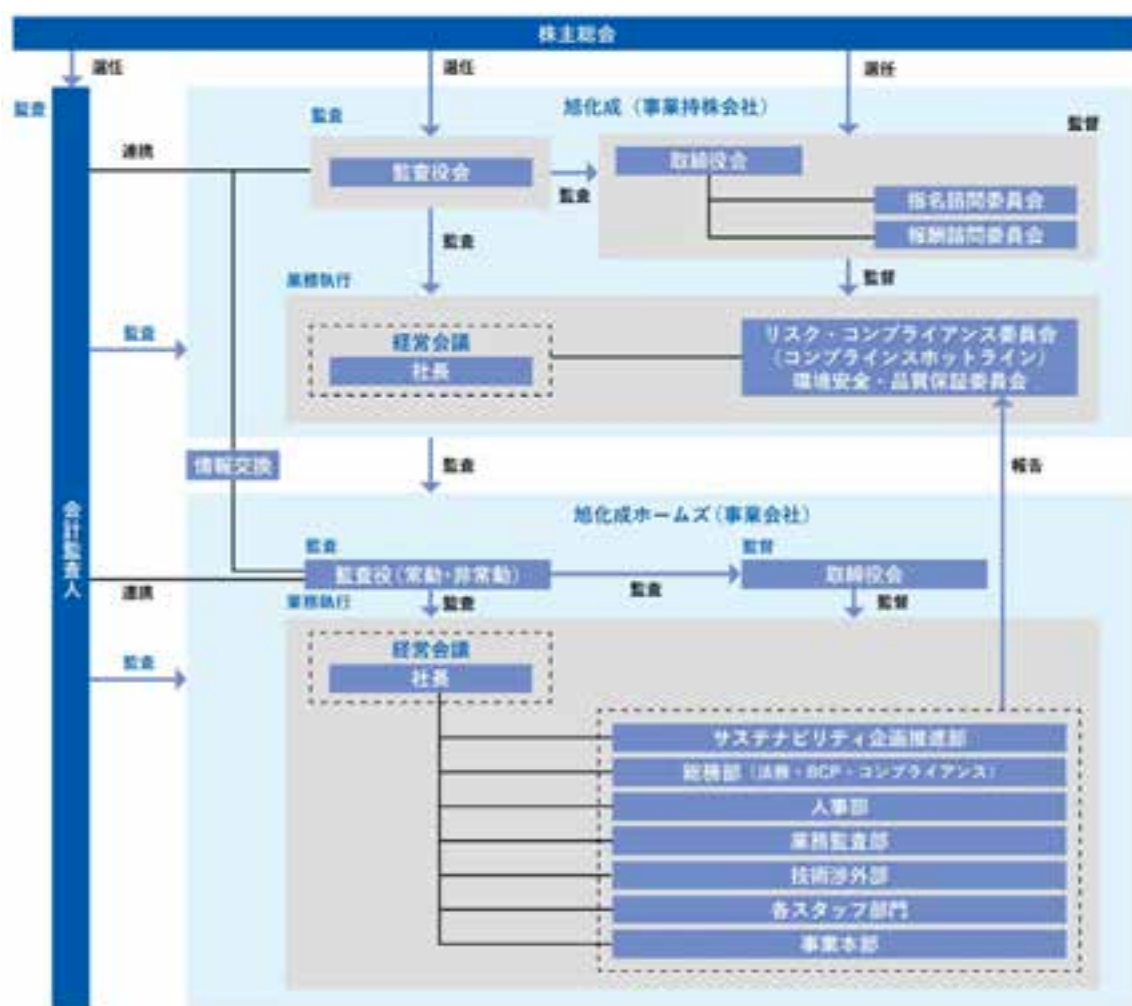
HEBEL HAUSの特徴の説明



モデルハウスの見学



研究開発棟（構造）の紹介



## 旭化成ホームズグループ 取締役会について

---

取締役会は、法令または定款に定められた事項を決議するとともに、経営の基本方針を決議し、併せて業務の執行状況を監督してその成果を評価します。

構成：取締役（7名）および監査役（3名）

開催：原則として月1回

議長：代表取締役社長

## 旭化成ホームズグループ 経営会議について

---

経営会議は、経営上の重要事項について協議し決議するとともに、活動の総合調整と全般にわたる内部統制を行います。

構成：取締役および代表取締役社長が指名する者  
（監査役をオブザーバーとする）

開催：原則として月1回

議長：代表取締役社長



## 社外からの評価

旭化成ホームズグループの活動に対する外部機関からの評価や受賞実績をご紹介します。今後もサステナビリティにつながる活動を推進していくことで、社会的責任を果たしていきます。

### 「健康経営優良法人2024（大規模法人部門）ホワイト500」に認定

旭化成と旭化成の5事業会社（旭化成エレクトロニクス、旭化成建材、旭化成ホームズ、旭化成ファーマ、旭化成メディカル）は、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2024～ホワイト500～」に認定されました。「健康経営優良法人～ホワイト500～」を認定する「健康経営優良法人認定制度」は、健康課題に則した取り組みや健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人等を顕彰する制度です。健康経営優良法人2023に続き、2年連続の認定となります。



▶ [健康経営優良法人認定制度（経済産業省）](#) 

### 「エコ・ファースト企業」として認定

旭化成ホームズグループは、環境省の「エコ・ファースト制度」において、旭化成ホームズグループの環境保全の取り組みが認められ、2024年4月10日に「エコ・ファースト企業」として認定されました。



※「エコ・ファースト制度」は、企業が環境大臣に対して自らの環境保全に関する取り組みを約束し、その取り組みが“先進的・独自の”かつ“業界をリードする事業活動”である場合に、環境大臣が「エコ・ファースト企業」として認定する制度です。

▶ [ニュースリリース（2024.4.11）](#)

### 自然共生サイトに「あさひ・いのちの森」が認定

旭化成および旭化成ホームズが環境活動ゾーンとして造成した「あさひ・いのちの森」は、国際的な生物多様性保全目標 30by30 への取り組みとして環境省が初めて認定する自然共生サイトに認定されました。



※30by30（サーティ・バイ・サーティ）とは、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる（ネイチャーポジティブ）というゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。

※自然共生サイトとは、環境省が令和5年10月より開始した「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を環境大臣が認定する制度で、全国（35都道府県）で「あさひ・いのちの森」を含む122ヶ所が初めて認定されました。

▶ [ニュースリリース（2023.10.12）](#)

## 緑の認定制度 SEGES そだてる緑「Excellent Stage3」認定を継続

旭化成および旭化成ホームズによる「あさひ・いのちの森」における活動が、2019年10月に「公益財団法人 都市緑化機構」が運営する「緑の認定制度」『SEGES（シージェス）：社会・環境緑地評価システム』においてSEGES評価・認定委員会での審議を経て、SEGES そだてる緑「Excellent Stage3」に認定され、2024年もこの認定を継続しました。

※SEGESとは、（公財）都市緑化機構が運営する、企業等によって創出された良好な緑地と 日ごろの活動、取り組みが地域生態系の保全、良好な景観の保全と創出など社会・環境に貢献していることを、第三者委員会により評価・認定する制度のことです。



＜ SEGES [🔗](#)

## レジリエンス認証を更新

旭化成ホームズは、2019年に同制度における「事業継続および社会貢献」の認証を取得し、2023年11月に更新しました。内閣官房国土強靱化推進室が運営する「レジリエンス認証」は、事業継続に関する取り組みを積極的に行っている企業を国土強靱化団体として認証する制度です。



＜ レジリエンス認証 [🔗](#)

## 第10回ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2024「最優秀賞」を受賞

旭化成ホームズは国立研究開発法人防災科学技術研究所と共同で開発に取り組む「防災情報システム LONGLIFE AEDGiS」、旭化成不動産レジデンスは「マンション建替え研究所」、株式会社コネプラは同社が企画・開発・運営をする防災共助DX+リアルサポート「GOKINJO」において、一般社団法人 レジリエンスジャパン推進協議会主催の「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2024」にてそれぞれが「最優秀賞」を受賞しました。



＜ ニュースリリース「防災情報システムLONGLIFE AEDGiS」（2024.4.24）

＜ ニュースリリース『マンション建替え研究所』（2024.4.24）

＜ ニュースリリース「GOKINJO」（2024.4.24）

## 日本DX大賞 UX部門「優秀賞」を受賞

株式会社コネプラが企画・開発・運営をするマンション・自治会等のコミュニティ醸成サービス「GOKINJO（ゴキンジョ）」が、日本DX大賞実行委員会主催の「DX大賞 UX（ユーザーエクスペリエンス）部門」にて「優秀賞」を受賞しました。GOKINJOは、完璧に生活の一部となり、老若男女を問わず、多くのユーザーに愛用されている。一般的にDXは技術先行型になりがちだが、GOKINJOは異なり、技術を身近なものにし、一人ひとりが幸せになるというDXの本質的な価値を訴求している。という点が評価されました。

※日本DX大賞は、日本DX大賞実行委員会（後援：総務省、経済産業省、デジタル庁、日本リスティングコンソーシアム事務局）が主催しております。

▶ [ニュースリリース（2023.6.26）](#)

## 令和5年度 東京エコビルダーズアワード

### 「リーディングカンパニー賞」・「ハイスタダード賞」を受賞

旭化成ホームズは、東京都主催の令和7年度からの「建築物環境報告書制度」の開始に先駆け、環境性能の高い建築物の普及に取り組む意欲的な事業者を表彰する「令和5年度東京エコビルダーズアワード」において、「リーディングカンパニー賞」および、「ハイスタダード賞」を受賞しました。高い外皮性能・省エネ性能を有する集合住宅である「ZEH-M」普及へ向け「入居者売電型」と自社独自商品である「自家消費型（Ecoレジグリッド※）」の両輪で普及を推進している点が評価されました。

※一括受電方式の建物に蓄電池設備を設置し、インターネットサービス回線を使用することで、遠隔で蓄電池を制御する仕組みを構築し、全国のEcoレジグリッドの蓄電池の充放電を自由に制御できるようにしている。



▶ [ニュースリリース（2024.2.2）](#)

## 「2023年度省エネ大賞 審査委員会特別賞」を受賞

旭化成ホームズおよび旭化成は、蓄電池を搭載した自家消費型ZEH-M普及を促進する取り組みで、一般財団法人省エネルギーセンター（後援：経済産業省）主催の「2023年度 省エネ大賞」の「審査委員会特別賞」を受賞しました。

本表彰事業は、事業者や事業所等において実施した他者の模範となる優れた省エネの取り組みや、省エネルギー性に優れた製品ならびにビジネスモデルを表彰し、国内の省エネ意識の拡大や、省エネ製品の普及などによる省エネ型社会の構築に寄与することを目的としています。旭化成ホームズは「入居者売電型ZEH-M」と蓄電池を搭載した自家消費型ZEH-Mの両輪での推進と蓄電池のアグリゲート制御による活動が評価され、今回の受賞に至りました。



▶ [ニュースリリース（2023.12.19）](#)

## 第17回 「キッズデザイン賞」を受賞

旭化成ホームズの子育て家族の健康で快適な住まいを実現する「ロングライフ全館空調」が、特定非営利活動（NPO）法人キッズデザイン協議会主催の「第17回キッズデザイン賞」を受賞しました。



「ロングライフ全館空調」は、幼児を中心に在宅時間が長い子どもと、コロナ禍を経て在宅ワークが一定数定着したことを受けて在宅時間が長くなった子育て世代（親）に向け、健康で快適な住まいを実現する空調システムです。住宅内の温度環境および空気質を改善することで、「熱中症・ヒートショック対策」「PM2.5や花粉などに起因するアレルギー対策」「睡眠の質の向上」を目指します。

※キッズデザイン賞は、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会（後援：経済産業省・内閣府・消費者庁）が運営する、子どもや子どもの産み育てに配慮したすべての製品・サービス・空間・活動・研究を対象とする顕彰制度です。

▶ [ニュースリリース（2023.8.24）](#)

## 第8回 女性のあした大賞2023 「優秀賞 プラチナ部門」を受賞

旭化成ホームズの「ヘーベルVillage」が、株式会社HERSTORY主催の「女性のあした大賞」において「優秀賞 プラチナ部門」を受賞しました。



「設計・相談員・しかけ」の3つのアプローチで、シニアの不安解消・解決をする取り組みにミドルシングル層の女性から共感が集まり、優秀賞に選ばれました。

※女性のあした大賞は、活躍する女性が増える中で、女性特有の変化の激しいライフイベントと、その後のライフコースを思うように描きにくい現実が起きている。そんな女性たちの悩みや不安を解決し、少しでも生きやすい社会につながる「モノ・コト」を提供する企業活動に対して表彰する取り組みです。

▶ [女性のあした大賞](#)

## 2023年度 「グッドデザイン賞」を受賞

旭化成ホームズのシニア向け安心賃貸住宅「ヘーベル Village」が、公益財団法人日本デザイン振興会主催の「2023年度グッドデザイン賞」を受賞しました。「ヘーベル Village」は、介護施設とは異なり主に自立～フレイル期の高齢者を対象とした自由で自立した生活を応援する「住まい」です。



**GOOD DESIGN  
AWARD 2023**

自立～フレイル期の高齢者を入居対象とした「ヘーベル Village」では、入居者の日常生活の健康行動（活動量・食事・交流）に着目しています。入居者自らが自由に外出を楽しみ、食材選びや料理を続け、入居者同士で交流を持ってほしいとの思いから、食堂と常駐スタッフを配置せず、日々の暮らしを自己決定できる運営としました。また、自立～フレイル期の高齢者のための安全・安心でかつ健康長寿を実現する「住環境」と「サービス」を提供しています。

▶ [ニュースリリース（2023.10.5）](#)

## 第三者意見

### 「サステナビリティレポート2024」に対する第三者意見報告書

旭化成ホームズ株式会社  
代表取締役社長 川畑 文俊 様



理事長 橋本 公博

#### 1. レビューの概要と観点

「サステナビリティレポート2024」において特集として取りまとめられている貴社の「RE100の取り組み」及びサステナビリティに対する重要度が高いマテリアリティ（重要課題）の4つのテーマ（「With Customer」、「With Environment」、「With Employee」、「Our Integrity」）に関する取り組みについて、記載情報が事実に相違ないことを前提としてレビューを実施しました\*。このレビューに当たっては、資源循環を考慮した建築生産システム等について長年研究されてきた角田誠氏（東京都立大学教授）に、建築・環境技術面からのアドバイスを頂戴しています。

#### 2. 意見（レビュー結果）

「サステナビリティレポート2024」では、特集として取りまとめられた「RE100の取り組み」とサステナビリティに対する重要度が高いマテリアリティ（重要課題）の4つのテーマ（「With Customer」、「With Environment」、「With Employee」、「Our Integrity」）について、整理されている貴社の取り組みについて、意見を述べます。

##### （1）特集「RE100の取り組み」

- ・貴社は、カーボンニュートラルの実現へ貢献する一つ的手段として2019年9月より「RE100」に参加され、旭化成ホームズの「へーベル電気」で国のFIT制度の期間を満了した「卒FIT」の余剰電力を買い取り、「RE100」の達成に向けて活用されてきました。昨年度は、「へーベル電気」による余剰電力買取量が、事業活動で使用した電力量を超え、「RE100」を達成されました。2019年参加時点での達成目標2038年を大幅に前倒して「RE100」の目標を達成されましたことを高く評価します。

##### （2）With Customer

- ・静岡県富士市の貴社分譲地内においてZEHへーベルハウス3戸と貴社社宅をコミュニティ単位とし、災害発生時には旭化成リフォームの所有するEV（電気自動車）がZEHへーベルハウスから発生する太陽光発電等の余剰電力を回収し地域住民に提供する、レジリエンス強化の方策「コミュニティZEH」は高く評価できます。
- ・情報交換アプリ「GOKINJO」により、日常的にマンションや自治会における住民間のコミュニケーションを構築することに加え、災害時には情報共有ツールとして、より積極的に「共助」を実践可能とする取り組みを評価します。今後、安否確認機能などの開発を進め災害時の利便性を高められることを期待します。
- ・「へーベル電気」の利用者に対し、節電トライアルとして3,875邸の参加のもと、電力需要の高まる時間におけるタイムリーな節電要請を行い、節電行動を促すデマンドレスポンスの実証に取り組んだことを評価します。



## (3) With Environment

- ・ヘーベルハウスのZEH普及率が、2022年度の81%から2023年度では88%に向上し続けていることを評価します。着実な取り組みの継続により、更なるZEH普及率が向上されることを期待します。
- ・太陽光発電と蓄電池を設置した自家消費型ZEHヘーベルメゾン「Ecoレジグリッド」により発電される電力を、入居者への供給と貴社の事業活動に活用しており、ZEH-Mの普及率が75%と高い水準であることを評価します。
- ・既に新築現場での産業廃棄物は全量再資源化され、ゼロエミッション達成を継続していることを評価します。また、リフォームの防水・吹付のリプレイス工事や賃貸物件の入退出工事から発生する維持管理による廃棄物削減に取り組まれている点は、非常に高く評価できます。今後はさらに長期利用に資する改修工事においても、ゼロエミッション化に取り組まれることを期待します。

## (4) With Employee

- ・勤務地配慮申告制度、コース転換制度、育児短時間勤務やシッター・ヘルパー補助、出生時育休制度などのライフワークバランスを支援する制度が設けられており、職員の様々な状況に合わせて働き方を選択し、キャリアの継続ができるように支援されていることを評価します。
- ・キャリア採用の強化として2023年8月に「リファラル採用（社員紹介）」を導入し、65歳までの「定年延長」の導入によるシニア社員の活躍の推進、女性管理職数を2021年度比40%増のための目標達成の教育施策、旭化成住工ベトナムにおけるベトナム人スタッフと日本人スタッフとのグローバルな人材交流などにより、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンを推進されていることを評価します。
- ・「A-Smart」や「A-Skai工事報告書システム」の活用により施工管理のDX化が推進され、労務管理が効率化されていることを評価します。

## (5) Our Integrity

- ・環境的側面（エネルギー使用や気候変動、生物多様性の保全等）や社会的側面（差別禁止や機会均等、過度の労働時間の削減等）に対し、持続可能なサプライチェーンにより取り組むことでCSR調達を推進できていることを評価します。

## 3. 今回のサステナビリティレポートの総合評価と今後への期待

特集で取り上げられているように、達成目標の時期を大幅に前倒して「RE100」を達成されましたことを高く評価します。また、「With Customer」では「節電トライアル」による電力の削減について、社会が特に企業に求める重要課題である「With Environment」ではZEH普及率の向上やゼロエミッション達成の継続について成果を上げられており、特筆して評価できます。今後もさらに持続可能な社会のための意欲的な取り組みをされることを期待します。

「With Employee」と「Our Integrity」では、マテリアリティ毎に、KPI、2023年度実績、2024年度目標、2025年度目標、関連する取り組みなどが一覧表にまとめられ、それぞれが着実に推進されていることを評価するとともに、今後の継続的な活動を望みます。

今後もマテリアリティの4分野への取り組みがバランスよく着実に進められ、貴社のサステナビリティが一層充実することを期待します。

※本報告書は、環境省の「環境報告ガイドライン」における第三者保証や、GSSBによる「GRIスタンダード」における外部保証を行ったものではありません。

一般財団法人  
日本建築センター 理事長



東京都立大学 都市環境学部  
建築学科教授



### 第三者意見を受けて

---

旭化成ホームズ株式会社

執行役員 サステナビリティ企画推進部長

サステナブル推進担当

武藤 一巳



橋本様、角田様には貴重なご意見をいただき、心より御礼申し上げます。

まずは、お客様のご協力をもとに進めてきたRE100への取り組みが2023年度に目標達成できたことを高く評価いただき、たいへんうれしく思っています。お客様に深く感謝するとともに、達成に向けて尽力した社員・関係者を労いたいと思います。今後も再エネ電力の獲得に努め、それを有効に活用できるよう研鑽を続けていきます。

また、気候災害のみでなく近年幾度となく起きる大きな地震等、さまざまな災害に対するレジリエンス強化も、当社グループの大きな使命と考えています。トータルレジリエンス（総合防災力）のほかに取り組んでいる非常時の地域支援の仕組みやツール提供について、期待を含めて評価いただいたことも大きな意義のあることと受け止めています。

社員がやりがいを持って業務に臨み成長を続けること、サプライチェーン全体で価値創造していくことが、企業としてのサステナブルな社会実現への貢献であると信じています。アドバイスいただいたようにマテリアリティの4つのテーマすべてに真摯に取り組み成長していく所存です。これからもご指導よろしくお願いいたします。

私たちは、事業を通じて「人びとに必要とされ、感謝され、愛され続ける企業」を目指していきます。

# 環境データ Environment Data

---

## 1.資源循環

## 2.気候変動への対応

## 3.生物多様性保全

### 報告対象期間

2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)  
※前後の期間の活動も一部含みます。

### 報告対象範囲

当社と連結子会社を原則していますが、対象範囲が異なる場合は  
個々に記載をしています



# 資源循環

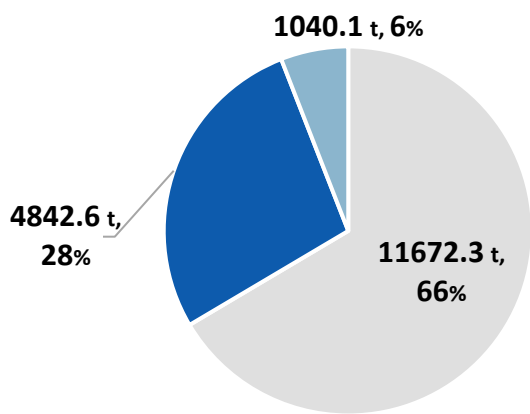
## 資源循環における各指標

|                    | 単位 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
|--------------------|----|--------|--------|--------|
| ◎旭化成ホームズ 新築産廃再資源化率 | %  | 100    | 100    | 100    |
| 新築施工廃棄物排出量         | t  | 17,555 | 17,200 | 15,835 |
| RPF(固形燃料)製造量 ※1    | t  | 1040.1 | 940.4  | 840.6  |

※1：当社の資源循環センターにて、廃棄物を原料に製造した量

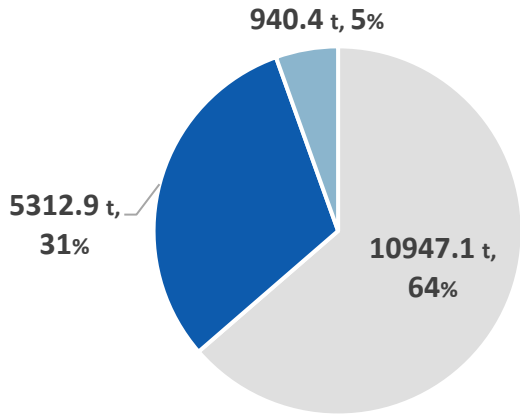
◎：KPI

## 新築産廃再資源化率 推移



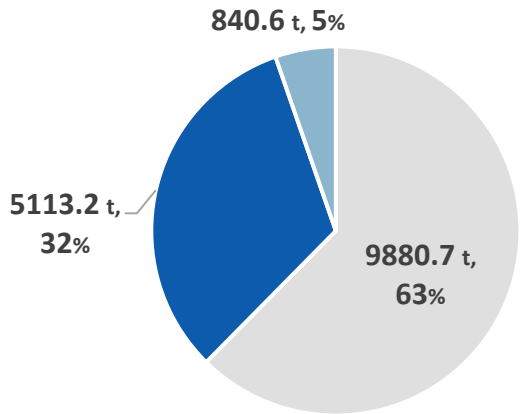
■ マテリアルリサイクル ■ サーマルリサイクル ■ RPF

2021年度



■ マテリアルリサイクル ■ サーマルリサイクル ■ RPF

2022年度

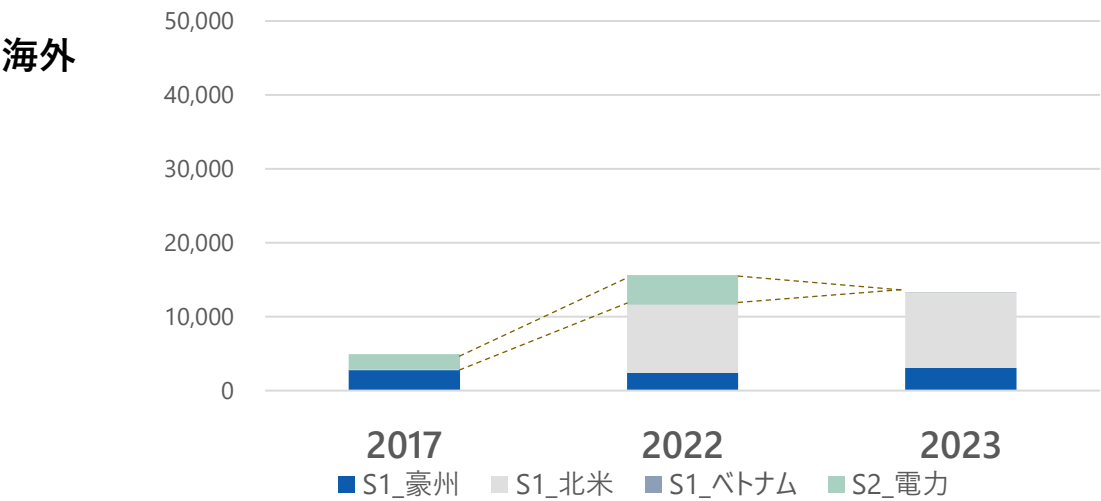
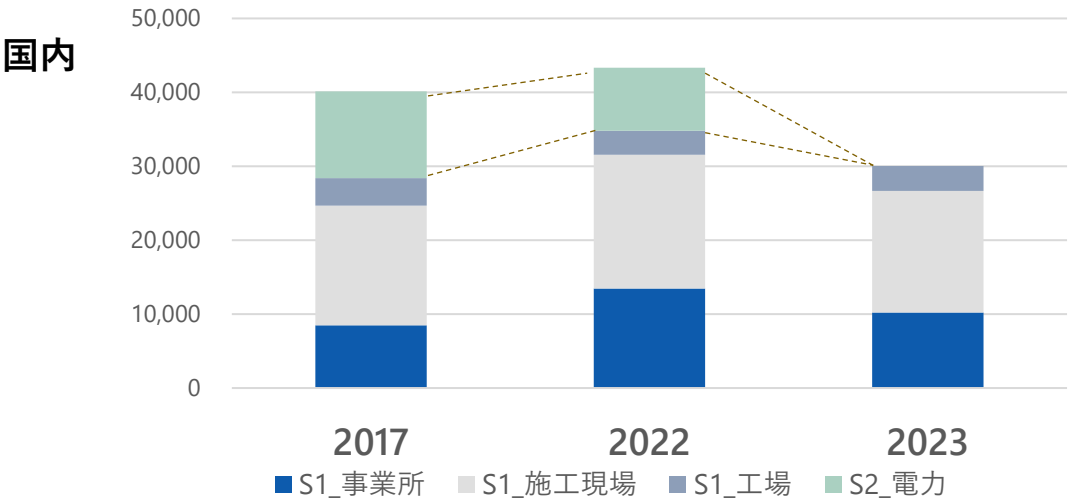


■ マテリアルリサイクル ■ サーマルリサイクル ■ RPF

2023年度

# 気候変動への取組

SCOPE1・2 排出量の推移 (t-CO2) ※1



| 分類     |    | 内容                      | 単位    | 2023年度排出量 | 対象                                                                                                                                                   |
|--------|----|-------------------------|-------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| SCOPE1 | 国内 | 主に使用した燃料に伴うCO2排出量<br>※1 | t-CO2 | 30,042    | 旭化成ホームズ(株) 国内事業、旭化成不動産レジデンス(株)、旭化成リフォーム(株)、旭化成ホームズコンストラクション(株)、旭化成住工(株)、旭化成ホームズフィナンシャル(株)、旭化成ライフライン(株)、旭化成設計(株)、旭化成ホームズ 少額短期保険(株)、(株)コネプラ、中央ビルド工業(株) |
|        | 海外 |                         |       | 13,309    | 旭化成ホームズ(株) 北米事業、豪州事業<br>Asahikasei Jyuko Vietnam Corp.                                                                                               |
| SCOPE2 | 国内 | 購入した電力に伴うCO2排出量<br>※2   |       | 0 ※2      | 旭化成ホームズ(株) 国内事業、旭化成不動産レジデンス(株)、旭化成リフォーム(株)、旭化成ホームズコンストラクション(株)、旭化成住工(株)、旭化成ホームズフィナンシャル(株)、旭化成ライフライン(株)、旭化成設計(株)、旭化成ホームズ 少額短期保険(株)、(株)コネプラ、中央ビルド工業(株) |
|        | 海外 |                         |       | 0 ※2      | 旭化成ホームズ(株) 北米事業、豪州事業<br>Asahikasei Jyuko Vietnam Corp.                                                                                               |

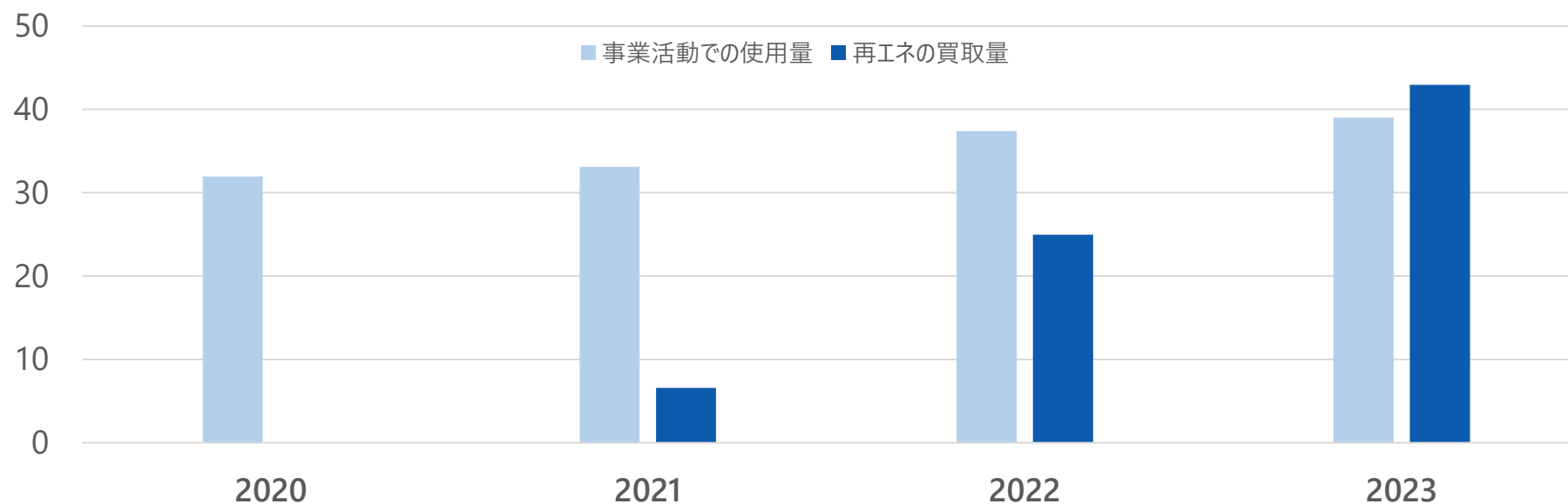
※1 GHG排出量のうち、エネルギー起源の二酸化炭素排出量のみを対象に算出・記載

※2 再生可能エネルギー由来の電力の算入及び、非化石証書でのオフセット後の数量 Data-3



# 気候変動への取組

## 使用電力量・再エネ電力の買取量の推移 (GWh)



| 内容             | 単位  | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|----------------|-----|------|------|------|------|
| 事業活動での使用電力量 ※1 | GWh | 31.9 | 33.1 | 37.4 | 39.0 |
| 再エネの買取量 ※2     | GWh | 0    | 6.4  | 24.9 | 43.0 |

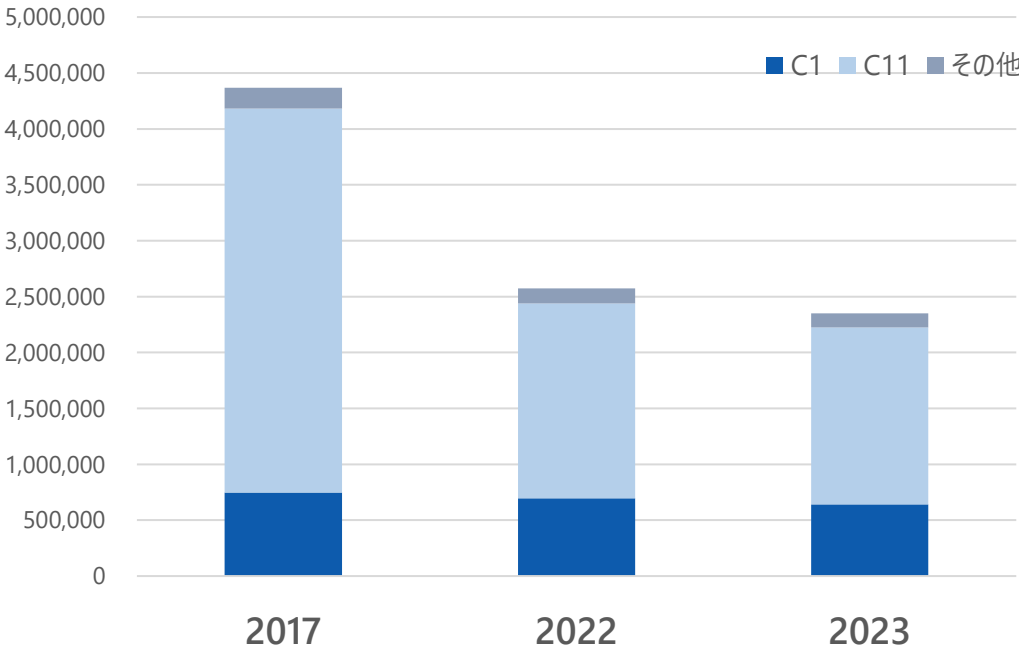
※1：国内および海外で使用した電力量の総量

※2：当社の電力事業「ヘーベル電気」にて買い取ったHEBEL HAUSに設置された太陽光発電システム由来の電力量

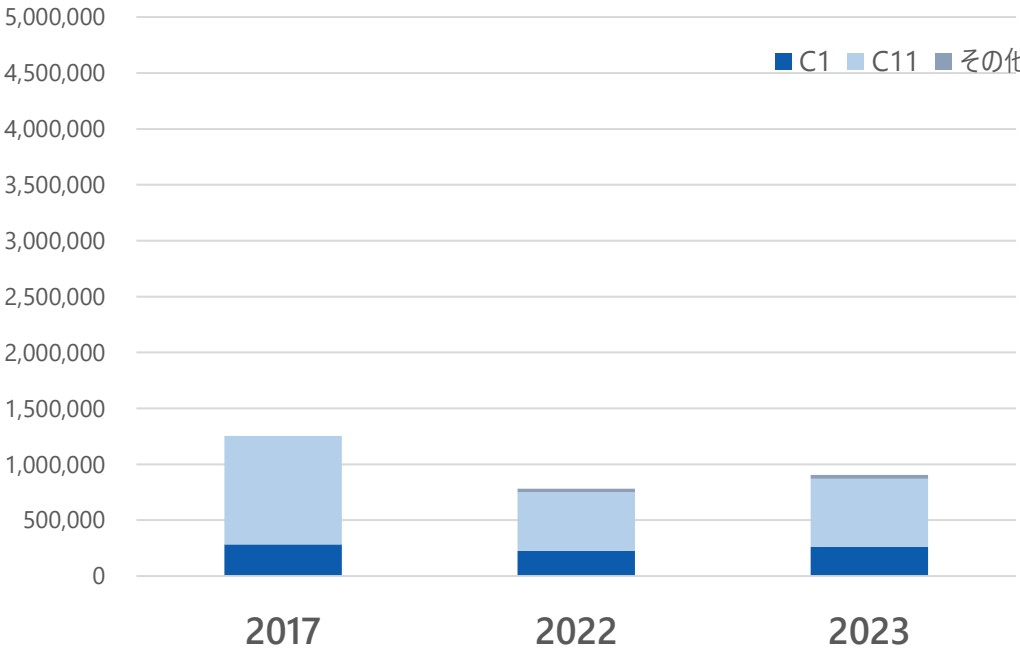
# 気候変動への取組

SCOPE3 排出量の推移 (t-CO2)

国内



海外



| 分類     |    | 内容                                                                            | 単位    | 2023年度排出量 |
|--------|----|-------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------|
| SCOPE3 | 国内 | SCOPE1、SCOPE2以外の間接排出<br>(当社の活動に関連する他社の排出)<br><br>※SCOPE 3 の各カテゴリにおける排出量は次頁に記載 | t-CO2 | 2,349,007 |
|        | 海外 |                                                                               |       | 905,332   |
|        | 合計 |                                                                               |       | 3,254,339 |



# 気候変動への取組

## SCOPE3 排出量内訳と算定対象 ※1

| カテゴリ |    | 内容                              | 概要                                 | 活動量                                                                          | 原単位 | 単位    | 2023年度排出量 | 対象                                    |
|------|----|---------------------------------|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-----|-------|-----------|---------------------------------------|
| C1   | 国内 | 購入した原材料・サービス                    | ・戸建・賃貸住宅の建設に要した<br>資材の製造           | <国内>主要建設資材の購入金額                                                              | ①   | t-CO2 | 642,457   | 旭化成ホームズ(株) ※2                         |
|      | 海外 |                                 |                                    | <豪州>資材投入量                                                                    | ②   |       | 262,029   | 旭化成ホームズ(株) 豪州事業                       |
| C2   | 国内 | 資本財 ※3                          | ・取得した資本財の採取、製造                     | 設備投資金額                                                                       | ①   |       | 26,298    | 旭化成ホームズ(株)                            |
| C3   | 国内 | スコープ1、2 に含まれない<br>燃料・エネルギー関連の活動 | ・取得したSCOPE1・2にエネルギーに<br>含まれないエネルギー | 取得した燃料・エネルギー消費量                                                              | ①   |       | 3,630     | 旭化成ホームズ(株)、旭化成住工(株)<br>旭化成不動産レジデンス(株) |
|      | 海外 |                                 |                                    |                                                                              | ②   |       | 155       | 旭化成ホームズ(株) 北米事業、豪州事業                  |
| C4   | 国内 | 上流の輸送・配送                        | ・建設資材の調達・移動及び<br>廃棄物の輸送            | 荷主分の輸送に関わる燃料の発熱量                                                             | ①   |       | 32,730    | 旭化成ホームズ(株) ※2                         |
| C5   | 国内 | 事業から発生する廃棄物                     | ・生産拠点で発生した産業廃棄物の<br>廃棄・処理          | <国内>廃棄物量(工場等の生産拠点)                                                           | ①   |       | 24,225    | 旭化成ホームズ(株)、旭化成住工(株)                   |
|      | 海外 |                                 |                                    | <豪州>建築における廃棄物量                                                               | ③   |       | 26,445    | 旭化成ホームズ(株) 豪州事業                       |
| C6   | 国内 | 出張                              | ・従業員による事業に関する移動・宿泊                 | 従業員の出張に関わる金額                                                                 | ①   |       | 1,611     | 旭化成ホームズ(株)                            |
| C7   | 国内 | 従業員の通勤                          | ・従業員による自宅と就業地点間の移動                 | 従業員の通勤に関わる金額、物量（燃料）                                                          | ①   |       | 1,884     | 旭化成ホームズ(株)                            |
|      | 海外 |                                 |                                    |                                                                              |     |       | 7,940     | 旭化成ホームズ(株) 北米事業、豪州事業                  |
| C11  | 国内 | 販売した製品の使用                       | ・供給した住宅における使用時の<br>エネルギー消費         | <国内><br>HEBELHAUS：使用想定年数は60年。<br>住宅性能にあわせた各エネルギー使用量（③）×各供給戸数<br>ATLAS：推計値を算入 | ①   |       | 1,582,881 | 旭化成ホームズ(株) ※2<br>旭化成不動産レジデンス(株)       |
|      | 海外 |                                 |                                    | <豪州><br>使用想定年数は50年。各モデルプラン毎の消費エネルギー量×各棟数                                     | ②   |       | 608,563   | 旭化成ホームズ(株) 豪州事業                       |
| C12  | 国内 | 販売した製品の廃棄後の処理                   | ・国内におけるHEBELHAUSの解体                | HEBEL HAUSの解体棟数（推計）                                                          | ⑤   |       | 33,740    | 旭化成ホームズ(株) ※2                         |

※1 GHG排出量のうち、エネルギー期限の二酸化炭素排出量のみを対象に算出・記載  
C8,C9,C10,C13,C14,C15は対象外

※2 国内事業におけるHEBEL HAUSに関する活動を対象

※3 リース車両である社用車などから排出されるCO2 SCOPE1に計上

①： [サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベースver3.4\(環境省\)](#)

②： [AusLCI](#)が公開する値もしくは気候変動・エネルギー・環境・水資源省（DCCEEW）の公開する値を採用

③： [住宅に関する省エネルギー基準に準拠したプログラム](#)

④： 1棟当たりに必要な消費エネルギー（自社計算）

# 気候変動への取組

## SCOPE3 削減への取組

| 内容                 | 単位 | 2021 | 2022 | 2023 |
|--------------------|----|------|------|------|
| ◎ZEH率 ※1           | %  | 67   | 81   | 88   |
| ◎ZEH-M率 ※2         | %  | 44   | 62   | 75   |
| ◎サプライヤーエンゲージメント ※3 | %  | -    | -    | 48.2 |

◎：KPI

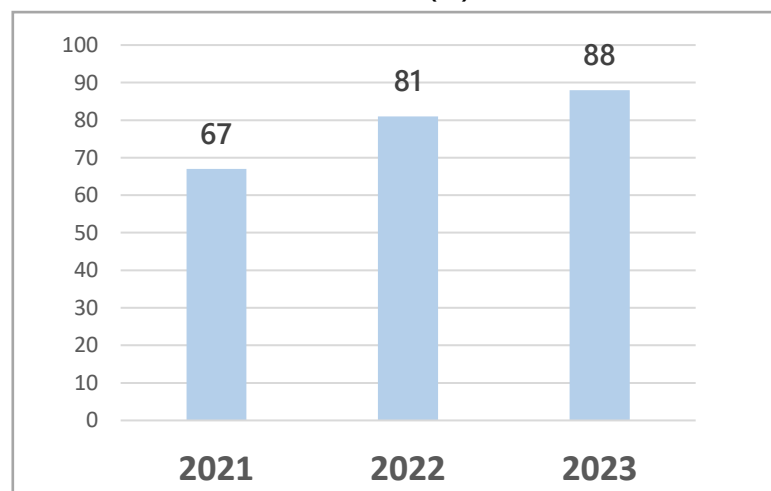
※1 一般社団法人 [環境共創イニシアチブ（SII）における公開情報](#)

※2 集合住宅の供給棟数のうち、ZEH-M基準を満たした棟数の割合

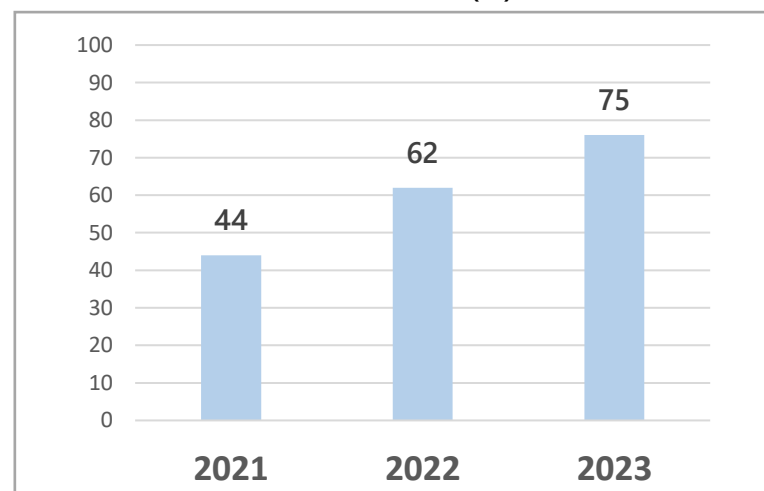
※3 当社主要サプライヤーのうち、SBT相当(※4)の目標設定を行い、公表しているサプライヤーの率

※4 パリ協定が求める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する温室効果ガス排出削減目標

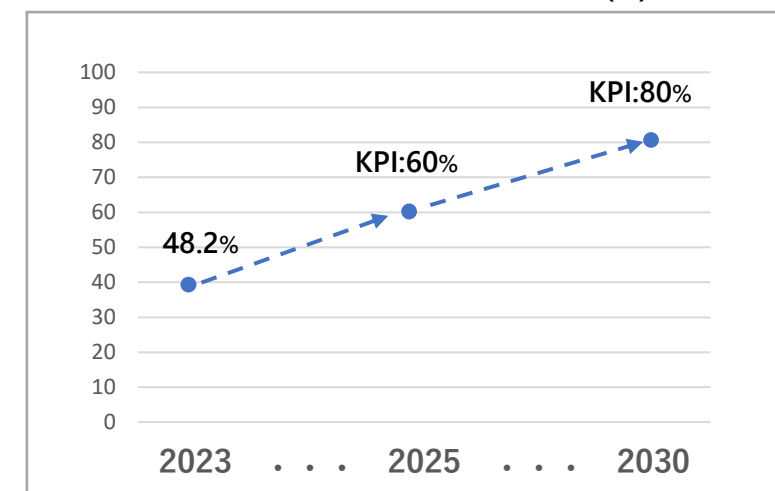
ZEH率 (%)



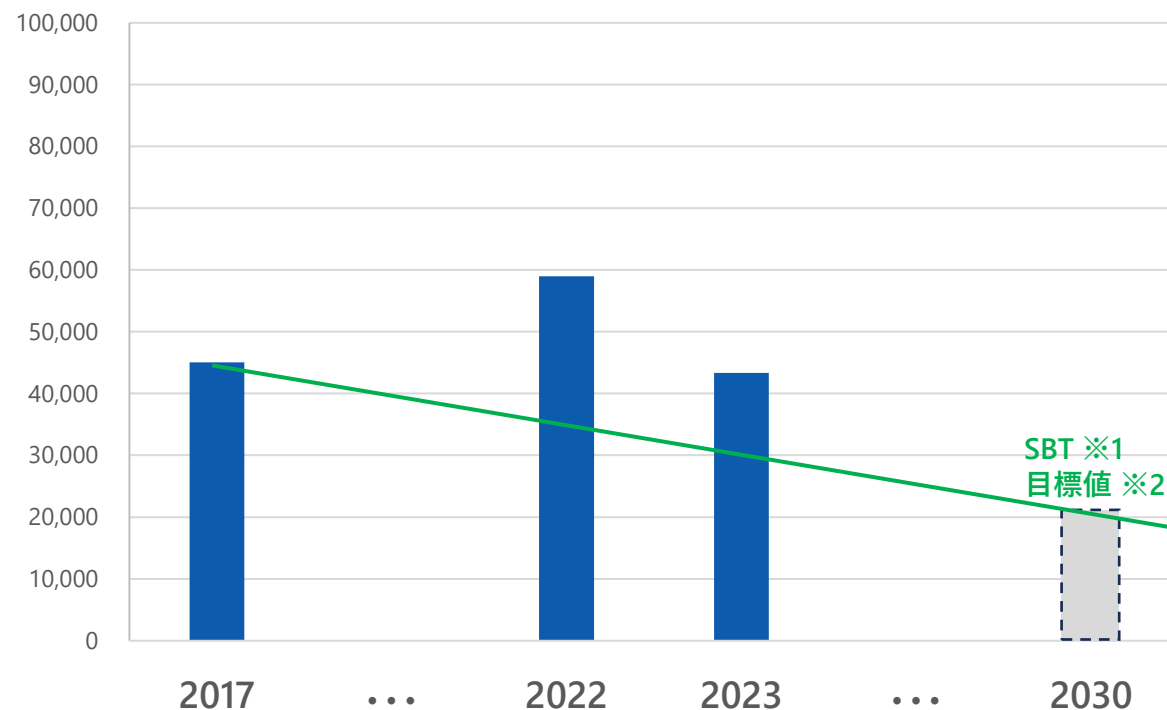
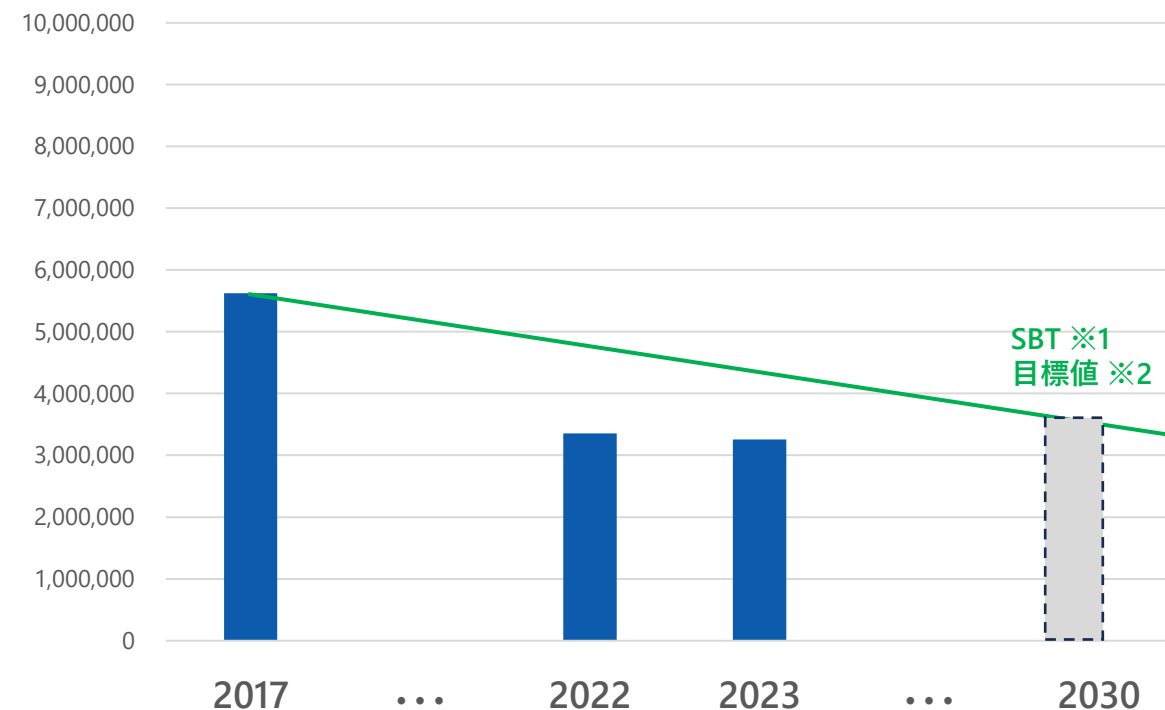
ZEH-M率 (%)



サプライヤーエンゲージメント (%)



# 気候変動への取組

SCOPE1+2 排出量 (t-CO<sub>2</sub>)SCOPE3 排出量 (t-CO<sub>2</sub>)

※1 SBT (Science Based Targets) : パリ協定 (世界の気温上昇を産業革命前より2°Cを十分に下回る水準 (Well Below 2°C : WB2°C) に抑え、1.5°Cに抑えることを目指すもの) が求める水準と整合した、5年~15年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標

※2 当社が2022年に取得したSBT【1.5°C目標】の認定

- ・SCOPE 1 + 2 : 2017年度比55%のGHGを削減
- ・SCOPE 3 : 2017年度比35%のGHGを削減

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



# 生物多様性への取組

## まちもりの推進・木材調達

|              | 単位 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 対象                               |
|--------------|----|--------|--------|--------|----------------------------------|
| ◎まちもりの採用率 ※1 | %  | -      | 24.0   | 30.5   | 旭化成ホームズ(株) 国内事業<br>HEBEL HAUSを対象 |
| 木材調達量 ※2     | m3 | 54,967 | 51,879 | 46,522 |                                  |
| 国産木材の使用率 ※3  | %  | 37.5   | 36.7   | 44.6   |                                  |

※1：外構請負物件の内、「まちもり」の定義に合致した率 「まちもり」の定義：「中・高木」「低木」「地被」のうち、3以上の階層構造を有した植栽の採用  
※2：内装仕上げ、内外装下地への木材使用量  
※3：木材調達量のうち、国産材の割合

